青森県埋蔵文化財調査報告書　第215集

朝日山(3)遺跡

－東北電力新青森変電所建設工事に伴う遺跡発掘調査報告－

１９９７年3月

青森県教育委員会

序

青森平野の周辺には、三内丸山遺跡や小牧野遺跡を始め、多くの埋蔵文化財包蔵地が確認されております。

青森県教育委員会では、東北電力新青森変電所建設工事に伴う青森市朝日山(3)遺跡発掘調査を行い、本書はその結果をまとめたものであります。

今回の調査によって、本遺跡は竪穴住居跡に掘立柱建物跡が付随し、その周りを外周溝が巡るという、特殊な建物跡が意図的に配置された平安時代の集落跡であることが明らかになりました。

この成果が、今後埋蔵文化財の保護と活用に役立つところがあれば幸いに存じます。

最後に、平素より埋蔵文化財の保護に対しご理解を賜っている東北電力株式会社ならびに青森市教育委員会と発掘調査の実施及び報告書の作成にあたり、御指導、御協力を賜った関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

１９９７年3月

青森県教育委員会

教育長　松森　永祐

例　　言

1　本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが平成７年度に実施した東北電力新青森変電所建設事業に伴う青森市朝日山（３）遺跡の発掘調査報告書である。なお、平成８年度に事業名称を「東北電力青森変電所昇圧増設工事」と変更しているが、本書では発掘調査を行った平成７年度の事業名をそのまま用いている。

2　本報告書は青森県埋蔵文化財調査センターが編集作成した。なお、執筆者名は文末に付した。

3　発掘調査時呼称していた遺構名を次のとおり変更した。竪穴住居跡は外周溝・掘立柱建物跡などと組み合わされるものについては、「建物跡」を用いることとした。したがって第７号竪穴住居跡以外のものは建物跡としている。また、改築されている建物跡についてはその建物跡番号に１００を足した数字で呼称した。たとえば第２号建物跡については、第１０２号建物跡として第２号建物跡のすぐ次に記載している。これに伴って改築のある建物跡のピット番号及びセクション・ポイント名は、改築前・後の通し番号を付している。

4　挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。なお、遺物写真の縮尺は不同である。

5　土層等の色調観察には1993年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』（小　山正忠・竹原秀雄1993）を使用した。

6　竪穴住居跡の主軸方位は記号で表示した。掘立柱建物跡は梁行方向・桁行方向の長軸を基準線とした。

　柱間寸法は、各柱間寸法の平均値で示し、メートル法から曲尺に換算する場合は１尺を30.3cmとした。

7　竪穴遺構、竪穴住居跡等の壁高に関して、本遺跡は傾斜地に立地していることから西壁は遺存しているが東壁は遺存していない。急激に傾斜していることから北壁と南壁の一部が残っており、壁高は一定していない。したがって、北壁と南壁の壁高の計測値は、土層断面図における高さを数値化した。

8　遺構図版中の「Ｐ－１」、「Ｐ－２」、‥‥は土器を表し、「Ｐit１」、「Ｐit２」‥‥はピット番号を表している。

9　図中で表したスクリーン・トーンの表示は次頁に示すとおりである。

10　土器の実測にあたり、口縁部及び底部が４分の１以上残存する場合は努めて図上復元を試みた。ただし、割れ口については省略した部分もあり、実際の土器の形状と異なるものもあることを予めお断りしておく。なお、遺物観察表中の計測値で、口径及び底径については推定される数値を、器高については現存値を（　）内に示している。

11　遺構の実測や資料の鑑定及び同定、分析については次の方に委託した（順不同、敬称略）。

遺構の実測（一部）	シン技術コンサル株式会社
放射性炭素年代測定	学習院大学教授　木越邦彦

12　本報告書に掲載した地形図（遺跡位置図）は、建設省国土地理院発行の５万分の１の地形図を複写して使用した。

13　引用・参考文献については巻末に収めた。文中に引用した文献名については著者名と西暦年で示した。

14　発掘調査における遺物の出土総量は、ダンボール箱13箱であった。それらの出土遺物・実測図・写真等は、現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

15　発掘調査及び報告書の作成にあたり、次の諸氏並びに各機関から御教示、御指導をいただいた。（順不同、敬称略）

羽柴直人（岩手県埋蔵文化財センター）、井上雅孝（滝沢村教育委員会）、相沢清利（多賀城市埋蔵文化財センター）、伊藤博幸、池田明朗、高橋千晶（水沢市埋蔵文化財センター）、田中寿明（東北町教育委員会）、長尾正義（三沢市教育委員会）、小山彦逸（七戸町教育委員会）

図版スクリーントーン表示

〈遺構図面〉

貼床範囲

焼土範囲（火床面）

炭化材
流入ローム範囲

崩落ローム範囲

〈遺物図面〉

内面黒色処理
火ダスキ

煤状炭化物
羽口の溶着物

羽口内面付着物

羽口加熱痕
石器タタキ痕
粘土（化粧土）付着物

石器スリ痕

目　　次

序
例言
目次
第１章　調査要項と調査方法、調査の経過、基本土層 …… 1
第１節　調査要項 …… 1
第２節　調査方法 …… 2
第３節　調査の経過 …… 2
第４節　遺跡内の基本土層 …… 3
第２章　検出遺構と出土遺物 …… 6
第１節　遺構の配置 …… 6
第２節　建物跡 …… 6
第３節　竪穴住居跡 …… 57
第４節　掘立柱建物跡 …… 59
第５節　竪穴遺構 …… 59
第６節　土坑 …… 61
第７節　柱穴群 …… 67
第３章　遺構外の出土遺物 …… 69
第４章　自然科学的分析調査の成果 …… 70
第１節　放射性炭素年代測定 …… 70
第５章　まとめ …… 71

☆引用・参考文献 …… 72
☆写真図版 …… 73
☆報告書抄録 …… 88

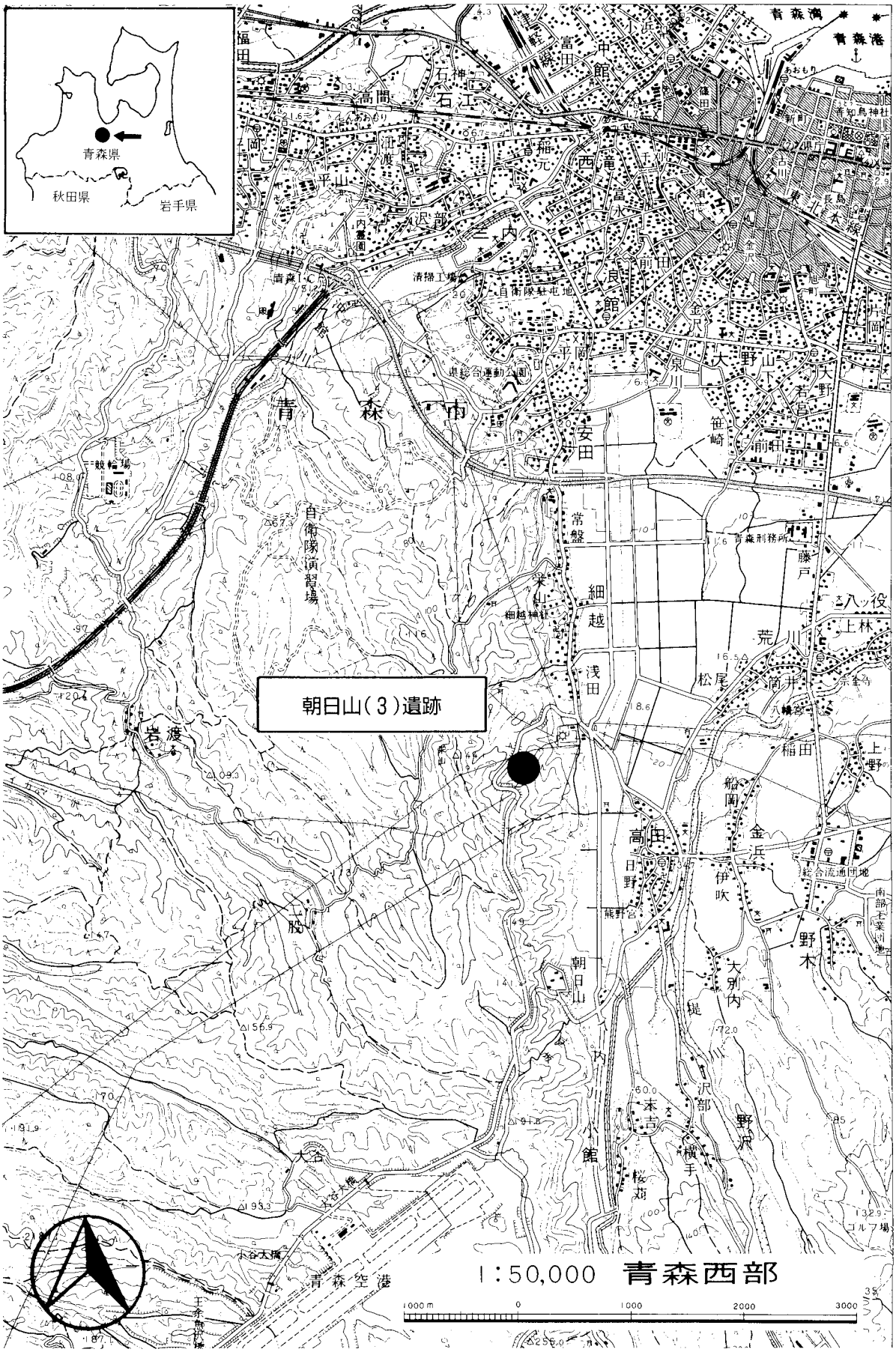


図1　遺跡位置図

第１章　調査要項と調査の経過、調査方法

第１節　調査要項

1　調査目的

東北電力新青森変電所建設工事の実施に先立ち、当該地区に所在する埋蔵文化財の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

2　発掘調査期間　　平成７年９月４日から平成７年１０月３１日まで

3　遺跡名及び所在地　朝日山（3）遺跡［県遺跡番号　０１１９８］
　　青森市高田字朝日山８０１、外

4　調査面積　　７，３００平方メートル

5　調査委託者　　東北電力株式会社

6　調査受託者　　青森県教育委員会

7　調査担当機関　　青森県埋蔵文化財調査センター

8　調査協力機関　　青森市教育委員会　東青教育事務所

9　調査参加者

調査指導員	村　越　　潔	青森大学教授（考古学）
調査協力員	池　田　　敬	青森市教育委員会教育長
調　査　員	高　島　成　侑	八戸工業大学教授（建築史）
	市　川　金　丸	青森県考古学会会長（考古学）
	山　口　義　伸	青森県立板柳高等学校教諭（地質学）

10　発掘担当者　　青森県埋蔵文化財調査センター

調査第二課	課　長	鈴木　克彦
	主　査	奈良岡　淳
	主　事	神　　康夫
調査補助員	溝江　京子、田中　禎、佐々木　聖由、本間　小夜佳	

第2節　調査方法

朝日山（3）遺跡は青森市西部丘陵地の東端部、特に栄山（標高144m）の東方約500mの地点に位置している。朝日山（1）遺跡は本遺跡の東側に、朝日山（2）遺跡は北東側に隣接しており、両遺跡とも最近では平成2年度から4年度にかけて発掘調査を行っており、縄文時代の墓壙群や平安時代の集落跡などが発見されている。本遺跡は平成5年度にも小丘地と丘陵地の間にある小谷部分の調査が行われており、平安時代の集落跡が検出されている。今回の調査区は5年度の調査区西側に接し、丘陵地の東縁上に位置するA地区（標高60～80m）と、丘陵地と中位段丘の境界にあたる小谷の出口部分にあるB地区（標高52～67m）の2地点である。

今回の朝日山（3）遺跡A地区は、平成5年度において表土剝ぎ及び遺構の確認をすでに終了している。B地区が途中から追加されたが傾斜がきつく、人力での表土剝ぎ及び粗掘りが危険であること、遺物の出土をみなかったことから重機を用いてローム面まで掘り下げた。したがって、層序ごとに遺構の有無を確認する分層発掘は行うことができなかった。

今回の調査にあたっては新たなグリッドを設定せず、遺跡全体を網羅する平成2年度から平成5年度にかけて継続して使用されてきた4mグリッドをそのまま用いることとした。グリッドの呼称についても北方向にアルファベットの大文字を、西方向は算用数字を当てることを踏襲し、この組み合わせによって、南東方向の杭の番号をもって呼称した。グリッドの南北軸線は、磁北から6.7度東へ偏っている。

遺構の精査は、必要に応じて適宜セクションベルトを設けて行った。実測は簡易遣り方測量と、リフティング・ケーブルカメラ（空中撮影）による遺構の実測を併用した。縮尺は20分の1を原則としたが、10分の1、40分の1等、遺構の規模等により適宜縮尺を変えて実測した。遺構の番号は種類ごとに付し、確認順あるいは調査着手順に命名した。

土層の名称は、基本層序については、表土から下位にローマ数字を、遺構内堆積土については上位から下位に算用数字を各々付した。土層観察に当たっては、『新版標準土色帖』（小川正忠、竹原秀雄1993）を用い、注記した。

写真撮影は適宜行うこととし、主としてカラーリバーサル及びモノクロームの2種類のフィルムを用いた。ただし、遺構や遺物の状況に応じてカラープリントやインスタントカメラも使用した。

遺物の取り上げは、グリッド単位あるいは遺構ごとに行い、必要に応じて平面図の作成、標高の記録を行うこととした。

（神　康夫）

第3節　調査の経過

9月4日、調査を開始する。調査器材の搬入及び収納、調査区域確定のロープ張り、ごみ拾いや草刈りなどのいわゆる環境整備を行った。年度当初の予定地区をA地区、追加地区をB地区とした。A地区は、平成5年度の調査時に本調査区を遺構確認面まで粗掘りを終了していたが、調査区北側から再度遺構を確認しながらジョレンがけを始めた。B地区は、重機による表土剝ぎを行った。

翌日から、グリッド設定のための杭打ちを行った。グリッドの呼称は、平成５年度に繋ぐ形を取った。９月13日までに、Ａ地区で建物跡８軒、竪穴遺構２基を確認し順次精査に入った。

Ｂ地区は、Ａ地区以上に傾斜がきついことに加え、連日の降雨で地肌が一層滑りやすく思いの外遺構確認に手間取ったが、９月14日、調査区東端部に建物跡を１軒検出した。９月下旬ごろから雨天が続き、急斜面での調査は決して順調とは言えなかったが、９月26日、Ｂ地区の建物跡の精査が終了したため、Ｂ地区1,300㎡を原因者側へ引き渡した。Ａ地区では、９月末でさらに建物跡１軒、土坑９基、掘立柱建物跡１軒、柱穴群２ケ所を検出し、調査区内に所在する遺構はすべて確認し、精査に入ることができた。

建物跡の竪穴住居部分と外周溝からは平安時代の土師器や須恵器が出土し、出土状態によってはその状況を微細に実測しながら精査を続けた。

10月に入ってからも雨天の日が多く、遺構実測の能率化を図るため、リフティングケーブルカメラによる空中写真撮影を併用して遺構実測を行った。

建物跡９軒の内、５軒で住居の拡張が認められ、中には拡張に伴って住居のカマド側（南側）に掘立柱建物を増築し、合わせて外周溝も作り替えているものもあることが判明した。

10月末、カマドの精査を終了した建物跡から順次完掘状態の記録写真と遺構実測用のリフティングケーブルカメラによる空中写真撮影を行い、精査を終了させていった。

10月31日、発掘調査器材と遺物をトラックで搬出し、発掘調査を終了した。

（奈良岡　淳）

第４節　遺跡内の基本土層

朝日山（３）遺跡は青森市西部丘陵地の東端部、特に栄山（標高144ｍ）の東方約500ｍの地点に位置している。本遺跡は平成５年度にも小丘地と丘陵地の間にある小谷部分の調査が行われており、平安時代の集落跡が検出されている。今回の調査区は５年度の調査区西側に接し、丘陵地の東縁上に位置するＡ地区（標高60～80ｍ）と、丘陵地と中位段丘の境界にあたる小谷の出口部分にあるＢ地区（標高52～67ｍ）の２地点である。

本遺跡の地理及び地形に関しては『朝日山遺跡Ⅱ』に詳述されており、そちらを参照いただきたい。調査において分層発掘を行っていないが、基本層序の概略を以下に記して留めることとする。なお地質に関して、本調査の調査員である青森県立板柳高等学校教諭山口義伸氏に御教示をいただいた。

盛土　平成５年度に表土剝ぎ及び遺構確認のため掘り上げた排土を盛ったものである。

Ⅰａ層　暗褐色土（層厚20～38cm）

表土。粘性・湿性少なく、ソフトな感じ。草根が多量混入し、乾きやすくもろい。全体的にやや砂質である。

間層　斜面を流れる流れによる未淘汰の砂で、窪地にみられる。（層厚０～５cm）

Ⅰｂ層　黒褐色土（層厚16～30cm）

粘性・湿性あり、上部がやや堅くしまっているが、下半部はややソフトである。草根かなりあり。

全体的にやや砂質である。

Ⅱａ層　黒色腐食質土（層厚6～14cm）

粘性・湿性あり、堅さはあるがややしまりに欠ける。上半部（あるいはⅠｂ層との境界部）に流水による砂層あり。

Ⅱｂ層　暗褐色土（層厚10～22cm）

粘性・湿性あり、ややしまっている。Ｂ－Ｔｍ（苫小牧火山灰）ブロック状に混入、炭化物の粒子も含む。

Ⅲ層　黒色腐食質土（層厚17～40cm）

粘性・湿性あり、堅くしまっている。粘土粒・ローム粒の混入がみられる。

Ⅳａ層　暗灰褐色土（層厚4～16cm）

漸移層の上層である。粘土・ローム粒の混入多い。

Ⅳｂ層　灰褐色ローム質土（層厚3～13cm）

漸移層の下層である。粘性・湿性あり、堅くしまっている。ローム質。

Ⅴ層　明黄褐色ローム

基本はロームであるが、やや砂質で円礫の混入も多いことから崖錐性堆積物と考えられる。Ⅴ層下位に崖錐性の砂礫が厚く堆積している。なお千曳層は確認されず、本遺跡は八甲田第一期火砕流である鶴ヶ坂層を基盤としている。

（神　康夫）

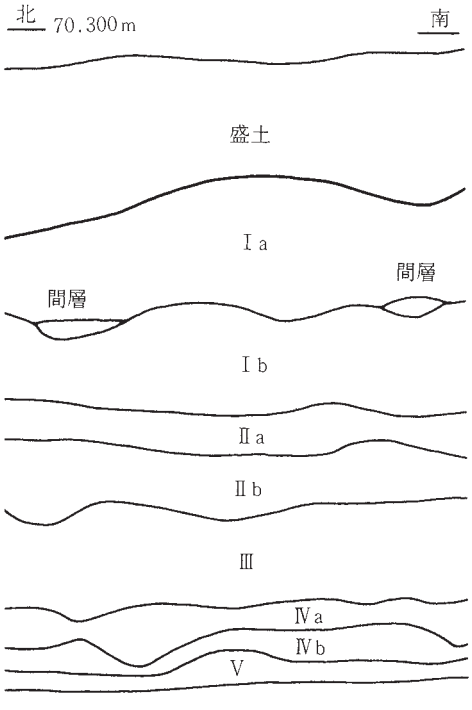


図２　基本土層（YE-95グリッド）

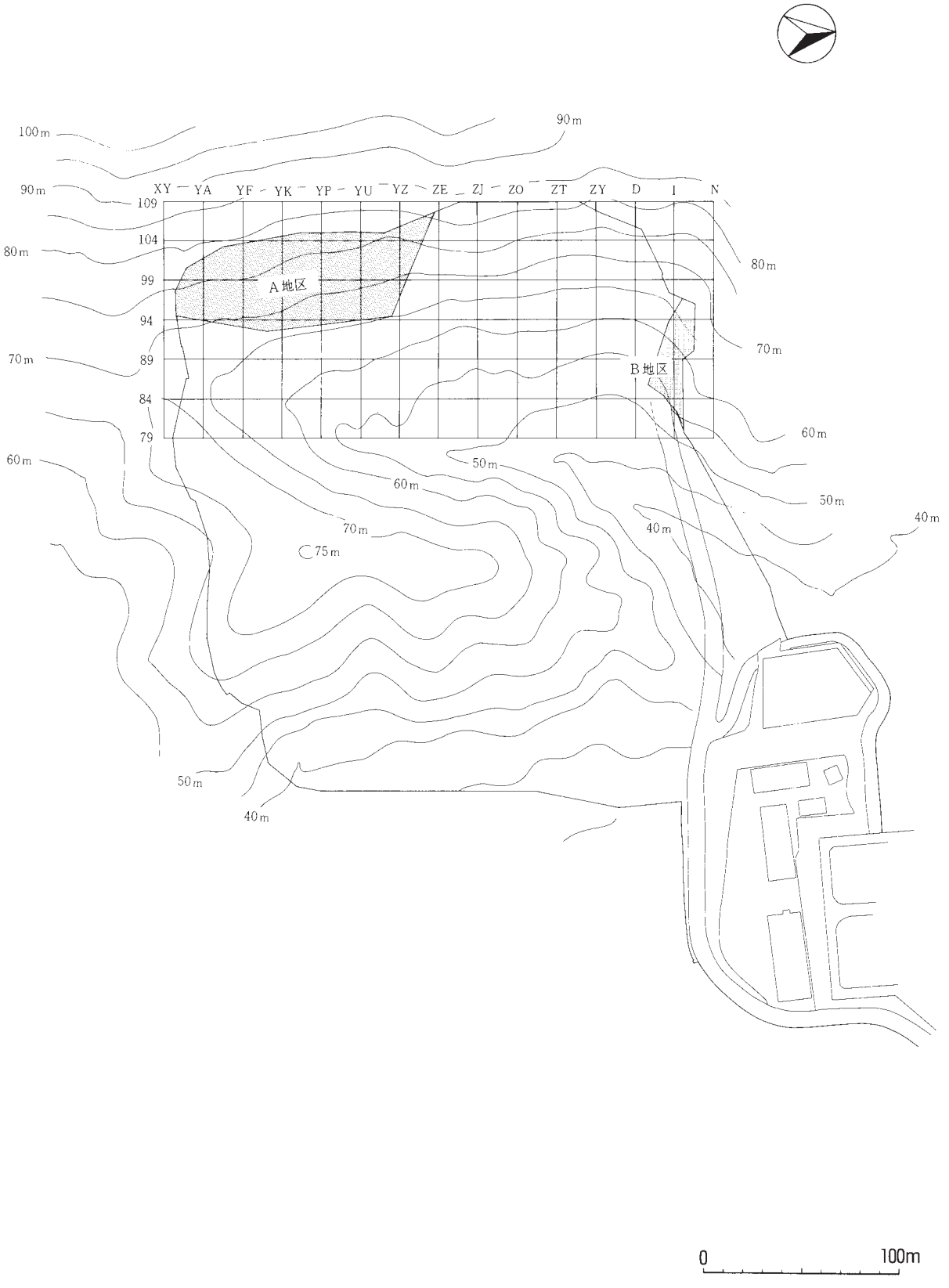


図３　地形図及びグリット配置図

第2章　検出遺構と出土遺物

第1節　遺構の配置

今回の調査区は、東側に急激に傾斜している斜面上であるが、その中で建物跡8軒、竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1軒、竪穴遺構2基、土坑9基が検出された。その内竪穴住居跡1軒がB地区から検出されたもので、他はすべてA地区において検出されたものである。A地区の7軒のうち、竪穴部分と外周溝を改築しているものは5軒（第2、3、5、6、9号建物跡）、外周溝のみの改築が1軒（第8号建物跡）ある。各遺構と標高との関係は以下のとおりである。標高77～78mに第6・106号建物跡、標高74～75mに第8号建物跡、第3・103号建物跡、第1号建物跡、標高72～73mに第7号竪穴住居跡、第2号竪穴遺構、第5号建物跡、標高70～72mに第9・109号建物跡、第2・102号建物跡、第1号竪穴遺構、標高52～53mに第4号建物跡が位置し、土坑群と単独の掘立柱建物跡は標高74～76mに配置されている。　（神　康夫）

第2節　建物跡

本遺跡では、竪穴住居跡と外周溝、掘立柱建物跡がセットとなっているものはそれら一連のものを含めて「建物跡」と呼称することとした。竪穴住居跡もしくは主屋となる居住空間の可能性がある部分を「竪穴部分」、掘立柱建物跡部分を「掘立部分」、これらの周りに巡らされた溝を「外周溝」として事実記載を行う。出土遺物は竪穴部分、掘立部分、外周溝という出土位置の区別をせずに、土師器坏、甕、須恵器坏、壺、甕、その他の順に器種ごとに記載している。

以下個々の建物跡について記述していく。　（神　康夫）

第1号建物跡（図5～図6）

[位置・確認] Y・Z－102・103に位置する。

[重複] なし。

[概要] 竪穴部分の山側やや南西寄りに、不整形の外周溝が巡る。全体の規模は南北長8m、東西幅7mを測るが、掘立柱建物跡は付随していない。

[出土遺物] 竪穴部分から土師器甕（1・2・3）・須恵器甕(4)の破片が出土している。

竪穴部分

[平面形・規模] 東壁は遺存していないが、南壁辺408cm、西壁辺416cm、北壁辺388cmを測ることから平面形は方形を呈するものと思われる。主軸方位はS－3.2°－Wで、床面積は推定11.5m²を測る。

[壁・床] 西壁は床面からやや開き気味に立ち上がり、南壁及び北壁は急な立ち上がりを呈する。壁

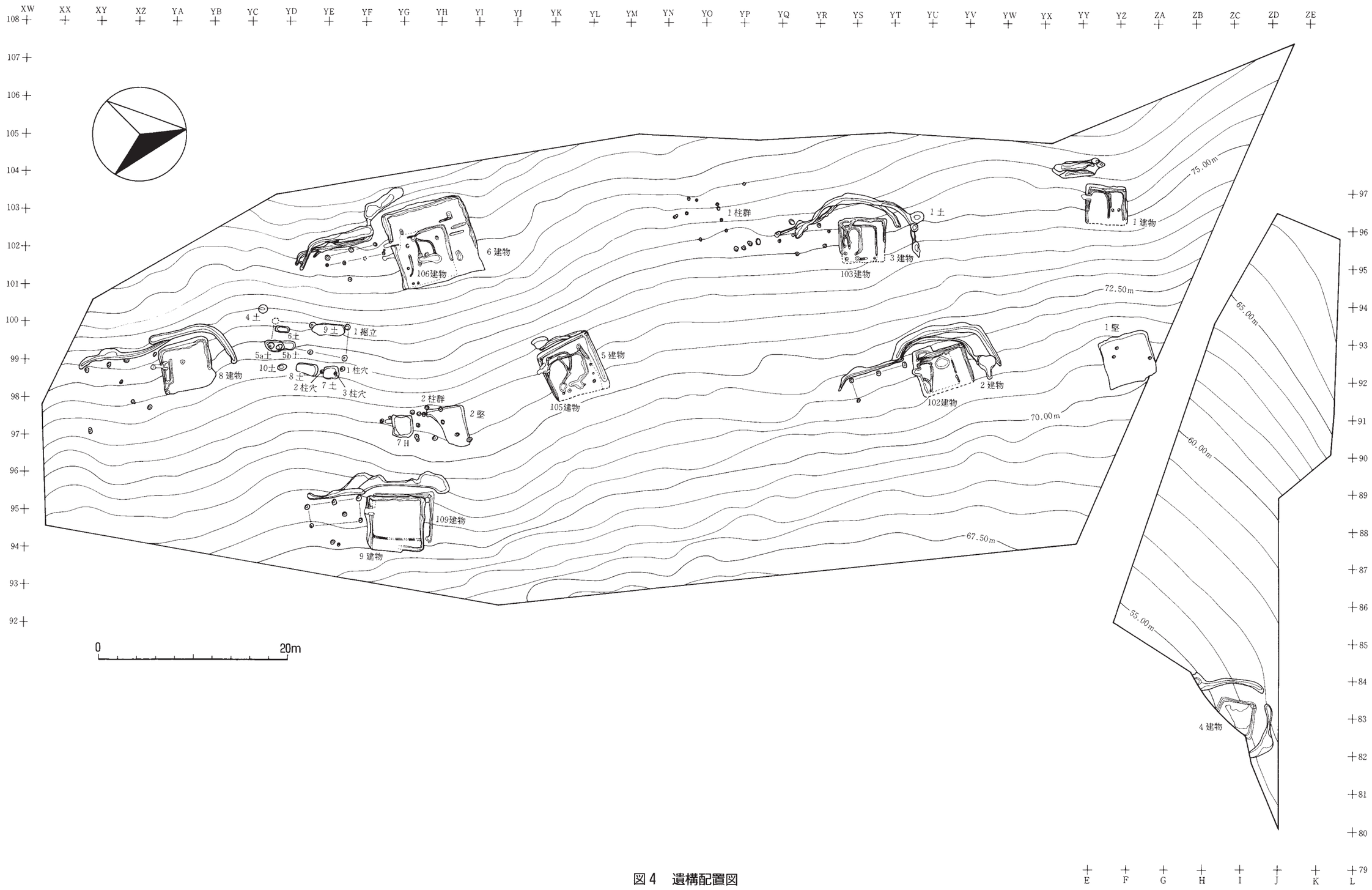

XW XX XY XZ YA YB YC YD YE YF YG YH YI YJ YK YL YM YN YO YP YQ YR YS YT YU YV YW YX YY YZ ZA ZB ZC ZD ZE
108 107 106 105 104 103 102 101 100 99 98 97 96 95 94 93 92
97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79
E F G H I J K L
75.00m
72.50m
70.00m
67.50m
65.00m
60.00m
55.00m
6 建物
106建物
1 柱群
1 土
3 建物
103建物
1 建物
4 土
6 土
9 土
1 掘立
5a土
5b土
10土
8 土
2 柱穴
7 土
3 柱穴
1 柱穴
8 建物
5 建物
105建物
2 柱群
2 堅
7 H
1 堅
2 建物
102建物
109建物
9 建物
4 建物
0
20m

図４　遺構配置図

高は南壁で43㎝、西壁で66㎝、北壁で52㎝を測る。床面は地山を床とし、東半部がやや谷側に向かって傾斜するが西半部はほぼ平坦である。

［壁溝］ 南壁、西壁、北壁の各壁の直下から検出し、幅10～25㎝、深さ5㎝～15㎝を測る。

［ピット］ ピットは４個検出した。その内ピット１とピット２は、壁柱穴の可能性がある。

［カマド］ 南壁のやや西壁寄りに位置し、遺存状態は比較的良好である。火床面は両袖の先端部から長径33㎝、短径25㎝の楕円状で火床面後方から被熱した土師器坏が伏せた状態で出土した。支脚として使用されたものと思われる。袖はロームで構築されており、芯材は使用していない。天蓋部は確認できなかったが、カマド前方の床面に一部被熱したロームブロックが堆積していたことから、崩落した天蓋部の可能性もある。煙道部・煙出孔は、南壁から35㎝外側へ突き出ており、煙道部は煙出孔に向かって緩やかに上っている。

［その他の施設］ 床面中央には、不明瞭ながら断面が台形状の盛り上がりが２条東西に伸び、西壁直下の壁溝の土手を形成しながら南北に分岐し、一方は南壁の中央付近まで、他方は北壁の東端付近まで各々壁溝の内側を沿うように巡っている。したがって、床面が南北に二分割されている形になっている。

［堆積土］ ロームと黒褐色土の混合土で人為堆積と思われる。床面に多量の炭化物が堆積し、覆土５層、８層にも多量の炭化物が混入していることなどから、本建物跡は焼失家屋の可能性がある。

掘立部分

検出されなかった。

外周溝

［形態・規模］ 南北長が最長で570㎝、東西幅142㎝～162㎝を測る不整形な長方形を呈する。

［壁・底面］ 断面形状が半円形で、壁と底面の境界は不明瞭である。セクション面の観察から、作り替えがなされた可能性がある。

［関連土坑］ 検出されなかった。

［堆積土］ セクション面の観察から、人為堆積と思われる。

（奈良岡　淳）

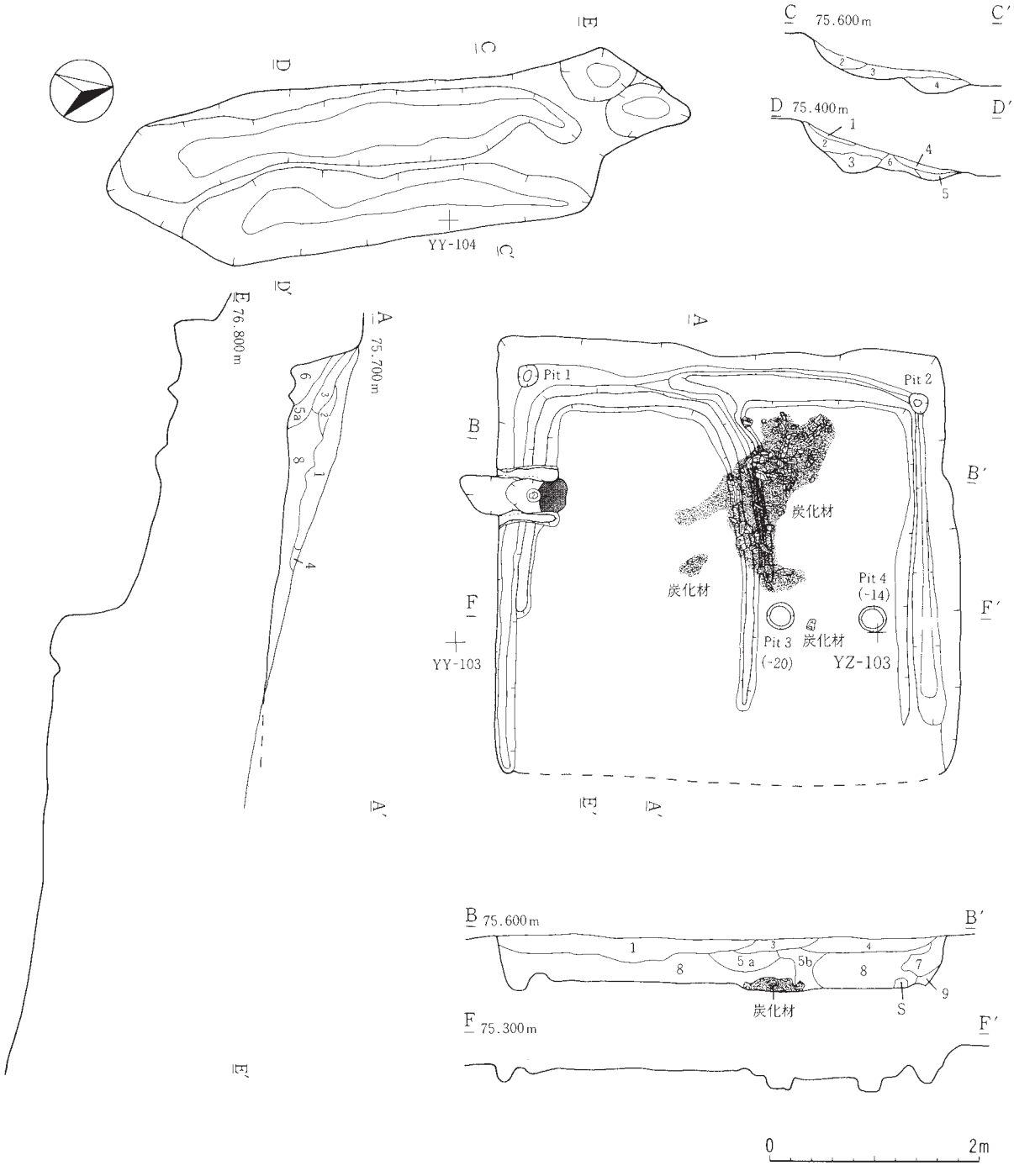
第２号建物跡（図７～図10）

［位置］ ＹＴ－98・99、ＹＵ－98・99、ＹＶ－98・99の各グリッドにまたがって位置している。

［重複］ 第102号建物跡は、本建物跡の拡張前のものである。

［概要］ 本建物跡は当初１軒の建物跡として確認されていたが、改築がなされていることが判明したことから、新しい建物跡を第２号建物跡、古い方を第102号建物跡として記録することとした。本建物跡は、第102号建物跡の竪穴部分と外周溝を拡張したもので、拡張に伴って掘立柱建物跡を付属しなかったものと思われる。全体の規模は、南北の長さ11ｍ、東西の幅は推定８ｍである。

［出土遺物］ 土師器では、内面黒色処理を施した坏（１・２）、甕（３～９）があり、須恵器では坏（10・11）、壷（12・13）、甕（14・15）がある。土製品では甑の底板（16）、石器は砥石（17・19）、敲磨器



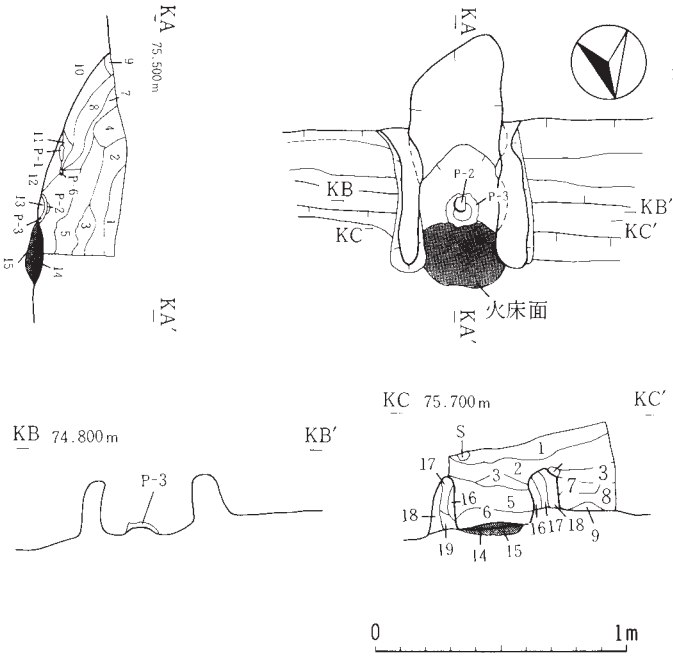
第1号建物跡（AA′ BB′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量、炭微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量。
第3層	黒色土	10YR2/1	ローム・炭少量。
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量。
第5層	黒色土	10YR2/1	ローム少量、炭微量。
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・炭少量。
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、炭多量。
第8層	褐色土	10YR4/4	ローム・炭多量、礫（φ10mm）1個。
第9層	褐色土	10YR4/4	礫（φ20mm）2個。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム微量。
第11層	黒色土	10YR1.7/1	

第1号建物跡　外周溝（CC′ DD′セクション）

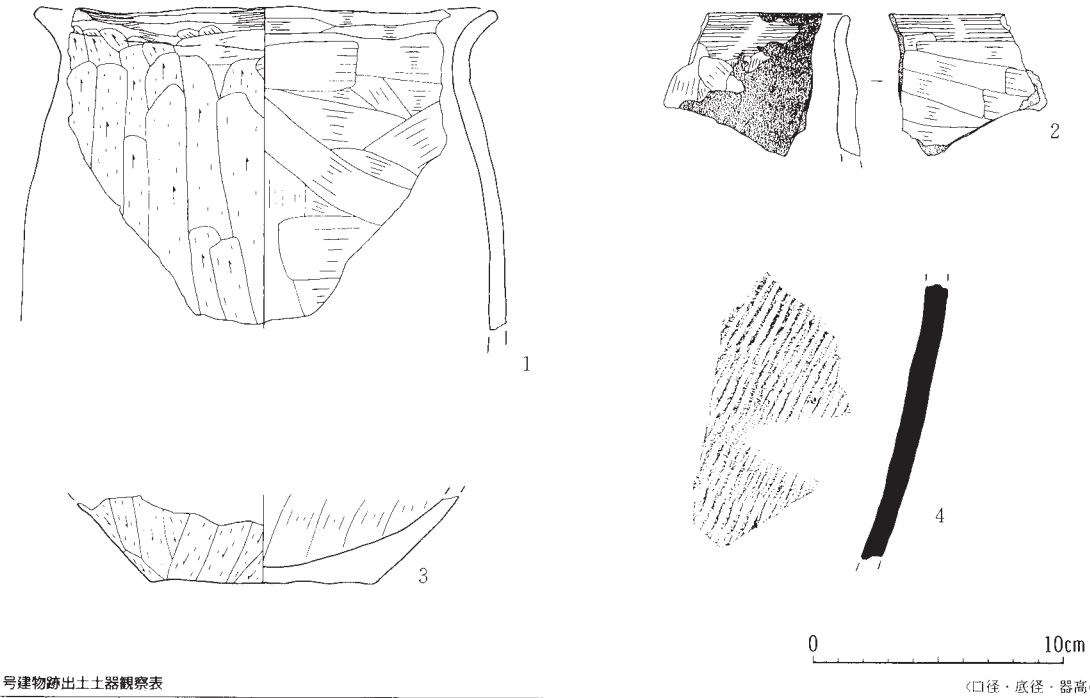
第1層	黒褐色土	10YR3/2	黒色土（10YR2/1）微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム微量、炭少量、砂礫微量。
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量、礫（φ2～30mm）、炭微量。
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム微量、炭微量。
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム多量、小礫（φ5～8mm）微量。
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム多量、ローム質土少量、炭少量、礫（φ2～40mm）。

図5　第1号建物跡（1）



第１号建物跡　カマド（KAKA′　KBKB′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・炭・焼土少量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム少量、層下部に炭少量。
第３層	黒褐色土	10YR3/3	ローム多量、層下部にL.B（φ30mm）焼土（φ10mm）炭少量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・炭・焼土多量。
第５層	黒褐色土	10YR3/1	ローム・炭・焼土少量。
第６層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・炭・焼土微量。
第７層	黒褐色土	10YR2/3	焼土多量。
第８層	暗赤褐色土	5YR3/2	層下部に焼土（2.5YR3/2）を層状に混入。崩落した天蓋部か。炭微量。
第９層	黒褐色土	10YR2/2	焼土微量。
第10層	暗赤褐色土	5YR3/6	層下部ほど堅い。
第11層	黒褐色土	10YR2/3	炭・焼土少量。
第12層	暗褐色土	10YR3/4	礫（φ10mm）。
第13層	にぶい褐色土	2.5YR4/3	炭微量。
第14層	赤褐色土	2.5YR4/6	火床部。
第15層	赤色土	10YR4/6	火床部。
第16層	褐色土	7.5YR4/6	ローム質土。小礫（φ２～３mm）少量。堅く、締まりあり。
第17層	暗褐色土	7.5YR3/4	ローム質土。炭微量、黒色土(10YR2/1) 少量、小礫（φ２mm）少量。
第18層	にぶい褐色土	10YR5/3	ローム質土。小礫（φ２～３mm）少量、炭微量。
第19層	暗褐色土	7.5YR3/3	ローム質土。炭微量、小礫（φ２mm）少量。



第１号建物跡出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種　類	器　種	部　位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備　　考	分　類	整理番号
1	土師器	甕	口縁部	カマド(右袖上) YY-103.フ	(18.4)	－	(12.8)	ナデ,ヘラケズリ	ヘラナデ				1
2	土師器	甕	口縁部	外周溝 YX-104.フ	－	－	(5.7)	ヨコナデ,ナデ	ヨコナデ,ナデ		外面に煤状炭化物付着		2
3	土師器	甕	底部	カマド床面 YY-103	－	9.0	(3.6)	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂底	P-3		3
4	須恵器	大甕	胴部	外周溝 YX-104.フ	－	－	－	タタキ	ナデ？				5

図６　第１号建物跡（２）

の可能性があるもの（18)、鉄製品は木部の残存している刀子（20・21）がある。また、縄文時代では前期（22)、中～後期（23）の土器片、石鏃の破片（24）も出土している。

竪穴部分

[平面形・規模] 南壁辺527㎝、西壁辺764㎝を測ることから、この規模で方形の平面形態を呈するものと思われる。北壁辺は410㎝検出されたが、東壁辺は遺存していない。主軸方位はＳ－3.6°－Ｗで、張り出し部分も含めた床面積は、推定26.5㎡である。

[壁・床] 壁高は、南壁辺68㎝、西壁辺58㎝、北壁辺54㎝を測る。床面は、貼床を施して平坦に整えられている。

[壁溝] 東壁を除く各壁において、幅19～38㎝、深さ４～10㎝の壁溝が検出された。また、張り出し部分にも幅27～35㎝、深さ８㎝の壁溝が巡っている。

[ピット] 北西隅と南西隅、張り出し部分北西隅で壁溝と重なるようにして小さなピット状の落ち込みがみられる他は、特にピットは検出されなかった。

[カマド] 南壁のやや西よりに構築されており、遺存状態は比較的良好である。煙道部がかなり短い半地下式のカマドで、粘土によって袖や天蓋部が作られている。袖に芯材は用いておらず、内側は被熱して赤色化している。貼床の床面をそのまま火床面としており、36×23㎝の長円形を呈している。

[その他の施設] 床下を巡る溝と張り出し部分とがある。幅18～36㎝、深さ10㎝程度の床下溝が、竪穴部分南半においてカマドを取り囲むように構築されている。第102号建物跡床面精査中に検出された土坑状の落ち込みも、床下溝と同じような目的で作られた可能性もある。また、長軸が110㎝、短軸が70㎝の長方形を呈する張り出し部分が西壁南側に構築されている。この張り出し部分の面積は0.5㎡で、床面のレベルは竪穴部分の床面と同じレベルとなっており、ここにも床下の溝が巡っている。

[堆積土] 堆積土は15層に分層され、自然堆積と思われる。

掘立部分

[規模] 第102号建物跡からの改築の際、作られなかったものと思われる。

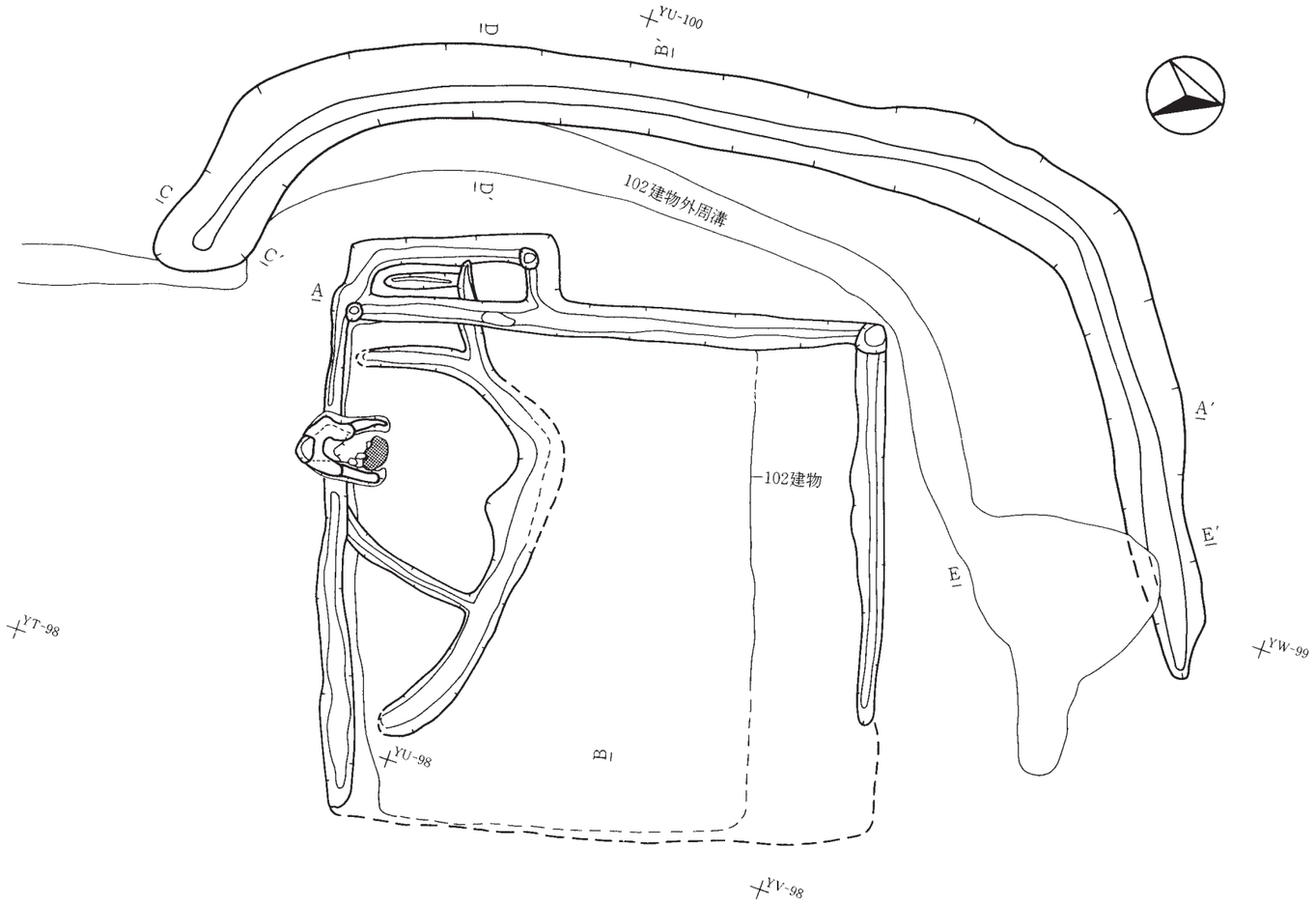
外周溝

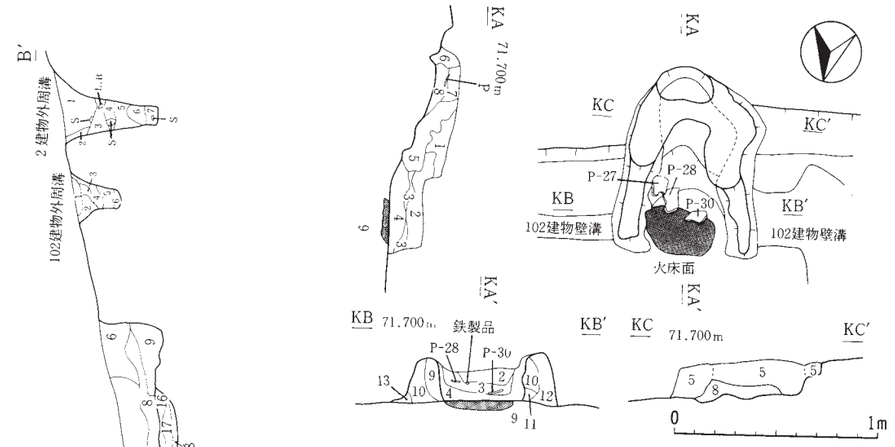
[形態・規模] 第102号建物跡外周溝よりやや北側に長い弧状で、北西隅がやや直角的に曲がる形状を呈しており、斜面上方にあたる竪穴部分の西側に構築されている。長さは13.2ｍ確認され、幅60～98㎝と差があるが、おおむね80㎝前後の一定の幅で巡っている。深さは竪穴部分の東側で深く120㎝前後で、北側では60㎝前後と徐々に浅くなって外周溝がなくなる。

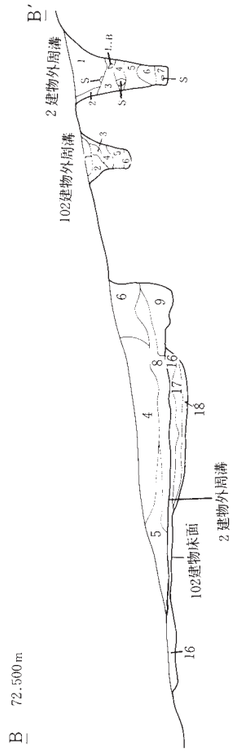
[壁・底面] 断面形状は、下側が細くなる薬研状を呈しており、底面の幅は15～20㎝程で凹凸が少ない。壁は急角度で立ち上がり、上方はやや角度が開いている。北端は深さ30㎝程度で断面形状は「コ」字状を呈している。

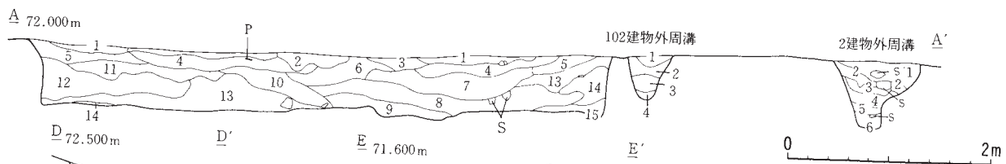
[関連土坑] 特になし。

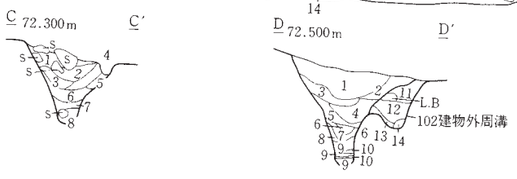
[堆積土] 堆積土は10層に分層された。外周溝全体に、ロームと自然礫が覆土中位にまとまって流入している。本建物跡の周囲では礫層が露呈していることから、上方の土砂が崩れて一気に外周溝に流











第２号建物跡　カマド（KAKA′　KBKB′　KCKC′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ＬＢ多量、焼土微量、炭少量。
第２層	暗褐色土	10YR3/4	ローム中量、焼土少量、炭少量。
第３層	暗褐色土	10YR3/3	ローム微量、焼土多量、炭少量。
第４層	暗褐色土	10YR3/4	焼土多量、炭少量（下になるにつれて、にぶい赤褐色焼土(5YR4/4)になる。）
第５層	褐色土	10YR4/6	ローム，小礫多量、黒褐色土(10YR2/2) 少量、焼土微量 炭微量、下部近辺に暗褐色土(7.5YR3/4)。
第６層	黒褐色土	10YR2/3	焼土、炭ごく微量。
第７層	暗褐色土	10YR3/3	ローム、焼土、炭多量。
第８層	暗褐色土	10YR3/3	焼土少量、炭微量。
第９層	赤褐色土	5YR4/8	小礫、炭少量。
第10層	にぶい褐色土	5YR4/4	褐色土(10YR4/4) 少量、ローム，炭少量
第11層	暗褐色土	5YR3/4	黒褐色土(10YR2/3) 多量、焼土、炭微量。
第12層	黄褐色土	10YR5/6	ローム，小礫少量。
第13層	暗褐色土	10YR3/4	ローム，焼土、炭微量。

第２号建物跡　外周溝（BB′セクション）

第１層	黒色土	10YR2/1	ローム、砂礫、小礫（φ５～８mm）中量、炭微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム多量、炭微量。
第３層	黒褐色土	10YR3/2	ローム多量、L.B １個、赤褐色焼土(5YR4/6)微量、砂礫、炭少量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	礫（φ1.２～２cm）中量、ローム、砂礫、炭少量。
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム微量、砂礫中量、小礫（φ３～８mm）、炭多量。
第６層	黒褐色土	10YR3/2	ローム、小礫（φ２～５mm）中量、礫（φ３～４cm）少量。
第７層	黒褐色土	10YR3/2	ローム多量、小礫（φ２～６mm）多量。

第102号建物跡　外周溝（BB′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、小礫（φ２～４mm）中量、炭微量。
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム中量、炭微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム、砂礫少量、小礫（φ２～５mm）微量、炭微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム微量、小礫（φ５～８mm）微量、黒色土(10YR1.7/1) 少量、炭微量。
第５層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量、砂礫微量。
第６層	黒色土	10YR2/1	ローム中量、砂礫中量、小礫（φ２～３mm）少量。

第２号建物跡（AA′　BB′セクション）

第１層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量、小礫（φ２～５mm）微量、砂礫微量、炭微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量、砂礫中量、炭微量。
第３層	黒色土	10YR2/1	ローム微量、砂礫少量、赤褐色焼土(5YR4/8)微量、炭微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、小礫（φ２～５mm）少量、砂礫中量、炭少量。
第５層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量、小礫（φ５～６mm）少量、砂礫少量、炭微量。
第６層	黒色土	10YR2/1	小礫（φ２mm）少量混入、炭微量。
第７層	黒色土	10YR2/1	ローム中量、小礫（φ２～４mm）少量、赤褐色焼土(5YR4/8)微量、炭微量。
第８層	黒色土	10YR2/1	ローム中量、小礫（φ３～６mm）少量、にぶい赤褐色焼土(5YR4/4)微量、炭微量。
第９層	黒褐色土	10YR2/2	ローム多量、L.B（５×８cm）、赤褐色焼土(5YR4/8)微量、炭微量。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム多量、小礫（φ２～４mm）多量、砂礫少量、黒色土(10YR1.7/1) 少量、炭微量。
第11層	黄褐色土	10YR5/6	ローム質土層、小礫（φ５～７mm）少量、黒褐色土(10YR3/2) 少量、炭少量。
第12層	黒褐色土	10YR2/2	ＬＢ（５×10cm）３個混入、黒色土(10YR1.7/1) 多量、炭少量。
第13層	黒褐色土	10YR2/2	ローム多量、小礫（φ３～５mm）少量、砂礫中量、10cmの黒色土(10YR1.7/1) 、炭少量。
第14層	黒褐色土	10YR2/2	ローム多量、小礫（φ３～６mm）多量、10cmの黒色土(10YR1.7/1) 、炭微量。
第15層	黒褐色土	10YR2/2	ローム中量、小礫（φ５～10mm）中量、大きな石２個、炭少量。

第102号建物跡（２建物掘り方　BB′　KK′セクション）

第16層	暗褐色土	10YR3/4	ローム多量、黒色土(10YR1.7/1) 少量、焼土微量、炭微量。
第17層	黒褐色土	10YR3/1	ローム中量、L.B(φ30mm) １個。
第18層	褐色土	10YR4/6	焼土ブロック、小礫（φ20mm）少量、下部に灰褐色土(10YR4/2) 多量混入、炭多量。

第２号建物跡　外周溝（AA′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、砂礫中量、小礫（φ２～４mm）微量、炭微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量、小礫（φ３～５mm）少量、暗赤褐色焼土(5YR3/6)微量。
第３層	黄褐色土	10YR5/6	ローム質土層、砂礫、小礫（φ１～３mm）多量、暗褐色土(10YR3/3) 少量。
第４層	黒色土	10YR2/1	ローム微量、小礫（φ５～７mm）少量。
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム中量、砂礫微量、小礫（φ２～３mm）微量。
第６層	黒褐色土	10YR2/3	ローム中量、砂礫中量、小礫（φ４～６mm）少量、炭微量。

第102号建物跡　外周溝（AA′セクション）

第１層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量、砂礫微量、暗赤褐色焼土(5YR3/6)微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、砂礫少量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム、砂礫微量、小礫（φ３～５mm）少量。
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム、砂礫多量、黒褐色土(10YR2/1) 中量。

第２号建物跡　外周溝（CC′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム微量混入。
第２層	黒褐色土	10YR3/1	ローム（φ５～50mm）中量、焼土、炭微量。
第３層	にぶい褐色土	10YR4/3	地山崩れのローム？
第４層	褐色土	10YR4/6	地山崩れのローム？
第５層	黒褐色土	10YR2/2	ローム（φ３～20mm）少量。
第６層	黒色土	10YR2/1	ローム（φ２～５mm）微量。
第７層	黒褐色土	10YR3/1	Ｂ－Ｔｍ少量、ローム、炭少量。
第８層	黒褐色土	10YR3/2	ローム（φ１～５mm）少量。

第２号建物跡　外周溝（DD′セクション）

第１層	黒色土	10YR2/1	ローム微量、Ｂ－Ｔｍ少量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	ローム中量、炭少量。
第３層	黒褐色土	10YR3/1	Ｂ－Ｔｍ微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	L.B 多量。
第５層	黒褐色土	10YR3/1	ローム中量、L.B （φ30mm）。
第６層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量、炭微量。
第７層	黒褐色土	10YR2/2	ロームと黒褐色土の混合土。
第８層	黒色土	10YR2/1	ローム少量。
第９層	黄褐色土	10YR5/8	ローム質土層、褐色土(10YR4/4) 微量。
第10層	黒褐色土	10YR2/3	

第２号建物跡　外周溝（EE′セクション）

第１層	黒色土	10YR1.7/1	ローム（φ１～30mm）中量、焼土微量。
第２層	黒色土	10YR1.7/1	Ｂ－Ｔｍ少量、ローム、炭微量。
第３層	黒色土	10YR1.7/1	Ｂ－Ｔｍ（φ30mm）微量、ロームごく微量。
第４層	にぶい褐色	5YR4/4	焼土質土層。
第５層	黒色土	7.5YR2/1	Ｂ－Ｔｍ（φ20mm）微量、焼土、炭微量。
第６層	黒褐色土	10YR2/3	ローム中量、砂との混合土。
第７層	褐色土	10YR4/6	砂の層。
第８層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量。

第102号建物跡　外周溝（DD′セクション）

第11層	黒色土	10YR2/2	ローム中量。
第12層	黒褐色土	10YR2/1	Ｂ－Ｔｍ微量。
第13層	黒褐色土	10YR3/2	ロームとの混合土。
第14層	褐色土	10YR4/6	ローム（φ５mm）の中に黒色土。

図７　第２号建物跡（１）

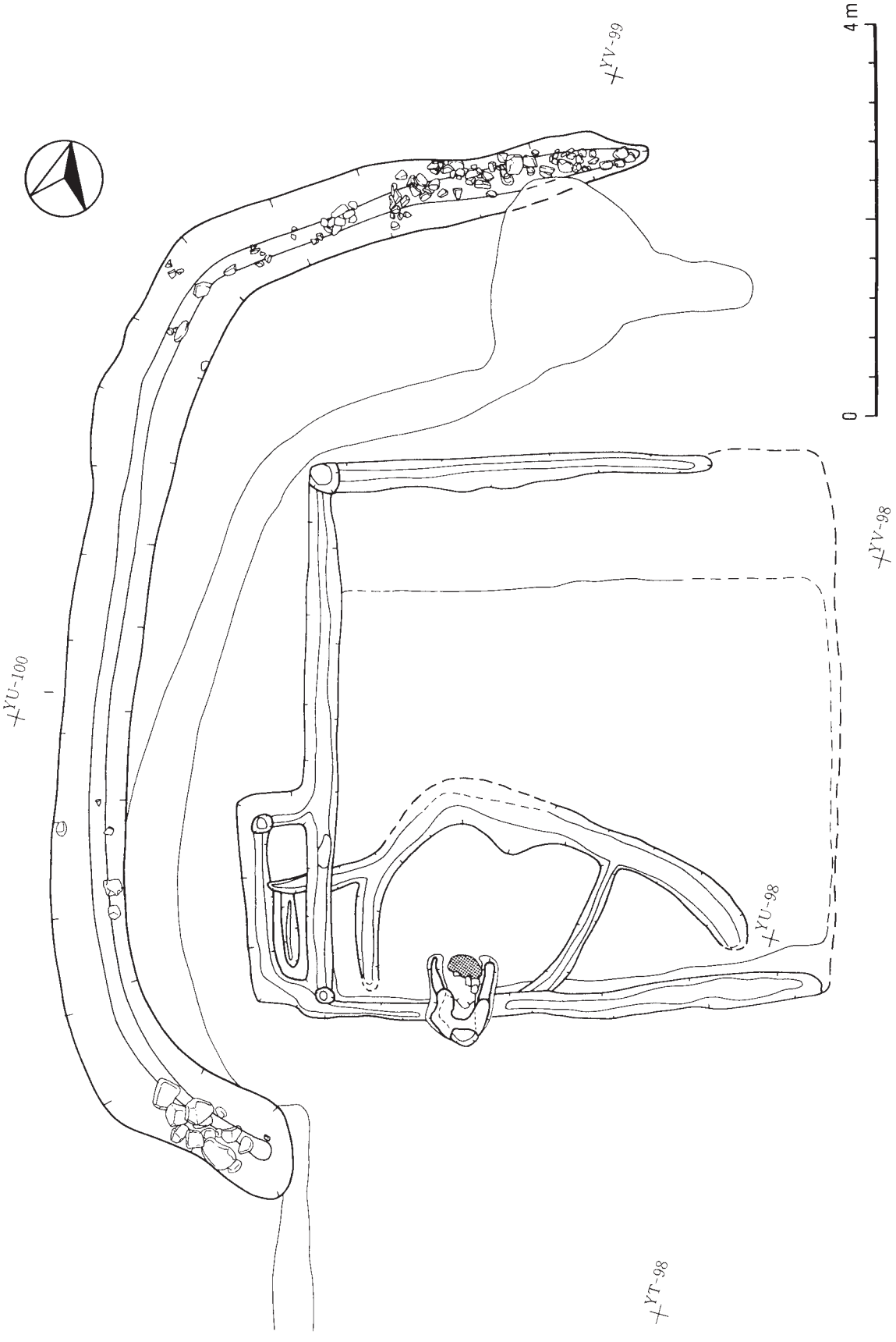
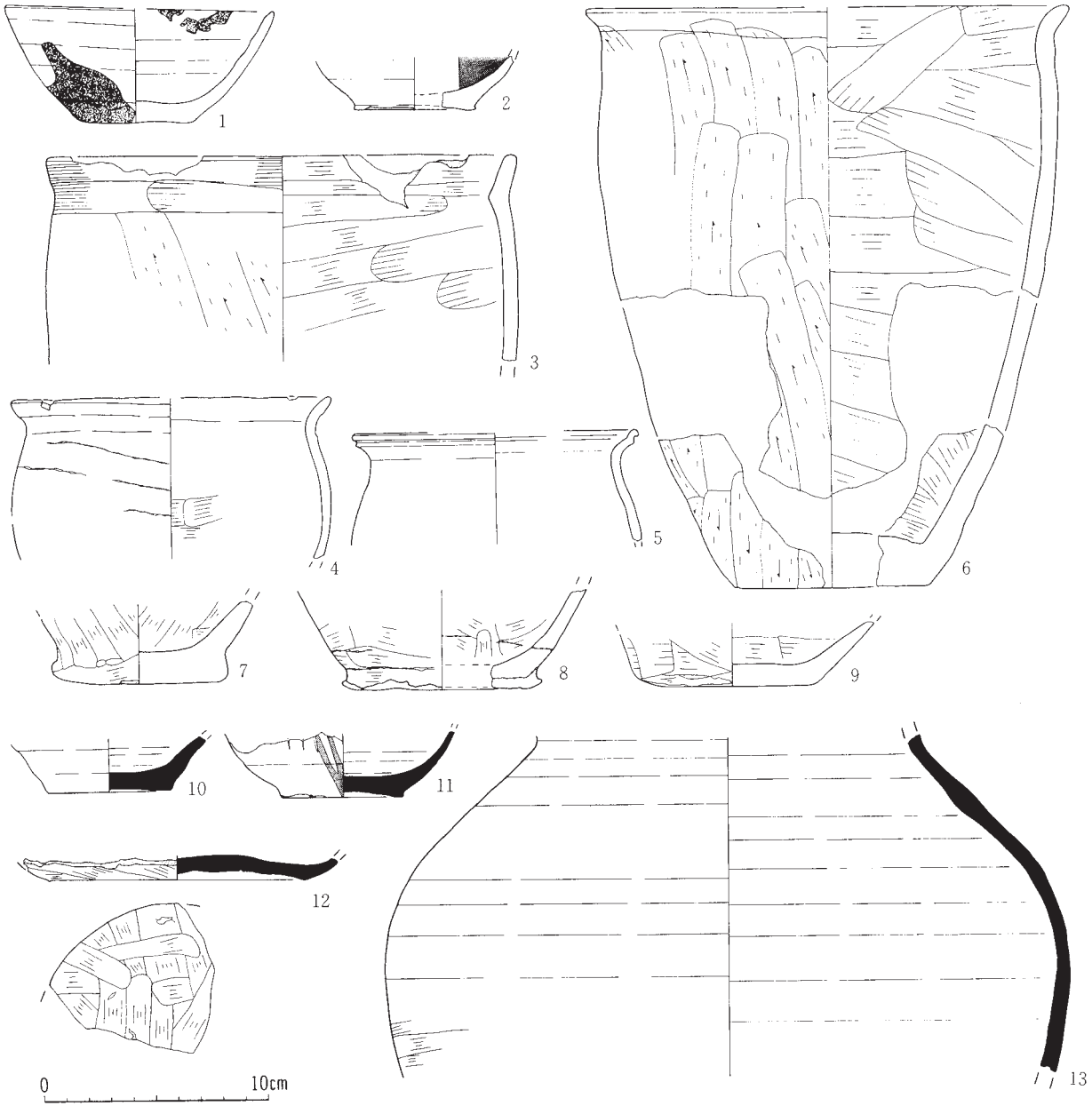


図８　第２号建物跡（２）　外周溝礫出土状況

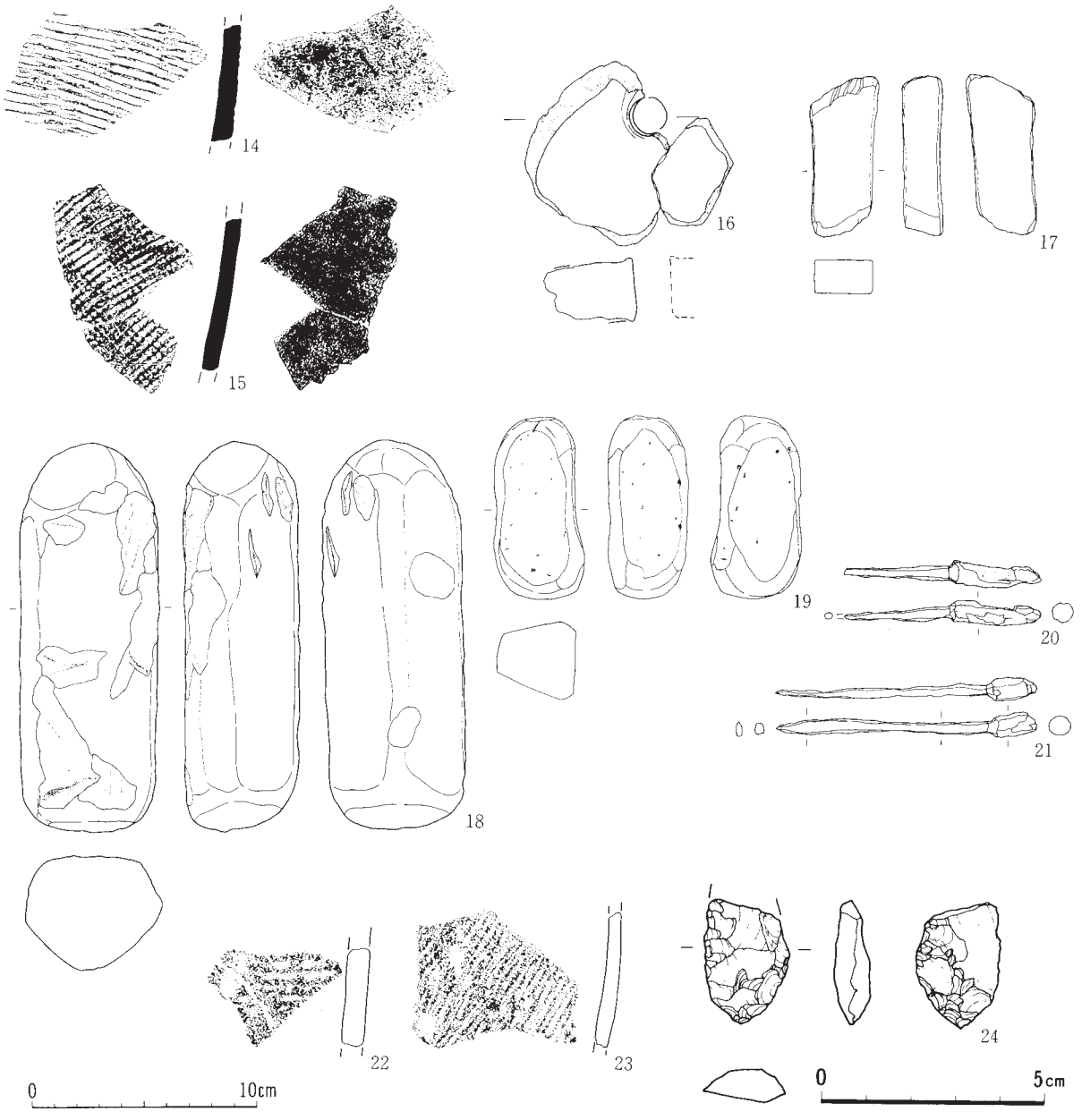


第2号建物跡出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備考	分類	整理番号
1	土師器	坏	略完形	床面	12.2	5.2	5.2	ロクロ	ロクロ	磨滅により不明	P-7,内外面煤状炭化物付着　灯明皿？		7
2	土師器	坏	底部	貼り床 Yu-98,フ	-	(5.4)	(2.4)	ロクロ	ミガキ？	回転糸切り	内黒		20
3	土師器	甕	口縁部	床直	(21.2)	−	(9.3)	ヘラケズリ,ナデ	ナデ	−	P-9,P-11		14
4	土師器	甕	口縁部	床面	(14.4)	−	(7.2)	磨滅により不明	ヘラナデ	−	輪積み痕		15
5	土師器	甕	口縁部	床面	(12.6)	−	(5.0)	ロクロ	ロクロ	−			16
6	土師器	甕	略完形	床面 外周溝A,フ	(21.4)	(8.8)	(26.1)	ヨコナデ ヘラケズリ	ヘラナデ	砂底	P-20,P-28,P-29		6
7	土師器	甕	底部	床面	−	7.9	(3.6)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	P-29		19
8	土師器	甕	底部	床面	−	(9.0)	(4.5)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	P-7,P-13,輪積み痕		98
9	土師器	甕	底部	床面	−	8.4	(2.8)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	P-1003		18
10	須恵器	坏	底部	床面	−	(5.4)	(2.4)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り			8
11	須恵器	坏	底部	カマド	−	5.2	(2.9)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り(ヘラ跡？)	刻書,火ダスキ		9
12	須恵器	壺	底部	床面	−	(11.4)	(1.0)	ヘラナデ	ナデ	ヘラナデ			10
13	須恵器	壺	底部	床面	−	−	(15.3)	ロクロ,ヘラナデ	ロクロ	−	P-37,P-40		11a

図9　第2号建物跡（3）



第２号建物跡出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種　類	器　種	部　位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備　　考	分　類	整理番号
14	須恵器	甕	胴部	外周溝Ａ YU-99,フ				タタキ	ナデ？				100
15	須恵器	甕	胴部	2建物YU-99,フ 5建物外周溝 YJ-99,フ				〃	ナデ				88
22	縄文土器	深鉢	胴部	床面				斜行縄文(ＬＲ)			P-18		J15
23	縄文土器	深鉢	胴部	YU-90,フ				不明					J3

第２号建物跡出土土・石・鉄製器観察表

図版番号	種　類	品　名	出　土　位　置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　　考	整理番号
16	土製品	甑底板	床直	93	83	29	(122.3)	P-12	12
17	石製品	砥石	張り出し部分	72	31	185	63.4	流紋岩	S-32
18	石製品	敲磨器？	外周溝Ａ,YV-99,フ	173.5	63.5	52	672.8	凝灰岩	S-27
19	石製品	砥石	床面	81.5	40.5	36	139.8	凝灰岩	S-29
20	鉄製品	刀子	カマド,フ	88	12.5	11.5	(9.7)	F-2,保存処理済	F-2
21	鉄製品	刀子	カマド,フ	117	10	10	(4.7)	F-1,保存処理済	F-1
24	石製品	石鏃？		28	19	8.5	1.9	珪質頁岩	S-31

図10　第２号建物跡（４）

れ込んだものと思われる。外周溝にある程度黒色土が堆積した後、土砂崩れによってローム・礫が入り込んでさらに自然堆積が続いたものと考えられる。

(神　康夫)

第102号建物跡（図11）

[位置] ＹＲ－98、ＹＳ－98、ＹＴ－98・99、ＹＵ－98・99、ＹＶ－98・99の各グリッドにまたがって位置している。

[重複] 第２号建物跡は、本建物跡の拡張後のものである。

[概要] 本建物跡は当初１軒の建物跡として確認されていたが、改築がなされていることが判明したことから、新しい建物跡を第２号建物跡、古い方を第182号建物跡として記録することとした。本建物跡は、竪穴部分に掘立柱建物跡と外周溝を付属するもので、全体の規模は、外周溝の土坑部分も含めた南北の長さは17ｍ、東西の幅は推定７ｍである。

[出土遺物] 土師器坏(１)、須恵器甕（２）が出土したが、第２号建物跡の貼床層と考えられる。

竪穴部分

[平面形・規模] 東壁と北壁の一部が遺存していないが、南壁辺は462㎝、西壁辺は406㎝を測ることから、おそらくこの規模の長方形を呈するものと思われる。主軸方位はＳ－7.8°－Ｗで、床面積は推定16.9㎡である。

[壁・床] 壁は第２号建物跡によって壊されているため、壁溝が検出されただけであり、壁高は不明である。西側の床面は地山を床としているが、東側では貼床を施して整えている。

[壁溝] 西壁、南壁と北壁の一部において、幅13～25㎝、深さ５㎝程の壁溝が検出された。第２号建物跡の床下溝によって所々寸断されている。

[ピット] ６個検出された。ピット１・２・３は壁溝内に作られた壁柱穴と思われ、さらに掘立部分と連結する可能性もある。

[カマド] 遺存していなかった。

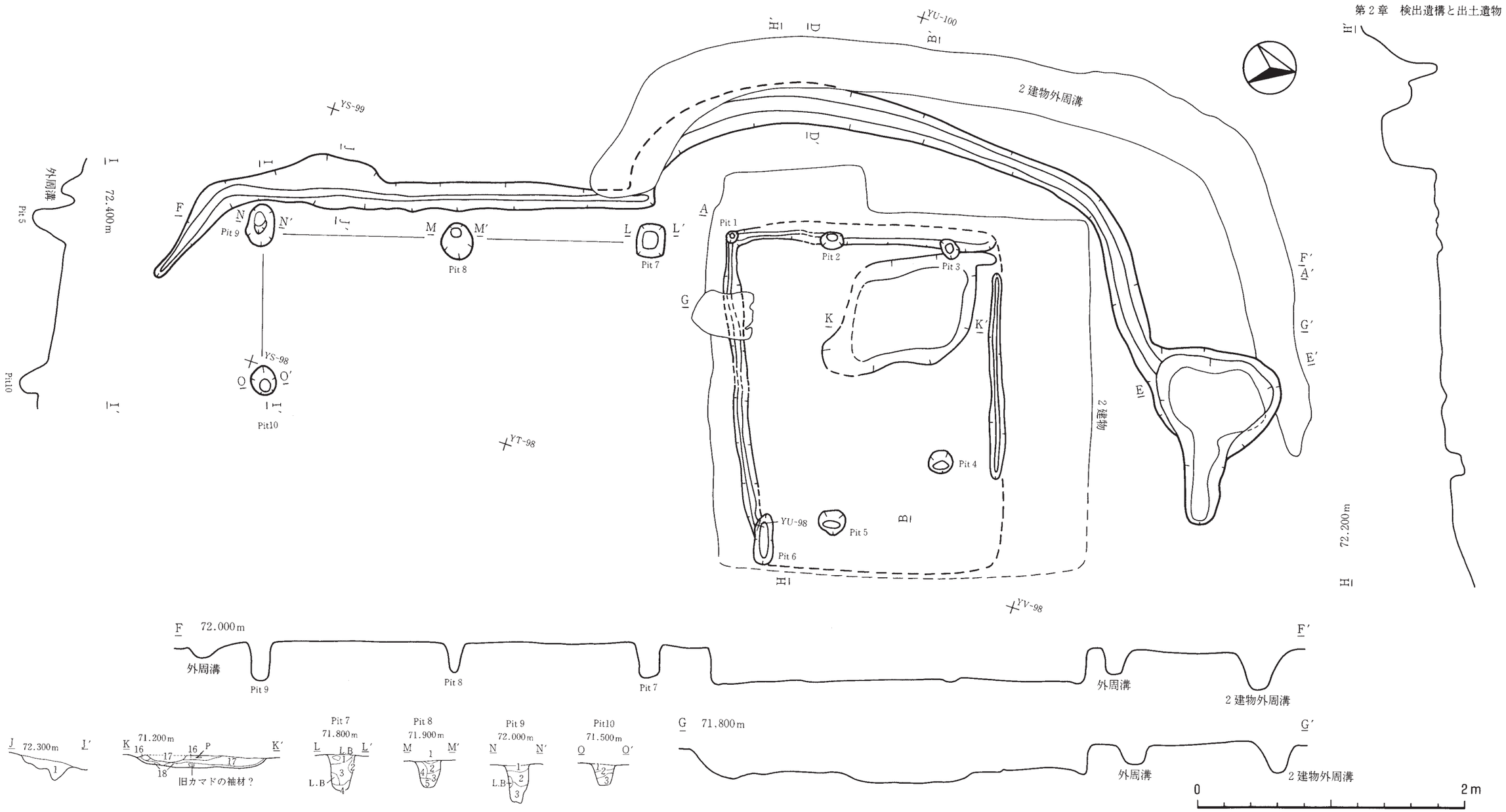
[その他の施設] 長軸300㎝、短軸178㎝の不整な方形を呈している土坑状の落ち込みが検出されている。南側が床下溝と重複し、直接的な切り合い関係が把握できなかったため、第２号建物跡の床下溝の一部である可能性もある。下部は黒色土で、上部はロームが主体であり、おそらく第２号建物跡の貼床部分にあたるものと思われる。

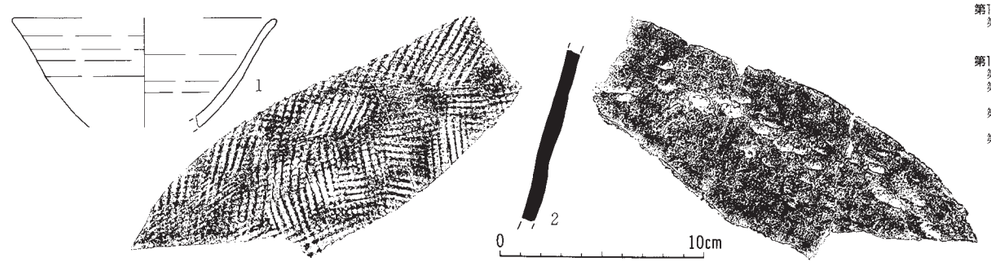
[堆積土] ロームと黒褐色土の混合土であり、第２号建物跡の貼床層にあたるものと考えられる。

掘立部分

[規模] ２間×１間の掘立柱建物跡が検出されているが、谷側の柱穴は南端の１個が検出されただけである。竪穴部分との位置関係から東西方向にもう１間分延びる可能性がある。また、竪穴部分の壁溝内にあるピット１・２・３と同一直線上にあり、一連の構造である可能性がある。南北総長は584㎝で東西総長は不明である。主軸方向はＳ－8.4°－Ｅである。

[柱間寸法] 柱間寸法は、桁行方向が292㎝（９尺６寸)、梁行方向は252㎝（８尺３寸）である。





第102号建物跡　外周溝（JJ´セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム、小礫少量、B−Tm中、炭微量混入。

第102号建物跡　Pit 7（LL´セクション）

第１層	褐色土	10YR4/4	焼土微量。
第２層	暗褐色土	10YR3/3	焼土、炭ごく微量混入。
第３層	褐色土	10YR4/6	焼土微量、ローム（φ10mm）多量。
第４層	黒色土	10YR2/1	L.B との混合土。

第102号建物跡　Pit 8（MM´セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	焼土微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム微量。
第３層	褐色土	10YR4/4	ローム多量。
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、砂礫（φ10mm）微量。
第５層	黒褐色土	10YR3/1	ローム少量。

第102号建物跡　Pit 9（NN´セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、炭ごく微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量、焼土微量。
第３層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量、砂少量。

第102号建物跡　Pit10（OO´セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ロームごく微量。
第３層	黒褐色土	10YR3/1	ローム（φ３〜８mm）微量。

第102号建物跡（２建物堀り方　BB´KK´セクション）

第16層	暗褐色土	10YR3/4	ローム多量、黒色土(10YR1.7/1)少量、焼土微量、炭微量。
第17層	黒褐色土	10YR3/1	ローム中量、L.B（φ30mm）１個混入。
第18層	褐色土	10YR4/6	焼土ブロック、小礫（φ20mm）少量、下部に灰褐色土(10YR4/2)多量混入、炭多量。

第102号建物跡出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整（文様）	内面調整（文様）	底面調整	備考	分類	整理番号
1	土師器	坏	体部上半	貼床、YU-98、フ	(13.0)	−	(5.4)	ロクロ	ロクロ				21
2	須恵器	大甕	胴部	102H床面 2H外周溝A YU-99、フ 2H外周溝B YU-99、フ				タタキ	ナデ				99

図11　第102号建物跡

外周溝

［形態・規模］ 竪穴部分の上方は弧状を呈しているが、掘立部分では直線的に延び、その南側で下方に巻き込んでいる。長さは20.5ｍ確認され、幅は50～60㎝で一定しているが、部分的に36～80㎝となる箇所がある。深さは竪穴部分で50㎝、掘立部分で30㎝ほどである。

［壁・底面］ 断面形状はおおむね「Ｕ」字状を呈しており、底面は凹凸が少ない。竪穴部分を取り囲むところでは50㎝程の深さがあるが、掘立部分では27㎝程で浅い。

［関連土坑］ 北側部分で長軸193㎝、短軸150㎝、深さ58㎝の長円形を呈する土坑が検出された。覆土中第４層は焼土を主体とする層である。砂粒が混入し、水平堆積をしていることから、流水性の自然堆積と考えられる。また、上位にはＢ－Ｔｍがブロック状に混入している。

［堆積土］ ６層に分層され、下位に砂礫が堆積しており、水性の自然堆積である。覆土中にＢ－Ｔｍがまばらに混入しており、二次堆積と考えられる。

（神　康夫）

第３号建物跡（図12・図13）

［位置］ ＹＱ－101・102、ＹＲ－101～103、ＹＳ－101～103、ＹＴ－101～103の各グリッドにまたがって位置している。

［重複］ 第103号建物跡は、本建物跡の拡張前のものである。また、外周溝の北側部分で第１号土坑と重複しており、新旧関係は不明であるが外周溝に伴う施設である可能性がある。

［概要］ 本建物跡は当初１軒の建物跡として確認されていたが、改築がなされていることが判明したことから、新しい建物跡を第３号建物跡、古い方を第103号建物跡として記録することとした。本建物跡は、第103号建物跡の外周溝と竪穴部分とを作り替えて拡張したものである。全体の規模は、南北の長さ13.5ｍ、東西の幅は推定７ｍである。掘立部分は７個のピットが検出されただけで、掘立柱建物跡が伴わない可能性がある。

［出土遺物］ 土師器甕（１～３）、用途不明の土製品（４）が出土した。また、スリ痕のある石皿の破片（５）、カマドの構築材であった可能性のある礫（６・７）も出土している。

竪穴部分

［平面形・規模］ 東側が傾斜していて遺存していないが、おそらく方形を呈するものと思われる。壁長は西壁辺504㎝で、南壁辺と北壁辺はそれぞれ350㎝、353㎝確認できた。主軸方位はＳ－6.3°－Ｗで、推定される床面積は19.4㎡となる。

［壁・床］ 壁高は、南壁辺38㎝、西壁辺17㎝、北壁辺15㎝を測る。床面は、貼床を施して平坦に整えているが、あまり堅くはしまっていない。

［壁溝］ 壁溝は南壁辺、西壁辺、北壁辺において検出され、幅は13㎝、深さは８㎝を測る。

［ピット］ ピットは検出されなかった。

［カマド］ 南壁の中央付近で焼土や礫などがまとまって出土した。礫はカマド袖の芯材となっていたものと思われ、部分的に被熱して赤色化している。火床面や煙出孔などは検出されなかったが、この礫を袖の一部として使ったカマドが、この場所に構築されていた可能性がある。

[その他の施設] 床面をはがした段階で幅20～35㎝、床面からの深さ15㎝程の床下溝が検出された。土層観察によると、第103号建物跡の覆土は本建物跡の貼床と考えられ、第103号建物跡の床面を壊して床下溝を掘り、そこに貼床を施して第3号建物跡の床面としたものと思われる。

[堆積土] ローム粒を多量に含む部分もあるが西南方向から三角状に堆積しており、自然堆積である。

掘立部分

[規模] 柱穴群として検出され、掘立柱建物が付属しない可能性がある。

外周溝

[形態・規模] 第103号建物跡外周溝よりやや北側に長い弧状を呈しており、斜面上方の西側に構築されている。長さは18.5m確認され、幅50～100㎝、深さは20～50㎝を測る。

[壁・底面] 断面形状は「U」字状を呈しており、底面は平坦に整えられている部分もある。壁は、YS－103グリッド周辺ではしっかりとした立ち上がりを見せている。南端では明瞭な溝状を呈しておらず、底面に凹凸のある不整な浅い落ち込みとなっている。

[関連土坑] YT－102グリッドで第1号土坑と重複しており、本外周溝との関連が考えられる。また、北側では外周溝が部分的に膨らんだ土坑状の落ち込みが2個検出されている。西側は径70㎝、深さ28㎝で、東側は160×70㎝、深さ25㎝である。

[堆積土] 傾斜地であるため、ローム粒が比較的多く混入しているが、黒色土・黒褐色土を主体としており、自然堆積の様相を呈している。

（神　康夫）

第103号建物跡（図14）

[位置] YP－102、YQ－101・102、YR－101～103、YS－101～103、YT－102の各グリッドにまたがって位置している。

[重複] 第3号建物跡は、本建物跡を拡張したものである。

[概要] 本建物跡は当初1軒の建物跡として確認されていたが、改築がなされていることが判明したことから、新しい建物跡を第3号建物跡、古い方を第103号建物跡として記録することとした。全体の規模は、南北の長さ14m、東西の幅は7mである。掘立部分は7個のピットが検出されただけで、掘立柱建物跡が伴わない可能性がある。

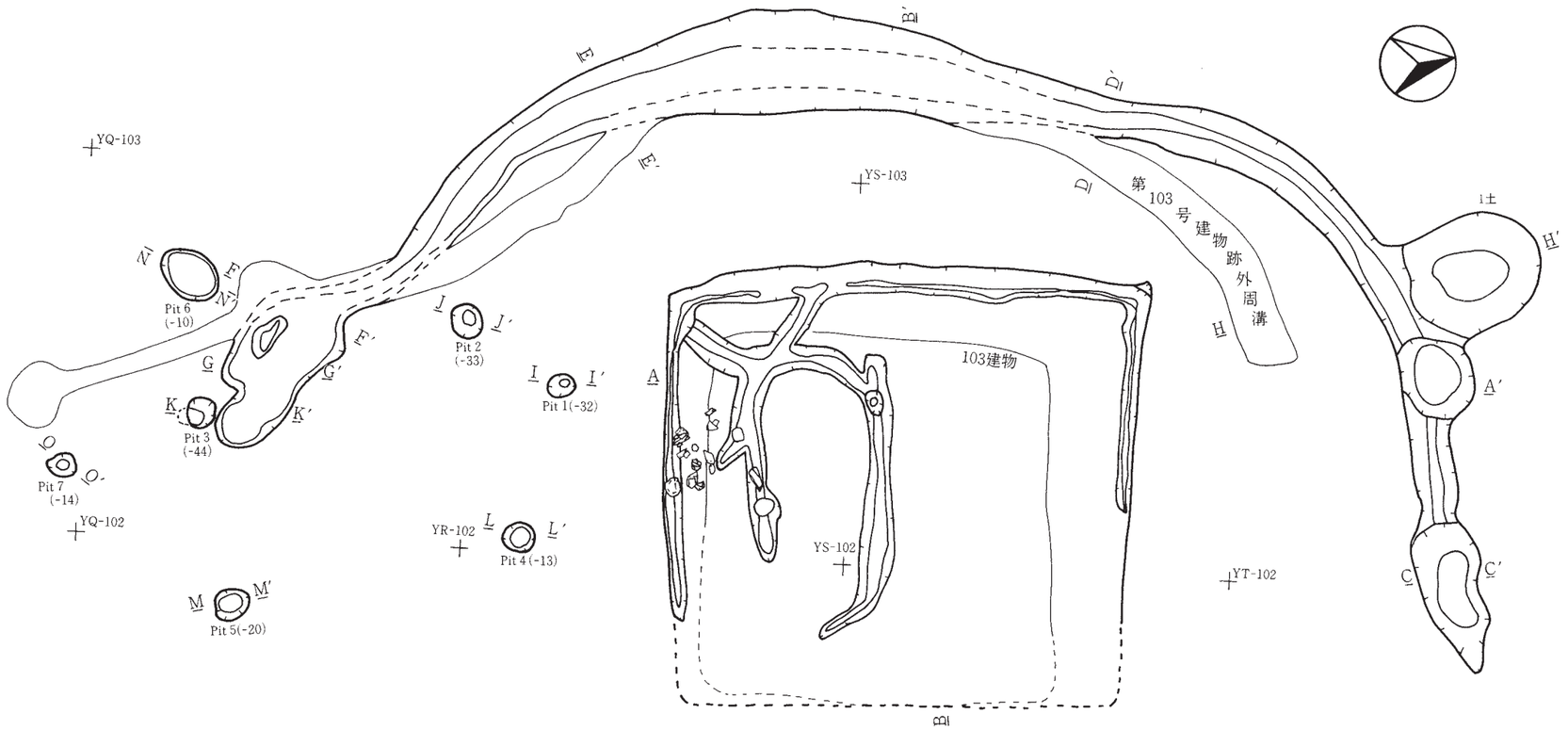
[出土遺物] 土師器甕（1）が出土している。

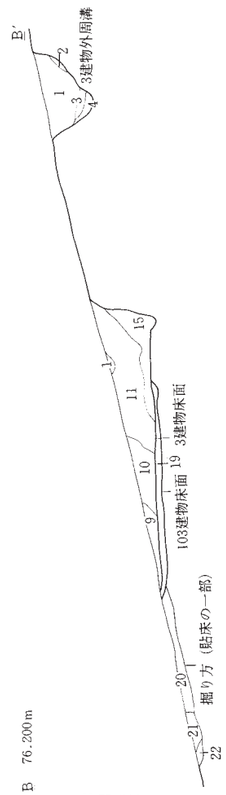
竪穴部分

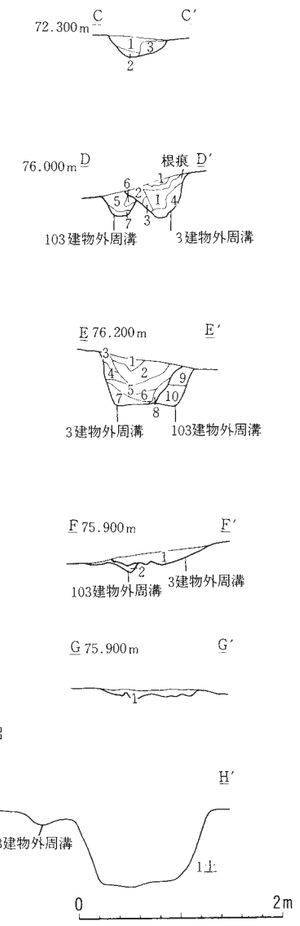
[平面形・規模] 壁溝によって本竪穴部分が検出され、東側はピットによってその規模が確認できる。一辺が350㎝の方形をなしている。主軸方位はS－6.3°－Wで、床面積は推定12.2㎡である。

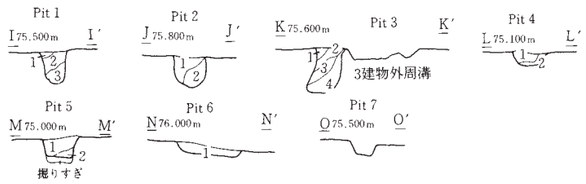
[壁・床] 壁は拡張後の建物跡である第3号建物跡竪穴部分によって壊されており、土層観察によって南壁で6㎝、北壁で3㎝確認できた。床面は地山をそのまま床面としており、平坦である。

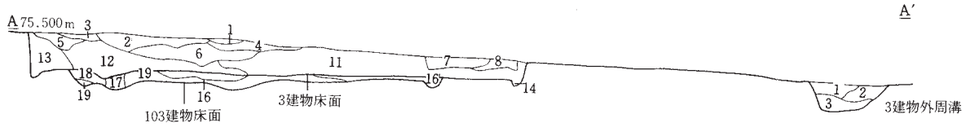
[壁溝] 壁溝は東壁以外で検出され、いずれも4㎝程度で浅い。ピット10は壁溝の一部である可能











第３号建物跡　Pit１（ＩＩ′セクション）
第１層　暗褐色土　10YR3/4　ローム多量、砂礫少量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム微量、小礫（φ２～３mm）少量、炭中量。
第３層　褐色土　10YR2/2　ローム中量、小礫（φ３～５mm）中量、炭微量。

第３号建物跡　Pit２（ＪＪ′セクション）
第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム少量、小礫（φ２～４mm）微量、炭微量。
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム中量、小礫（φ２mm大）少量、炭少量。

第３号建物跡　Pit３（ＫＫ′セクション）
第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム中量、小礫（φ３～５mm）少量、炭微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム中量、小礫（φ３～５mm）微量、炭少量。
第３層　黒褐色土　10YR4/4　ローム質土層、小礫（φ２～３mm）多量、黒色土(10YR2/1）中量、微量。
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム少量、炭多量。

第３号建物跡　Pit４（ＬＬ′セクション）
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム微量、暗赤褐色土(5YR3/6)微量、炭微量。
第２層　褐色土　10YR4/4　ローム多量、ローム質土層、小礫（φ２～６mm）中量、砂礫微量、黒色土(10YR1.7/1）中量。

第３号建物跡　Pit５（ＭＭ′セクション）
第１層　黒色土　10YR2/1　ローム中量、小石（２×３cm）１個、炭中量。
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム多量、炭微量。

第３号建物跡　Pit６（ＮＮ′セクション）
第１層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（10×６cm）１個、小礫（φ６～10mm）少量、にぶい黄褐色土(10YR4/3）、炭微量。

第３号建物跡（ＡＡ′　ＢＢ′セクション）
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム中量、小礫（φ３～５mm）微量、炭微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/3　ローム少量、黒色土(10YR2/1）少量、小礫（φ２～４mm）少量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム微量、小礫（φ２～３mm）微量、黒色土(10YR1.7/1）、極暗褐色土(7.5YR2/3)、炭少量。
第４層　褐色土　10YR4/4　ローム微量、小礫（φ１～３mm）少量、焼土微量、炭少量。
第５層　暗褐色土　10YR3/3　ローム少量、小礫（φ２～３mm）微量、黒色土(10YR1.7/1）、極暗褐色土(7.5YR2/3)、炭少量。
第６層　暗褐色土　10YR3/3　ローム少量、小礫（φ５～６mm）少量、炭少量。
第７層　黒褐色土　10YR2/2　ローム中量、小礫（φ２～４mm）少量、黒色土(10YR2/1）中量。
第８層　黄褐色土　10YR5/6　ローム質土層、小礫（φ３～５mm）少量、橙色土(5YR6/8)微量、黒色土(10YR1.7/3）、炭少量。
第９層　黒褐色土　10YR2/3　ローム少量、砂礫少量、暗褐色土(7.5YR3/4)微量、炭微量。
第10層　黒褐色土　10YR2/3　ローム中量、小礫（φ２～４mm）中量、炭少量。
第11層　褐色土　10YR3/2　ローム多量、小礫（φ３～６mm）中量、にぶい褐色土(7.5YR5/4)LB（φ５cm）床近辺２個
黒色土(10YR1.7/1）L.B（φ４×８cm）、暗褐色土(10YR3/4）中量、炭少量。
第12層　黒褐色土　10YR2/2　ローム多量、小礫（φ３～５mm）中量、赤褐色焼土(5YR4/8)微量、黒色土(10YR1.7/1）少量、炭少量。
第13層　黒褐色土　10YR2/2　ローム多量、L.B（８×５cm）、小礫（φ２～５mm）、(7.5YR4/6)褐色焼土少量、炭中量。
第14層　褐色土　10YR4/4　ローム少量、小礫（φ１～３mm）少量、砂礫中量、炭少量。
第15層　黒褐色土　10YR2/2　ローム少量、L.B（φ４×５cm）、小礫（φ２～３mm）微量、黒色土(10YR1.7/1）少量
暗赤褐色焼土(5YR3/6)微量、炭少量。
第16層　黒褐色土　10YR2/3　ローム多量、黒褐色土(10YR1.7/1）少量、焼土多量、炭少量。
第17層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　ローム多量、小礫（φ３～８mm）多量、砂礫多量、炭微量。

第103号建物跡（103建物跡貼床、ＡＡ′　ＢＢ′セクション）
第18層　褐色土　10YR4/6　黒色土多量、炭少量。
第19層　褐色土　10YR2/3　ローム少量、L.B 少量、炭少量。

第103号建物跡掘り方（ＢＢ′セクション）
第20層　暗褐色土　10YR3/4　ローム中量、L.B 少量、焼土少量、炭微量。
第21層　黒褐色土　10YR2/3　ローム多量、黒色土(10YR1.7/1）少量。
第22層　黒色土　10YR1.7/1　ローム少量、暗褐色土(10YR3/3）少量、炭ごく微量。

第３号建物跡　外周溝（ＣＣ′セクション）
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム（φ10mm）微量。
第２層　黒色土　10YR2/1　ローム中量。
第３層　黒色土　10YR2/1　ローム微量。
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム少量。炭多量。

第３号建物跡　外周溝（ＤＤ′セクション）
第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム少量。
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム（φ10mm）微量、１層より明るい。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　ローム少量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム少量。

第103号建物跡　外周溝（ＤＤ′セクション）
第５層　黒褐色土　10YR3/1　ローム少量。
第６層　黒色土　10YR2/1　ローム（φ５mm）微量、ブロック状にＢ－Ｔｍ微量。
第７層　黒色土　10YR2/1　ローム微量。

第３号建物跡　外周溝（ＡＡ′セクション）
第１層　黒色土　10YR2/1　ローム、砂礫少量、小礫（φ２～３mm）微量、暗赤褐色焼土(5YR3/6)微量、炭少量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム中量、砂礫、小礫（φ５～８mm）少量、暗赤褐色焼土(5YR3/6)少量、下部に暗褐色土(10YR3/3）少量、炭少量。
第３層　暗褐色土　10YR3/4　ローム多量、砂礫中量、小礫（φ８－12mm）少量、明赤褐色焼土(5YR5/8)少量、炭中量。

第３号建物跡　外周溝（ＢＢ′セクション）
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム少量、砂礫中量、小礫（φ２～４mm）少量、炭微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　砂礫中量、小礫（φ２mm）少量、炭微量。
第３層　黒色土　10YR2/1　ローム、砂礫微量、小礫（φ４～６mm）少量、炭微量。
第４層　暗褐色土　10YR3/4　ローム、砂礫中量、小礫（φ１～２mm）微量、炭少量。

第３号建物跡　外周溝（ＥＥ′セクション）
第１層　黒色土　10YR2/1　ローム微量、小礫（φ４～６mm）微量、赤褐色焼土(5YR4/6)微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム微量、小礫（φ３～６mm）少量、炭少量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム少量、小礫（φ２～４mm）微量、炭微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム微量、小礫（φ３～５mm）少量、炭少量。
第５層　黒褐色土　10YR2/3　ローム微量、小礫（φ４～６mm）少量、炭微量。
第６層　黒褐色土　10YR2/2　ローム少量、黒色土(10YR1.7/1）微量、砂礫中量、炭微量。
第７層　黒色土　10YR2/1　ローム中量、砂礫中量、炭少量。
第８層　褐色土　10YR4/6　炭中量、砂礫多量、小礫（φ５～８mm）微量、外周溝作り替え時のはりかべ？

第103号建物跡　外周溝（ＥＥ′セクション）
第９層　黒褐色土　10YR2/2　ローム少量、小礫（φ５～６mm）微量、、砂礫少量、炭少量。
第10層　黒褐色土　10YR2/2　ローム中量、小礫（φ５～８mm）少量、砂礫中量。

第３号建物跡　外周溝（ＦＦ′セクション）
第１層　黒色土　10YR1.7/1　ローム中量、L.B（５×10cm）２個、小礫（φ２～４mm）少量。

第103号建物跡　外周溝（ＦＦ′セクション）
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム質土多量、小礫（φ３～５mm）微量、炭微量。

第３号建物跡　外周溝（ＧＧ′セクション）
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム中量、小礫（φ５～６mm）少量、黒色土(10YR2/1）中量。

図12　第３号建物跡（１）

性が高い。

［ピット］ ピットは９個検出され、ピット８、９、10、11、12、13が柱穴になるものと思われる。

［カマド］ 遺存していない。

［その他の施設］ なし。

［堆積土］ 黒色土とロームの混合土であり、人為堆積の様相を呈している。これは本竪穴部分の堆積土が第３号建物跡竪穴部分の貼床層にあたるものと思われる。

掘立部分

［規模］ 柱穴群として検出され、掘立柱建物が付属しない可能性がある。

外周溝

［形態・規模］ 全体的に弧状を呈しているが、南側はやや直線的になっている。北側は自然になくなっており、南端はピット状に窪んでいる。溝の長さは16ｍ、幅は20～60㎝で、深さは10～50㎝である。

［壁・底面］ 断面形状は上部がやや広がる「Ｕ」字状を呈しており、ＹＳ－113グリッド付近ではしっかりとした壁が立ち上がる。底面は平坦に整えられている。北側と南側では浅くなり、立ち上がりもしっかりしない。

［関連土坑］ 南端に径70×54㎝、深さ16㎝のピット状の落ち込みがある。

［堆積土］ 傾斜地であるため、ローム粒が比較的多く混入しているが、黒色土・黒褐色土を主体としており、自然堆積と思われる。

（神　康夫）

第４号建物跡（図15）

［位置・確認］ Ｇ－84、Ｈ－82・83、Ｉ－81～83の各グリッドにまたがって位置する。竪穴部分及び外周溝の一部は調査区域外に延びているものと思われる。

［重複］ なし。

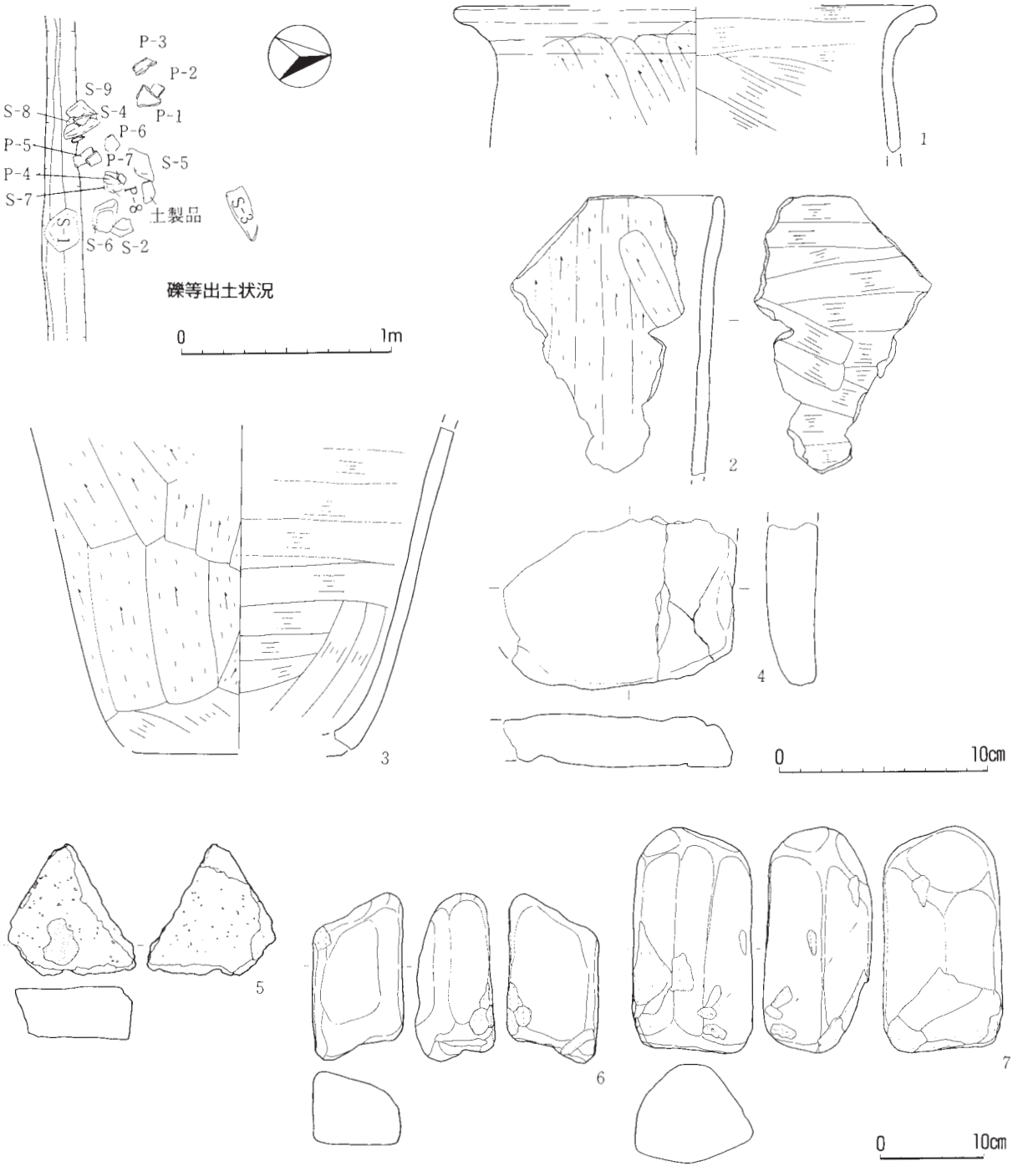
［概要］ 竪穴部分をＣ字状に外周溝が巡る建物跡である。調査区内で掘立部分は検出されなかった。確認できる全体の規模は南北の長さ8.9ｍ、東西幅3.9ｍである。

［出土遺物］ なし。

竪穴部分

［平面形・規模］ 竪穴部分の一部が調査区域外にあるため検出できた部分から推定すると、東壁辺454㎝、南壁辺400㎝、西壁辺333㎝、北壁辺375㎝のほぼ方形を呈すると思われる。主軸方位はかまどを検出できなかったため不明であるが、Ａ地区の他の建物跡の方位から推測すると、Ｓ－17°－Ｅほどと思われる。調査区内で確認できた床面積は7.9㎡を測り、推定される全体の床面積は約9.6㎡ほどになると思われる。

［壁・床］ 各壁面とも急な立上がりを呈する。壁高は、南北セクションベルトとの交点部分で18㎝を測る。床面は、地形を反映して西側がやや高く、中央部周辺にややしまった貼床が確認されている。



第3号建物跡出土土器観察表

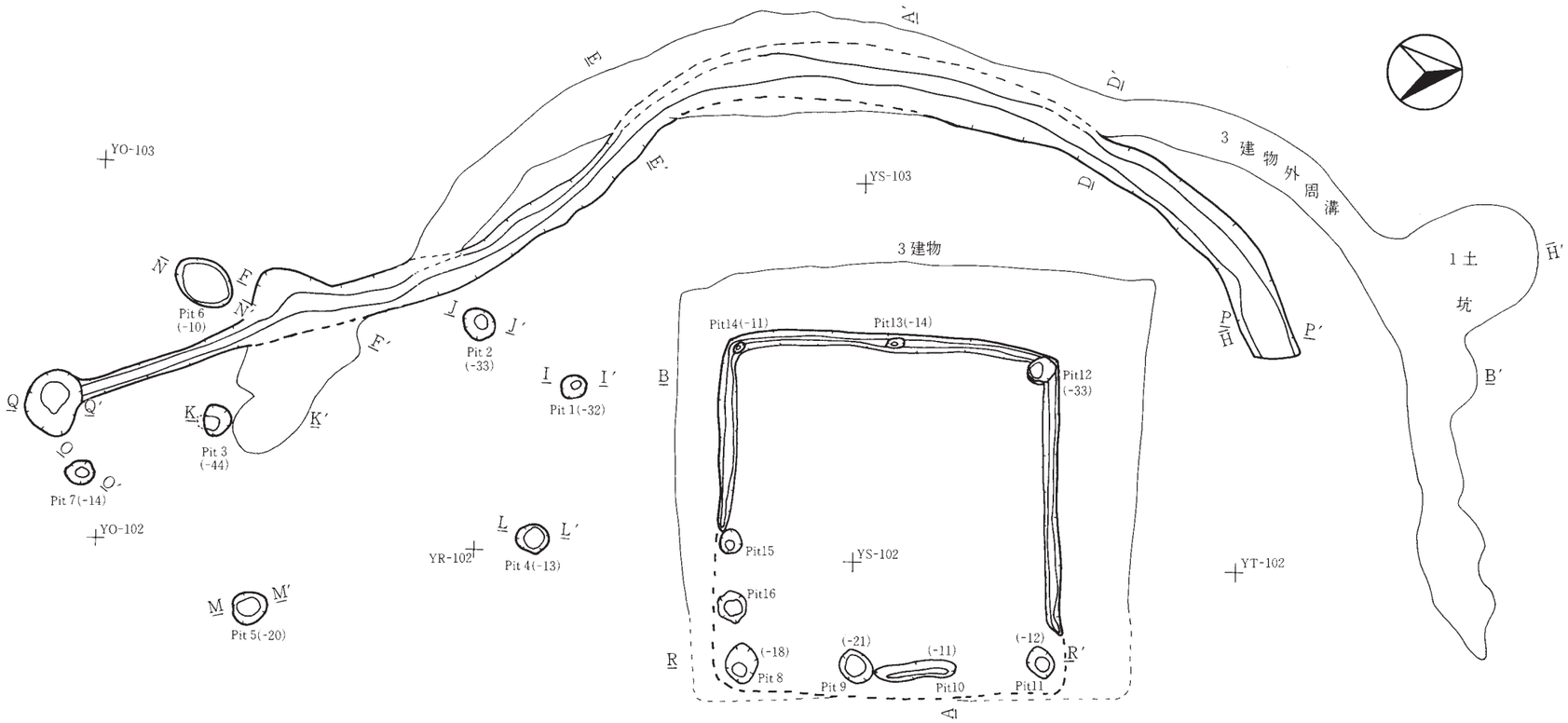
〈口径・底径・器高の単位：cm〉

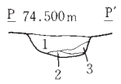
図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備考	分類	整理番号
1	土師器	甕	口縁部	カマド,フ	(23.2)	−	(7.1)	ヘラケズリ	ヘラナデ				22
2	土師器	甕	口縁部	YS-101,フ	−	−	(12.3)	ヘラケズリ	ヘラナデ				25
3	土師器	甕	胴部下半	YS-101,フ	−	(10.0)	(15.5)	ヘラケズリ ヘラナデ	ヘラナデ				26

第3号建物跡出土土・石製器観察表

図版番号	種類	品名	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	整理番号
4	土製品	不明	カマド	84	111	24	(229.5)	天蓋？	土製品1
5	石製品	石皿	YS-102	127	122	51	794.9	凝灰岩	S-26
6	石製品	敲磨器？	カマド袖	160	88	77	1188.1	被熱,凝灰岩	S-12
7	石製品	敲磨器？	カマド袖	215	116	105	2750.0	被熱,凝灰岩	S-13

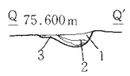
図13　第3号建物跡（2）出土遺物





第103号建物跡　外周溝（PP′セクション）

第1層　黒色土　10YR1.7/3　ローム（φ3mm）微量。
第2層　黒色土　10YR2/1　ローム微量。
第3層　黒色土　10YR2/1　ローム中量。



第103号建物跡　外周溝（QQ′セクション）

第1層　黒色土　10YR2/1　ローム中量、L.B（5×6cm）、小礫（φ2～3mm）微量、炭微量。
第2層　黒色土　10YR1.7/1　ローム少量、小礫（φ2mm）微量。
第3層　黒色土　10YR2/1　ローム多量、小石（3×2cm）1個。

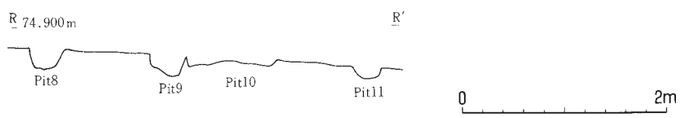
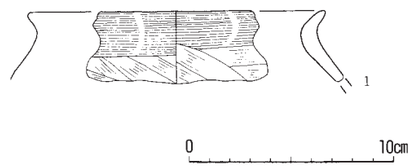


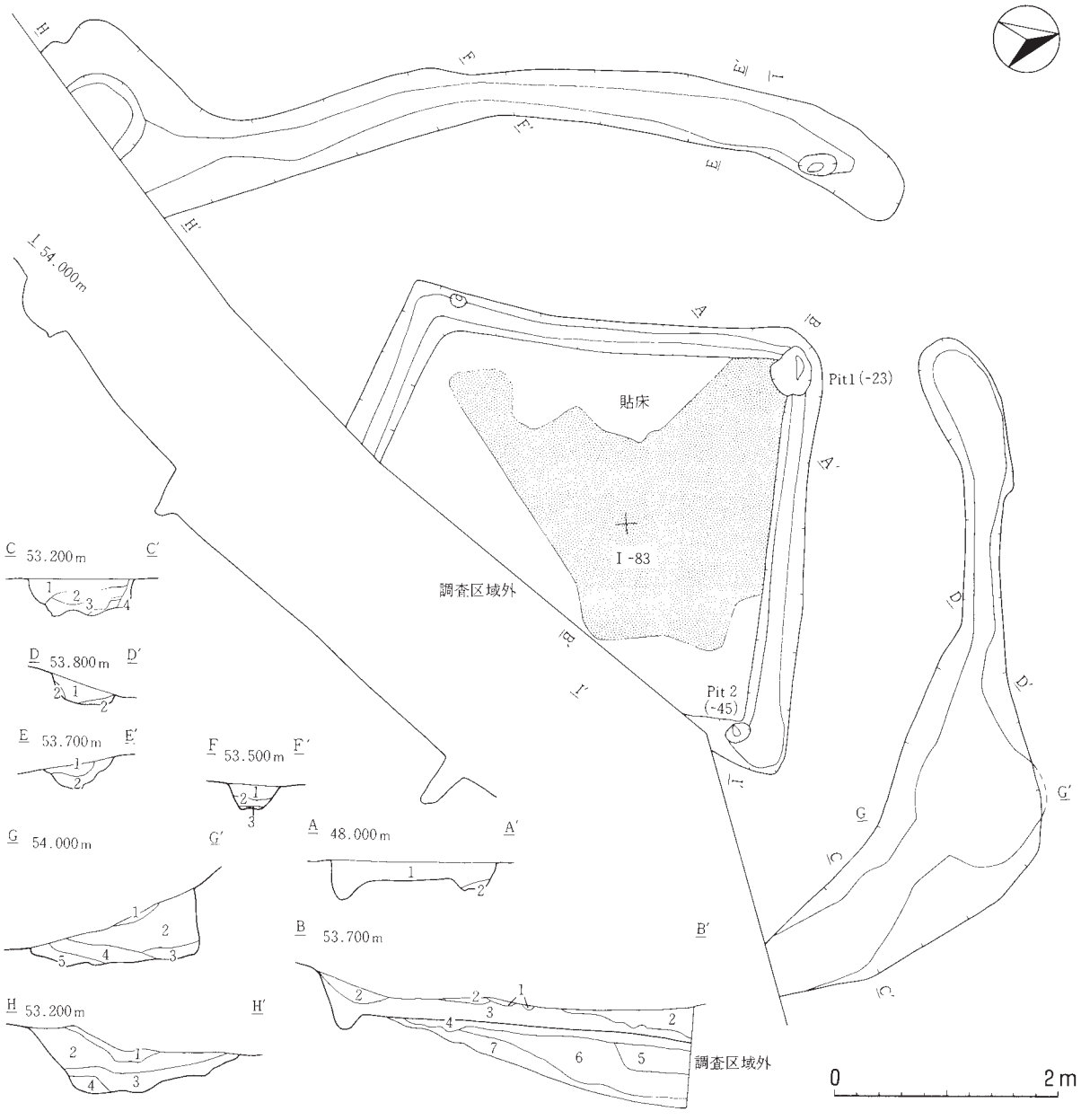
図14　第103号建物跡



第103号建物跡出土土器観察表

（口径・底径・器高の単位：cm）

図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備考	分類	整理番号
1	土師器	甕	口縁部	カマド？	(14.6)	―	(3.6)	ナデ,ヨコナデ	ヨコナデ ヘラナデ	―			23



第４号建物跡（AA′　BB′セクション）

第１層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量、炭微量、小礫（φ１～３mm）少量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	ローム微量、炭微量、小礫（φ３～４mm）微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、炭少量、小礫（φ２～３mm）微量、B－Tmブロック状。
第４層	黒色土	10YR1.7/1	ローム・L.B 中量、炭微量。
第５層	黒色土	10YR2/1	ローム少量。黒褐色土少量。
第６層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量。
第７層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量。

第４号建物跡　外周溝（CC′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量、小礫（φ５～８mm）少量。
第２層	褐色土	10YR4/4	炭微量、小礫（φ３～５mm）中量、暗褐色土(10YR3/3)・明黄褐色ローム(10YR6/8)が層全体に分布。
第３層	黒褐色土	10YR2/3	炭少量、ローム中量、小礫（φ２～４mm）少量。
第４層	暗褐色土	10YR3/4	炭微量、ローム少量。
L.B		10YR4/6	

第４号建物跡　外周溝（DD′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、小礫（φ２～４mm）少量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム中量、小礫（φ２～４mm）少量。

第４号建物跡　外周溝（EE′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	炭微量、ローム微量、小礫（φ２～３mm）微量、礫（φ30mm大）１個。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム多量、小礫（φ３～４mm）微量、礫（φ30mm大）１個、黒色土(10YR2/1) 微量。

第４号建物跡　外周溝（FF′セクション）

第１層	黒色土	10YR2/1	炭微量、ローム少量、小礫（φ３～５mm）微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	炭微量、ローム微量、小礫（φ１～３mm）微量。
第３層	黒色土	10YR2/1	ローム中量、小礫（φ２～４mm）中量。

第４号建物跡　外周溝（GG′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	炭微量、ローム微量、小礫（φ２～４mm）微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	炭微量、ローム少量、小礫（φ３～５mm）微量、L.B(３×５mm）にぶい黄褐色土（10YR4/3)多量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	炭微量、ローム微量、小礫（φ２～３mm）少量。
第４層	褐色土	10YR4/4	小礫（φ４～６mm）中量、礫（φ３～５mm）数個、層全体に黒褐色土（10YR2/2）・黄橙色土（10YR7/8）・暗赤褐色土(5YR3/6)が分布する。
第５層	黒褐色土	10YR2/2	炭微量、ローム多量、小礫（φ５～８mm）微量。

第４号建物跡　外周溝（HH′セクション）

第１層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量、砂礫微量。
第２層	黒色土	10YR1.7/1	炭微量、砂礫少量、ローム微量、小礫（φ２～３mm）少量。
第３層	黒色土	10YR2/1	炭微量、砂礫少量、ローム微量、小礫（φ１～３mm）少量。
第４層	黒褐色土	10YR2/3	ローム中量、砂礫少量、小礫（φ１～２mm）少量。

図15　第４号建物跡

［壁溝］各壁の直下から検出し、調査区域外については不明であるが、調査区内の範囲では途切れることなく住居を巡っている。北西隅及び北東隅ではピットと切り合っている。幅26～31㎝、深さ12～25㎝を測る。

［ピット］本竪穴部分において、ピットは２個検出された。

［カマド］調査区域内においては検出されなかった。

［その他の施設］調査区域内においては検出されなかった。

［堆積土］自然堆積と思われる。

掘立部分

調査区域内では検出されなかった。

外周溝

［形態・規模］竪穴部分の北西側を弧状に巡る。他の建物跡に付随する外周溝と違い、北側と南側に分割して構築されている。本外周溝は、１条の外周溝の中央部分を埋めて２条に分割したものではなく、最初から南北２条に分けて構築された外周溝である。調査区域内での規模は、南側外周溝で長さ７ｍ、幅36～60㎝、北側外周溝で長さ6.5ｍ、幅30～90㎝を測る。両外周溝とも、調査区域との境界部分に土坑状の膨らみを持ち、調査区域外に続いているものと思われる。

［壁・底面］黒色土層から掘り込まれているため壁は脆い。底面は地山のためしまりがあって堅く、地形を反映して西側から東側に向かって緩やかに傾斜している。

［関連土坑］南側と北側にそれぞれ土坑状の落ち込みが認められた。径約150㎝、深さ約60㎝で、底面は凹凸がある。

［堆積土］３層に区分できた。セクション面の観察から自然堆積であると思われる。

（奈良岡　淳）

第５号建物跡（図16・図17）

［位置・確認］ＹＪ－98・99、ＹＫ－98・99、ＹＬ－98・99の各グリッドにまたがってに位置する。

［重複］第105号建物跡は、本建物跡の拡張前のものである。

［概要］本建物跡は当初１軒の建物跡として確認されていたが、改築がなされていることから、新しい建物跡を第５号建物跡、古い方を第105号建物跡として記録することとした。本建物跡は、緩い弧状を呈する外周溝を持つ建物跡で、掘立柱建物跡は付随しない。全体の規模は、南北の長さ８ｍ、東西幅7.8ｍを測る。

［出土遺物］竪穴部分から須恵器坏(4)・甕(5)、縄文時代晩期の鉢型土器（１・２・３）の破片が出土した。図示した他に土師器の小破片が４点出土した。

竪穴部分

［平面形・規模］南壁辺610㎝、西壁辺602㎝、北壁辺634㎝を測ることから、方形を呈すると思われる。主軸方位は、Ｓ－18.5°－Ｅである。全体の面積は、推定27.0㎡である。

［壁・床］各壁とも急な立上がりをみせ、壁高は南壁辺で54㎝、西壁辺で58㎝、北壁辺で51㎝を測る。

地山を床としているが、谷側にあたる東半部には黒褐色土とロームの混合土によって床を貼った形跡がみられる。多少の凹凸はみられるものの、ほぼ平坦に整えられている。

［壁溝］ 東壁を除いた各壁の直下から検出し、幅15～52㎝、深さ12～14㎝を測る。谷側に向かうにしたがって広がる傾向がみられるが、ほぼ同じ深さで掘り込まれている。

［ピット］ ピットは、８基検出された。その内、２基は壁柱穴、４基は主柱穴であると思われる。

［カマド］ 住居の南壁にあり、かなり西壁に寄った位置に設けられている。遺存状態は比較的良好である。火床面は焚口の中央に明確に残っており、両袖、天蓋も確認できる。袖の芯材は用いられておらず、ロームのみで作られたものと思われる。煙出孔付近には偏平な礫が残っており、礫の下には焼土や炭化物の細粒を多量に含んだ覆土が確認できた。

［その他の施設］ 床下溝が床下中央部を弧状に巡っている。一方の端は、カマド下を巡る壁溝に合流し、他方の端は、床面を横断するように西から東に向かい、土坑状の落ち込み部分に流れている。幅16～46㎝、深さ17～20㎝を測る。

［堆積土］ セクション面の観察から、自然堆積と思われる。

掘立部分

検出されなかった。

外周溝

［形態・規模］ 本竪穴部分の西壁に沿って弧状に巡っているが、北壁及び南壁側には回り込んでいない。南端部に土坑状の落ち込みを持つ。規模は幅20㎝、深さ20㎝を測る。

［壁・底面］ 断面「Ｕ」字状で壁・床ともにしっかりしている。

［関連土坑］ 南端部にみられる土坑状の落ち込みは、壁・床が不明瞭なため、地山の崩落によって形成された可能性もある。

［堆積土］ 自然堆積と思われる。

（奈良岡　淳）

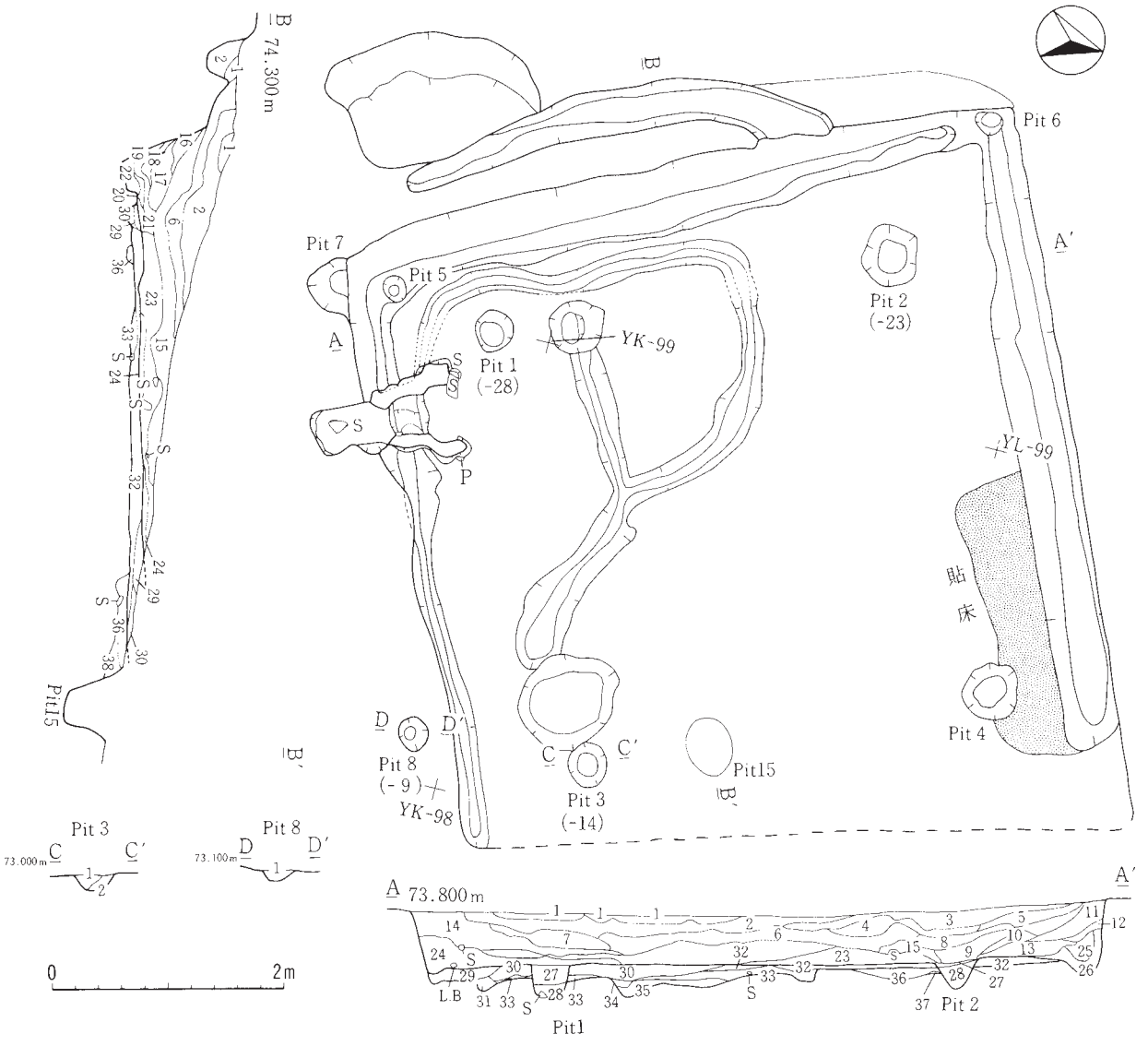
第105号建物跡（図18）

［位置・確認］ ＹＪ－98・99、ＹＫ－98・99、ＹＬ－98・99の各グリッドにまたがって位置する。

［重複］ 第５号建物跡は、本建物跡の拡張後のものである。

［概要］ 本建物跡は当初１軒の建物跡として確認されていたが、改築がなされていることから、新しい建物跡を第５号建物跡、古い方を第185号建物跡として記録することとした。竪穴部分の北西部に一部本建物跡にともなうと思われる外周溝を有しているが、掘立柱建物跡は検出されなかった。第５号建物跡へと作り替えられているため、古い建物跡の全体はとらえ切れないが、検出された壁溝や一部遺存する外周溝部分から推測するに、南北の長さ6.2ｍ、東西幅6.6ｍの規模を有するものと思われる。

［出土遺物］ 竪穴部分から土師器甕の破片（１・２・３）が出土している。この破片は、第８号及び第９号建物跡の竪穴部分から出土した破片と接合した。



第5号建物跡（AA′ BB′セクション）

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム微量、炭・砂礫・小礫（φ2～3mm）微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム微量、小礫（φ3～5mm）少量。
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・炭・砂礫微量。
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・炭微量、赤褐色焼土(5YR4/8)微量、小礫（φ3～6mm）少量。
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム・赤褐色焼土(5YR4/8)少量、小礫（φ5～6mm）中量、礫（φ15～25mm）少量。
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム微量、炭中量、赤褐色焼土(5YR4/8)少量、小礫（φ2～5mm）少量、。
第7層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・炭・黒色土(10YR1.7/1)・礫（φ15～20mm）微量。
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム中量、礫（φ20～35mm）微量。
第9層	暗褐色土	10YR3/2	ローム多量、炭・赤褐色焼土(5YR4/8)微量、黒色土(10YR2/1)中量、小礫（φ2～4mm）微量。
第10層	暗褐色土	10YR3/3	ローム微量、炭少量、褐色焼土(7.5YR4/4)・小礫（φ3～5mm）微量。
第11層	黒褐色土	10YR2/3	ローム中量、炭少量、褐色焼土(7.5YR4/4)微量、小礫（φ3～7mm）少量。
第12層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量、炭少量、礫（φ15～20mm）少量。
第13層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、炭微量、黒色土(10YR1.7/1)中量、礫（φ30mm）少量。
第14層	黒褐色土	10YR2/2	ローム微量、炭微量、暗赤褐色焼土(5YR3/6)微量、礫（φ15～30mm）少量。
第15層	暗褐色土	10YR3/3	ローム中量、L.B(10×15cm) 1個、黒色土(10YR2/1)少量。
第16層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、L.B(5×4cm) 2個、黒褐色土(10YR2/2)・小礫（φ3～6mm）微量。
第17層	黒褐色土	10YR2/3	ローム多量、暗赤褐色焼土(5YR3/6)微量、黒色土（10YR2/2）多量、礫（φ15～20mm）微量。
第18層	褐色土	10YR4/4	ローム質土層、黒褐色土(10YR2/3)・砂礫・礫（φ10～15mm）少量。
第19層	黒褐色土	10YR2/2	ローム多量、黒色土（10YR2/1）中量。
第20層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、炭微量、礫（φ30mm）1個。
第21層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、L.B(3×5cm) 1個、炭・小礫（φ3～6mm）少量。
第22層	黒褐色土	10YR3/2	ローム少量、炭少量。
第23層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・黒色土(10YR2/1)中量。
第24層	暗褐色土	10YR4/3	ローム多量、炭・小礫（φ2～5mm）微量。
第25層	黒褐色土	10YR3/2	ローム・炭・小礫（φ4～6mm）少量。
第26層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、炭微量、黒色土(10YR2/1)・小礫（φ3～6mm）中量。

第105号建物跡（5建物貼床 AA′ BB′セクション）

第29層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、赤褐色焼土(5YR4/8)微量、黒色土(10YR2/1)少量。
第30層	黒褐色土	10YR3/2	ローム少量、砂礫微量。
第31層	黒褐色土	10YR3/2	炭ごく微量、小礫少量。
第32層	黒褐色土	10YR2/3	ローム多量、小礫少量。
第33層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、炭ごく微量、小礫少量。
第34層	黒褐色土	10YR2/2	ローム微量、炭多量。小礫微量。
第35層	黒褐色土	10YR2/3	ローム・小礫少量。
第36層	黒褐色土	10YR2/3	ローム・L.B多量、小礫少量。
第37層	暗褐色土	10YR3/4	ローム・小礫少量。
第38層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・L.B多量、炭・小礫微量。

第5号建物跡 Pit1，2（AA′セクション）

第27層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量、炭・焼土多量、小礫少量。
第28層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、小礫少量。

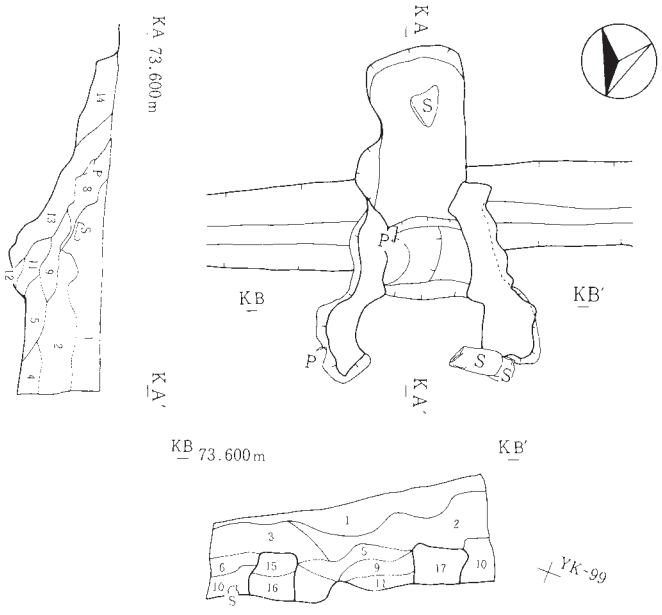
第5号建物跡 Pit3（CC′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム少量。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ロームごく微量。

第5号建物跡 Pit8（DD′セクション）

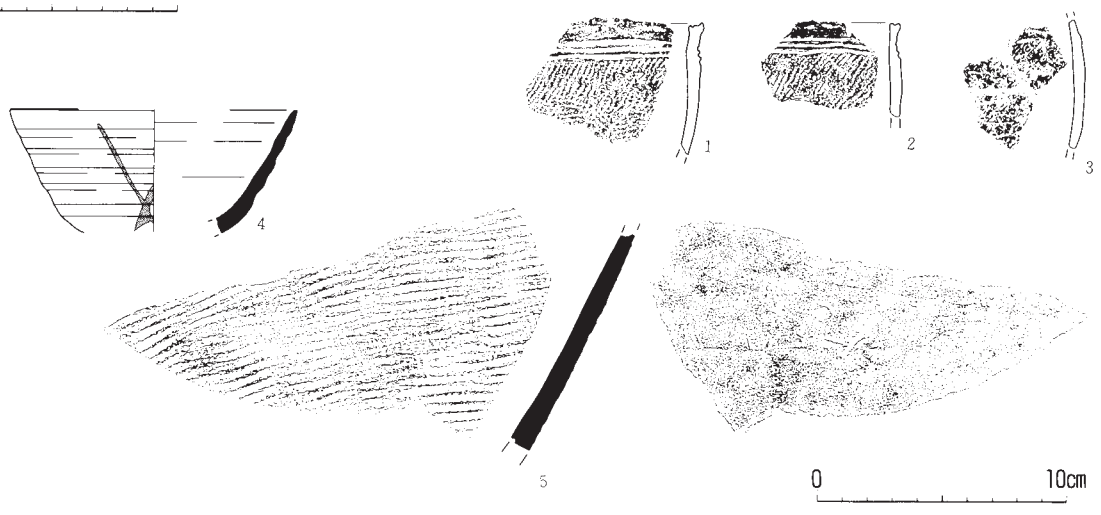
第1層	黒褐色土	10YR1.7/1	ローム微量。

図16 第5号建物跡（1）



第５号建物跡　カマド（KAKA′　KBKB′セクション）

第１層	暗赤褐色土	10YR3/3	ローム微量。
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量。
第３層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム中量、炭微量。
第４層	黒褐色土	10YR3/1	炭・焼土微量。
第５層	黒褐色土	10YR2/3	焼土（φ３～15mm）少量。
第６層	黒赤褐色	10YR3/2	ローム少量。
第７層	暗褐色土	10YR3/4	焼土微量。
第８層	暗赤褐色土	5YR3/2	炭微量、焼土中量。
第９層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭（φ５～10mm）・焼土（φ５～30mm）少量。
第10層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム多量。
第11層	暗赤褐色土	5YR3/2	炭・焼土（φ５～10mm）微量。
第12層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム（φ15mm）。
第13層	暗褐色土	5YR3/3	焼土微量。
第14層	黒色土	10YR2/1	焼土（φ10mm）。
第15層	褐色土	10YR4/6	ローム質土層。
第16層	暗褐色土	10YR3/4	ローム（φ２～５mm）少量。
第17層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム中量、炭微量、焼土中量。



第５号建物跡出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整（文様）	内面調整（文様）	底面調整	備考	分類	整理番号
1	縄文土器	鉢	口縁部	フ				斜行縄文（LR） 沈線				晩期	J7
2	縄文土器	鉢	胴部	フ				斜行縄文（LR） 沈線				晩期	J9
3	縄文土器	鉢	胴部	フ				沈線、磨消縄文 （LR）				晩期	J12
4	須恵器	坏	体部上半	YJ-98，フ	(11.4)	－	(4.9)	ロクロ	ロクロ		火ダスキ		32
5	須恵器	大甕	胴部	5建物 YK-98，99，フ 2建物，YT-99 フ				タタキ	ナデ				89

図17　第５号建物跡（２）

竪穴部分

[平面形・規模] 壁溝から推定すると、南壁辺470㎝、西壁辺480㎝、北壁辺480㎝を測ることから、平面形は方形を呈すると思われる。主軸方位は、カマドが遺存していないため不明であるが、第5号建物跡と同様S－18°－Eを指すと思われる。床面積は、推定26.9㎡を測る。

[壁・床] 壁は遺存していないため不明であるが、床面は第5号建物跡の床面と同様に地山を床としており、東半部は貼床を施して整地されている。

[壁溝] 南壁及び西壁、北壁の一部で確認できた。幅15～30㎝、深さ10㎝前後に整えられているが、北西隅で二股に分岐し、一方が床面の中央部に向かって東流している。

[ピット] ピットは8基検出された。その内、柱穴と思われるものは3基である。

[カマド] 検出されなかった。住居の拡張の際壊されたものと思われる。

[その他の施設] 床下東側に土坑状の落ち込みがあり、それに向かって壁溝の一部が北西隅で分岐し流れ込んでいる。床下の溝としてとらえることができるとすれば、他の建物跡がいずれも拡張の際に床下の溝に設けていることから、本建物跡は、他の建物跡より相対的に新しい可能性がある。

[堆積土] 建物跡の拡張により、堆積土は確認されなかった。

掘立部分

検出されなかった。

外周溝

[形態・規模] 形態は緩い弧状を呈し残存部分の南北の長さと東西幅はそれぞれ220㎝、44㎝である。

[壁・底面] 地山を壁・底面とし、堅くしっかりしている。

[関連土坑] 検出されなかった。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

(奈良岡　淳)

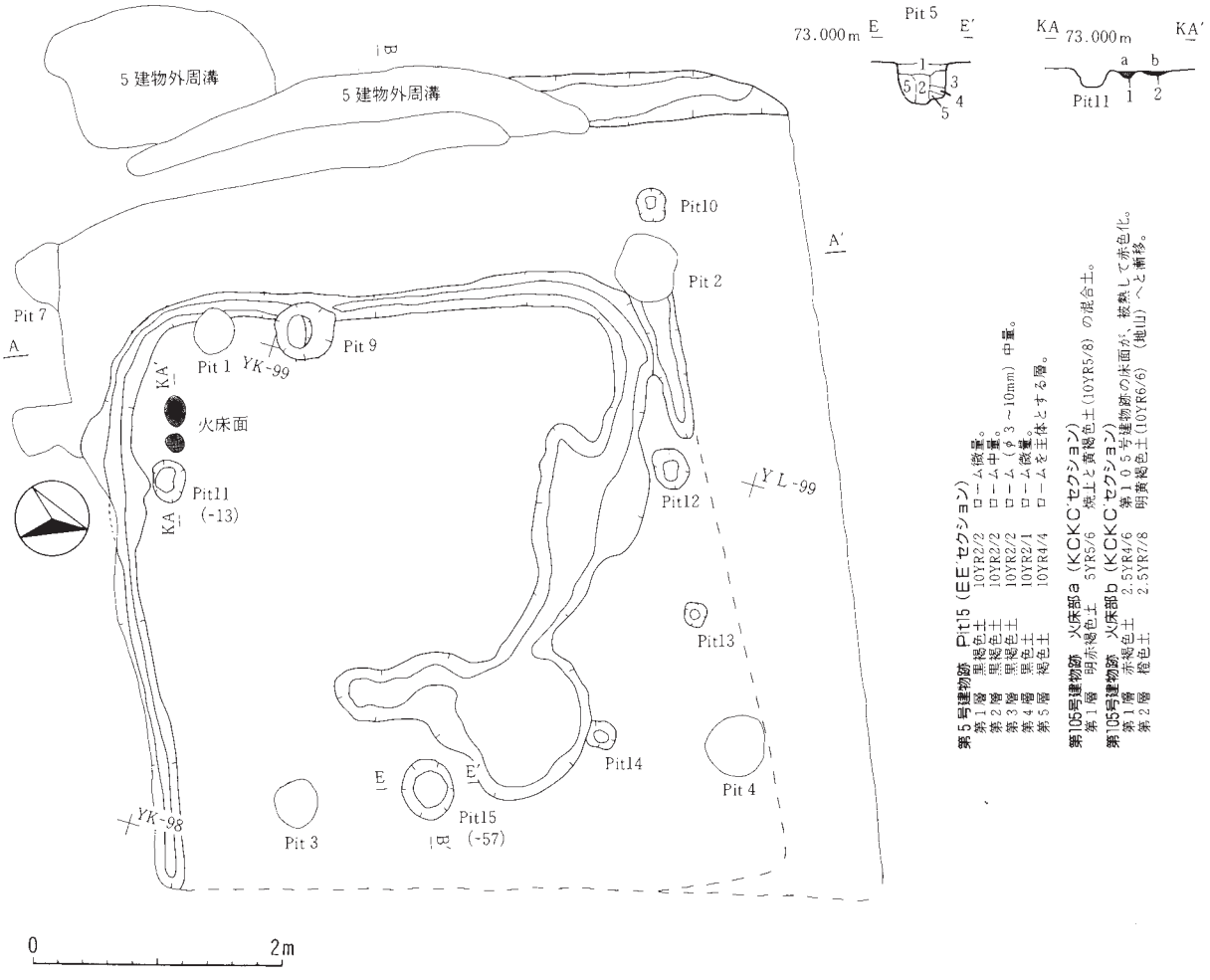
第6号建物跡（図19～図21）

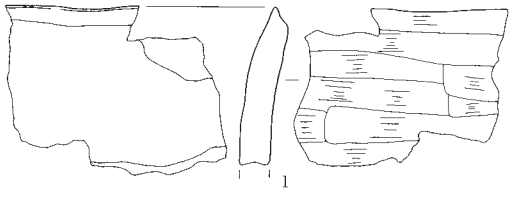
[位置] ＹＤ－101・102、ＹＥ－101・102、ＹＦ－101～103、ＹＧ－101～103、ＹＨ－101～103、ＹＩ－101の各グリッドにまたがって位置する。

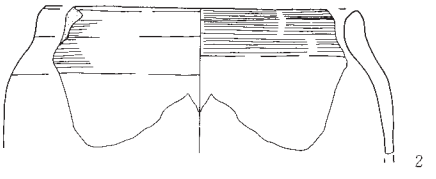
[重複] 第１０６号建物跡は、本建物跡の拡張前のものである。

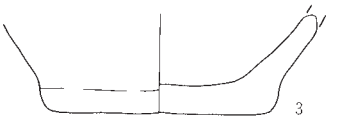
[概要] 本建物跡は当初1軒の建物跡として確認されていたが、改築がなされていることが判明したことから、新しい建物跡を第6号建物跡、古い方を第１０６号建物跡として記録することとした。本建物跡は、第106号建物跡の竪穴部分、掘立部分及び外周溝を拡張したものである。全体の規模は南北の長さ18.5ｍ、東西の幅11ｍであり、今回の調査で検出された建物跡で最大のものである。

[出土遺物] 土師器では内面黒色処理を施した坏（2・3）とロクロ調整の坏（1）が出土しており、須恵器は大甕（4・5）が、鉄製品は刀子（7）が出土している。また、縄文時代と思われる不定形石器（6）も出土している。









0　10cm

第105号建物跡出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備考	分類	整理番号
1	土師器（？）	甕	口縁部	床面 8建物,YA-98,フ 9建物,YF-95,フ	－	－	(6.3)	磨滅により不明	ヘラナデ	－			92
2	土師器	甕	口縁部	床面	(13.0)	－	(5.8)	ナデ	ナデ		P-1002,P-1003		27
3	土師器	甕	口縁部	床面	－	9.4	(4.0)	磨滅により不明	磨滅により不明	砂底	P-1001		28

図18　第105号建物跡

竪穴部分

[平面形・規模] 南壁辺825㎝、西壁辺850㎝を測ることから、この規模で方形の平面形態を有するものと思われる。東側が遺存していない北壁辺は588㎝検出されたが、東壁辺は遺存していない。主軸方位はＳ－19.0°－Ｅで、床面積は推定63.0㎡である。

[壁・床] 壁高は、西南隅では110㎝、北壁辺は56㎝を測る。西壁辺は78㎝壁が垂直に立ち上がり、そこから屈曲しさらに70㎝斜めに立ち上がっている。これは、小規模な土砂崩れによるものと思われ、壁の上部が崩れて竪穴部分の覆土に流れ込んだ痕跡と考えられる。(図20「ローム流入範囲」参照、土層断面図第14層がこれにあたる)。西側では地山を平坦な床として使用しており、東側では貼床を施していた。

[壁溝] 東壁を除く各壁において、幅40㎝程で深さ10～20㎝の壁溝が検出された。西壁辺と北壁辺において、径15～30㎝程度の柱穴状の小ピットが20個ほど検出されており、柱痕は確認されなかったが壁柱穴となるものと思われる。

[ピット] 竪穴部分からはピットが４個検出された。ピット１が主柱穴になる可能性がある。ピット３は深さはあるものの、長軸113㎝、短軸54㎝で平面形態が不整な長円形を呈しており、疑問が残る。また本建物跡は壁溝部分に柱穴状小ピット群が検出されていることから、主柱穴が存在しない壁柱穴のみの構造の建物である可能性がある。

[カマド] 南壁のやや西寄りに構築されており、遺存状態は比較的良好である。煙道部は壁から70㎝ほど屋外へ延びており、ロームによって構築されていたと思われる半地下式のカマドである。袖に芯材等は用いておらず、内側は被熱して赤色化している。火床面はしっかりと残っており、厚さ10㎝で49×39㎝の不整形を呈している。

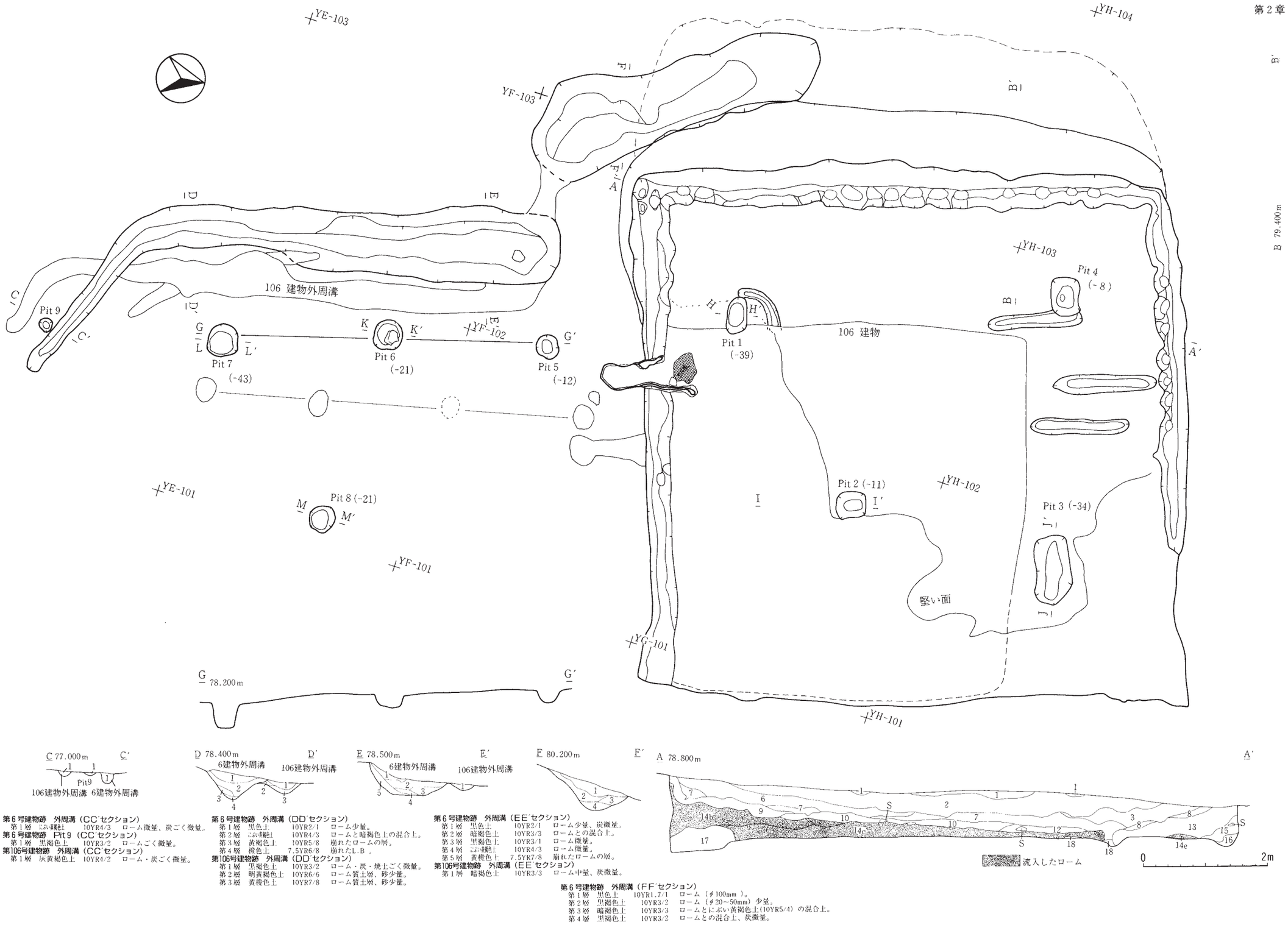
[その他の施設] 北側に長さ150～170㎝、幅20～30㎝、深さ５㎝程度の直線的な溝が３条検出された。何のために構築されたものなのかは不明である。

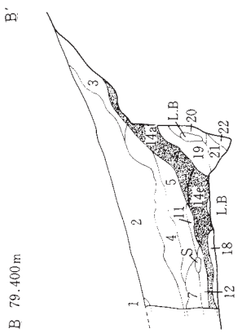
[堆積土] 堆積土は、黒色土・黒褐色土を主体としており、自然堆積と考えられる。また、ＡＡ′、ＢＢ′セクション第14層およびカマドセクション第３・４層では褐色土あるいは黄褐色土が検出されており、しまりのないロームである。この土は床面でも検出されており、竪穴部分の西側と南壁の一部で検出され、西壁に近づくにしたがってその厚さを増して堆積している。西壁の下部は垂直に立ち上がるものの上部は斜めになっており、おそらくこの部分の地山が地滑りを起こして竪穴部分に流れ込んだものと考えられる。また、壁溝には小穴状を呈している掘り方があるものの柱痕がないことから、壁柱穴を含めた上屋部分を取り去って建物跡が廃棄され、その後まもなくロームが流入したものと考えられる。

掘立部分

[規模] 桁行方向はピット５～７の２間が確認されたが、谷側のピットは検出されなかった。南北総長516㎝、東西総長は不明で主軸方位はＳ－10.0°－Ｅである。また、この掘立柱建物跡の構築された地点では、傾斜地を造成して平場を作りだしている可能性がある。

[柱間寸法] 桁行方向は270㎝（８尺９寸）であるが、梁行方向は不明である。





第14層　黄褐色土　10YR5/6　崩れたローム の層。
第14b層　黄褐色土　10YR5/6　礫（φ３～10cm）５個、崩れたローム と主体。
第14c層　褐色土　10YR4/4　砂少量、崩れたローム と黒褐色土の混合土。
第14e層　黒色土　10YR2/2　ローム（φ３～30mm）多量。
第15層　灰褐色土　10YR4/2　ローム（φ10mm）微量。
第16層　黒褐色土　10YR1.7/1　崩れたローム と黒色土の混合土。
第17層　黒褐色土　10YR3/2　ローム少量。
第18層　黒褐色土　10YR3/1　ローム と灰褐色土（10YR4/2）の混合土。
第19層　黒褐色土　10YR3/1　L.B と灰褐色土（10YR4/2）の混合土。
第20層　褐色土　10YR4/4　L.B と灰褐色土（10YR4/2）の混合土。
第21層　褐色土　10YR4/3　L.B と灰褐色土（10YR4/2）の混合土。
第22層　明褐色土　7.5YR5/8　ローム と主体。

第６号建物跡（AA′BB′セクション）
第１層　黒色土　10YR2/1　ローム微量。
第２層　暗褐色土　10YR2/3　ローム（φ10～30mm）少量、焼土微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム少量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム微量。
第５層　黒色土　10YR2/1　ローム中量。焼土ごく微量。
第６層　黒色土　10YR1.7/1　ローム少量。
第７層　黒色土　10YR2/1　ローム多量。
第８層　黒褐色土　10YR3/1　ローム・焼土・炭ごく微量。
第９層　黒褐色土　10YR3/2　ローム・焼土・炭微量。
第10層　黒褐色土　10YR3/1　ローム・焼土・炭ごく微量。
第11層　黒色土　10YR2/1　ローム・焼土微量。
第12層　黒色土　10YR1.7/1　ローム・焼土微量。
第13層　黒色土　10YR2/1　ローム（φ１～20mm）少量、焼土・炭（φ５mm）微量。

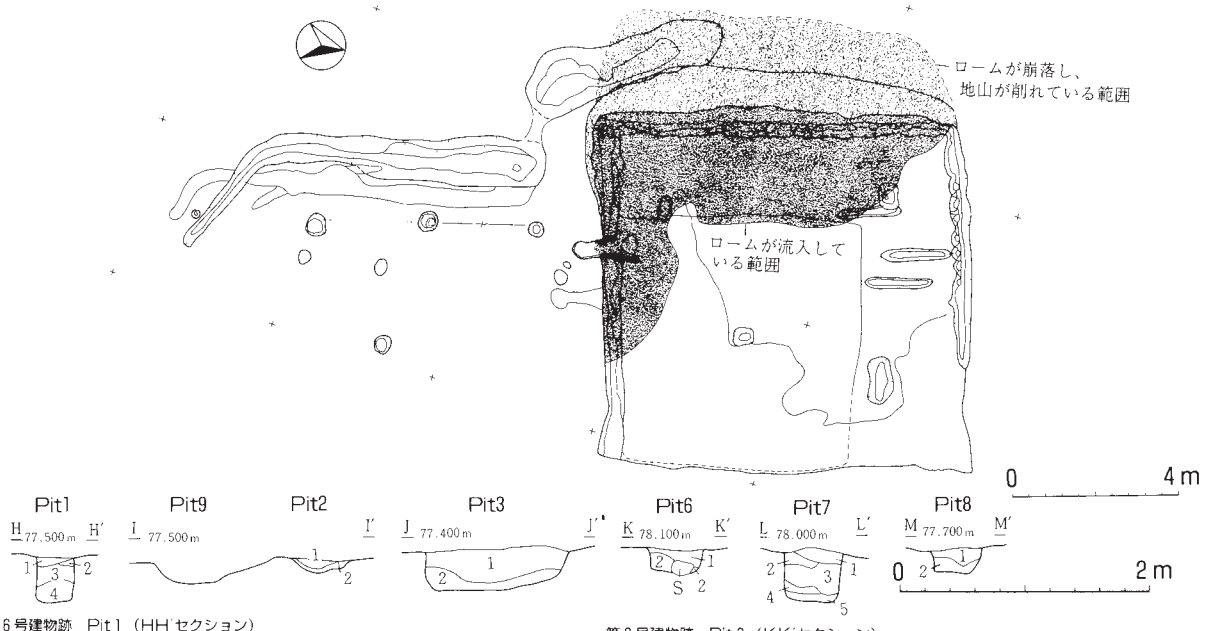
第６号建物跡　外周溝（CC′セクション）
第１層　にぶい褐色土　10YR4/3　ローム微量、炭ごく微量。
第６号建物跡　Pit９（CC′セクション）
第１層　黒褐色土　10YR3/2　ロームごく微量。
第106号建物跡　外周溝（CC′セクション）
第１層　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム・炭ごく微量。

第６号建物跡　外周溝（DD′セクション）
第１層　黒色土　10YR2/1　ローム少量。
第２層　にぶい褐色土　10YR4/3　ロームと暗褐色土の混合土。
第３層　黄褐色土　10YR5/8　崩れたローム の層。
第４層　橙色土　7.5YR6/8　崩れたL.B 。
第106号建物跡　外周溝（DD′セクション）
第１層　黒褐色土　10YR3/2　ローム・炭・焼土ごく微量。
第２層　明黄褐色土　10YR6/6　ローム質土層、砂少量。
第３層　黄橙色土　10YR7/8　ローム質土層、砂少量。

第６号建物跡　外周溝（EE′セクション）
第１層　黒色土　10YR2/1　ローム少量、炭微量。
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ロームとの混合土。
第３層　黒褐色土　10YR3/1　ローム微量。
第４層　にぶい褐色土　10YR4/3　ローム微量。
第５層　黄橙色土　7.5YR7/8　崩れたローム の層。
第106号建物跡　外周溝（EE′セクション）
第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム中量、炭微量。

第６号建物跡　外周溝（FF′セクション）
第１層　黒色土　10YR1.7/1　ローム（φ100mm ）。
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム（φ20～50mm）少量。
第３層　暗褐色土　10YR3/3　ロームとにぶい黄褐色土（10YR5/4）の混合土。
第４層　黒褐色土　10YR3/2　ロームとの混合土、炭微量。

図19　第６号建物跡（１）



第６号建物跡　Pit１（HH′セクション）

第１層	暗褐色土	10YR3/4	ローム多量、焼土微量。
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量。
第３層	明褐色土	7.5YR3/8	砂少量、ロームを主体。
第４層	橙色土	7.5YR6/8	ロームを主体。

第６号建物跡　Pit２（ＩＩ′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム・炭少量。
第２層	褐色土	10YR4/6	小礫微量。

第６号建物跡　Pit３（ＪＪ′セクション）

第１層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム（φ１～50mm）多量、焼土・炭ごく微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム（φ１～30mm）中量。

第６号建物跡　Pit６（ＫＫ′セクション）

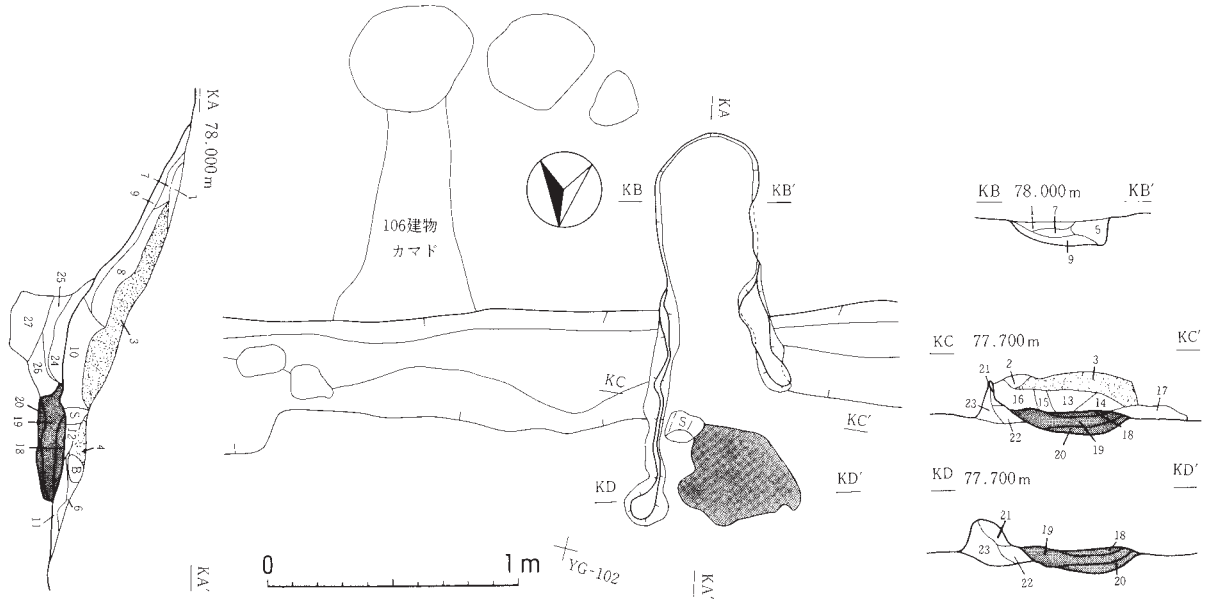
第１層	褐色土	10YR4/6	ローム微量、小礫少量。
第２層	褐色土	10YR4/4	ローム微量、小礫少量。

第６号建物跡　Pit７（ＬＬ′セクション）

第１層	褐色土	10YR4/6	ローム・小礫少量、焼土微量、炭ごく微量。
第２層	暗褐色土	10YR3/4	ローム・小礫少量、焼土微量。
第３層	褐色土	10YR4/6	ローム微量、小礫少量。
第４層	褐色土	10YR4/4	ローム少量、小礫微量。
第５層	褐色土	10YR4/6	ローム・炭微量。

第６号建物跡　Pit８（ＭＭ′セクション）

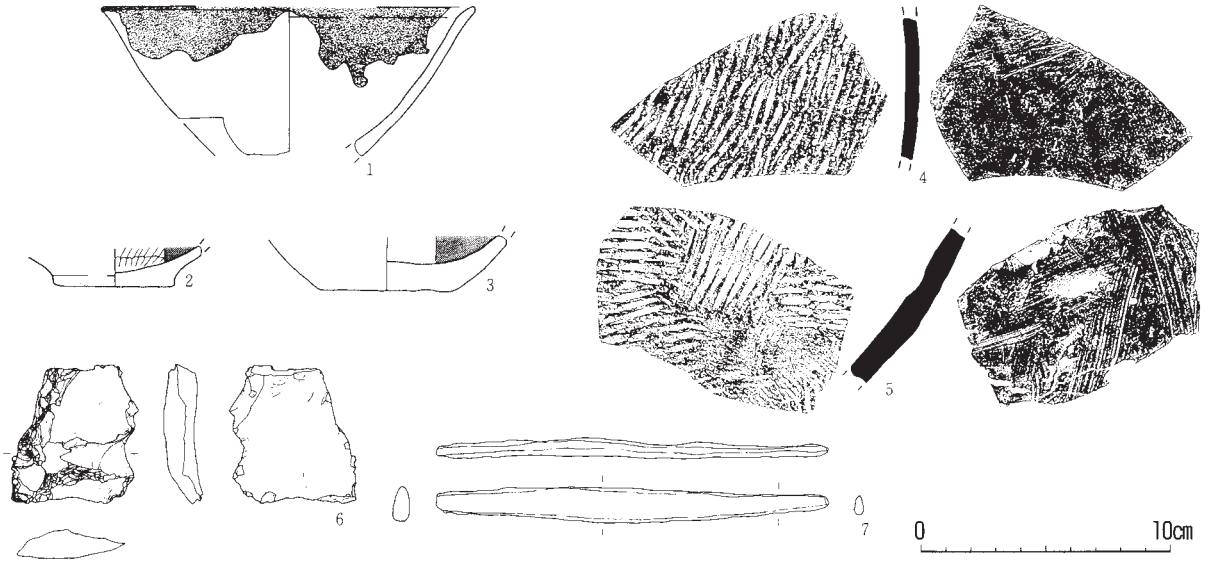
第１層	褐色土	10YR4/4	ローム中量、焼土微量。
第２層	暗褐色土	10YR3/4	ローム（φ２～10mm）中量、炭（φ３mm）微量。



第６号建物跡　カマド（KAKA′　KBKB′　KCKC′　KDKD′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR3/2	焼土（φ５mm）少量。
第２層	赤褐色土	5YR3/6	焼土層。
第３層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	流入ロームを主体。
第４層	褐色土	10YR4/4	流入ロームを主体、炭微量。
第５層	褐色土	7.5YR4/6	焼土（φ５mm）少量、ロームを主体。
第６層	暗褐色土	10YR3/4	焼土少量。
第７層	暗褐色土	10YR3/4	焼土（φ３～10mm）微量。
第８層	赤褐色土	2.5YR4/8	焼土層、にぶい黄褐色土(10YR5/3) 少量。
第９層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	焼土微量、炭ごく微量。
第10層	暗褐色土	10YR3/4	焼土中量。
第11層	黒褐色土	10YR2/2	焼土・炭（φ３mm）少量。
第12層	暗褐色土	10YR3/4	焼土（φ３mm）少量。
第13層	黒褐色土	10YR2/2	炭（φ２～５mm）少量。
第14層	にぶい褐色土	5YR4/3	焼土少量。
第15層	暗褐色土	10YR3/4	焼土（φ10mm）微量。
第16層	にぶい褐色土	5YR4/4	焼土層。
第17層	黄褐色土	10YR5/8	ローム質土層。
第18層	明赤褐色土	5YR5/8	焼土層。
第19層	赤褐色土	2.5YR4/8	焼土層。
第20層	赤褐色土	5YR4/6	
第21層	赤褐色土	5YR4/6	ローム質土が被熱。
第22層	橙色土	7.5YR6/8	ローム質土が被熱。
第23層	にぶい褐色土	10YR5/4	ローム質土層。
第24層	褐色土	10YR4/6	焼土・炭微量、小礫少量。
第25層	褐色土	10YR4/4	黒色土(10YR2/1) 微量、小礫少量。
第26層	褐色土	7.5YR4/6	ローム・小礫少量。
第27層	にぶい褐色土	10YR5/4	小礫少量、赤褐色土(5YR4/8)ブロック状に少量。
B	赤褐色土	2.5YR4/6	焼土ブロック。

図20　第６号建物跡（２）



P40

第6号建物跡出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備考	分類	整理番号
1	土師器	坏	体部上半	pit 1，フ	(15.0)	－	(6.0)	ロクロ	ロクロ	－	煤状炭化物付着		35
2	土師器	坏	底部	フ	－	4.9	(1.6)	ロクロ	ミガキ	回転糸切り	内黒		38
3	土師器	坏	底部	フ	－	5.3	(2.2)	ロクロ？	ミガキ	回転糸切り	内黒？		37
4	須恵器	坏	底部	106建物 pit13，フ	－	5.0	(1.2)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り			42
5	須恵器	甕	胴部	フ				タタキ	ナデ				44

第6号建物跡出土石・鉄製品観察表

図版番号	種類	品名	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	整理番号
6	石製品	不定形	フ	55.5	51	16	37.8	頁岩	S-33
7	鉄製品	刀子	床面直上，YH-101	156.5	15	9	(18.5)	保存処理済	F-3

図21　第6号建物跡（3）

外周溝

［形態・規模］掘立部分の上方と竪穴部分南西方向に外周溝が作られているものと思われる。完掘状態ではつながっていたが、第106号建物跡外周溝と重複しており、南側の直線的でＹＥ－102グリッド付近で東に曲がる幅30～124cmで深さ18～52cm、長さ9．5mのものと、長軸490cm、短軸100cmで溝状に近い長円形を呈する、深さ72cmのものとの二つの外周溝が作られていたものと思われる。

［壁・底面］断面形状は、「U」字状を呈しており、部分的に底面を平らに整えている部分もある。壁は、山側ではやや急な立ち上がりを見せ、谷側では緩く立ち上がる。

［関連土坑］特になし。

［堆積土］自然堆積と考えられる。

（神　康夫）

第106号建物跡（図22・図23）

［位置］ ＹＤ－101、ＹＥ－101・102、ＹＦ－101・102、ＹＧ－101・102、ＹＨ－101・102の各グリッドにまたがって位置する。

［重複］ 第６号建物跡は、本建物跡を拡張したものである。

［概要］ 本建物跡は当初１軒の建物跡として確認されていたが、改築がなされていることが判明したことから、新しい建物跡を第６号建物跡、古い方を第106号建物跡として記録することとした。全体の規模は、南北の長さ16ｍ、東西の幅は８ｍである。掘立部分の一部と思われる３個のピットが検出されている。

［出土遺物］ 内面黒色処理が施された土師器坏（１）、甕（３）、須恵器坏（２）が出土している。１は口縁部を打ち欠いて灯明皿として使用され、煤状炭化物が口縁の割れ口部分に付着している。

竪穴部分

［平面形・規模］ 第６号建物跡によって壊されており、壁溝の一部が検出されたのみである。規模は、南壁辺約570㎝、西壁辺約600㎝と推定されることから、やや東西に長い長方形をなすものと思われる。主軸方位はＳ－15.9°－Ｅで、床面積は推定31.0㎡である。

［壁・床］ 壁は拡張である第６号建物跡によって壊されており、不明である。床面は貼床を施して整えられていた。

［壁溝］ 壁溝は西壁と北壁において検出され、幅18～30㎝、深さ15㎝程度である。

［ピット］ ピットは９個検出され、ピット10・11は主柱穴となるものと思われ、ピット13・14もその可能性がある。

［カマド］ 南壁のやや西寄りの位置に半地下式のカマドが構築されている。袖部を含めたカマドの本体部分はほとんど第６号建物跡の構築によって壊されており、火床面自体も削平されて遺存しておらず、火床面下部のしまりのない焼土が検出されているのみである。煙道部は、竪穴部分から１ｍほど突出しているものと思われ、幅は23～55㎝で竪穴部分に近づくにしたがって広くなっている。煙出孔は、平面形態が50×40㎝の楕円形で、深さ18㎝のピット状となっている。

［その他の施設］ ピット12と15をつなぐように幅18～30㎝、深さ10㎝程度の溝が検出されている。他の建物跡にみられる床下溝と同じものと思われる。

［堆積土］ 図面として記録できなかったが、上部に第６号建物跡が構築されていることから、堆積土は第６号建物跡竪穴部分の貼床層である可能性が高く、ほとんど遺存していなかったものと思われる。

掘立部分

［規模］ ピット16・17・18が桁行方向の柱穴になるものと思われるが、ピット16・18間のピットと谷側のピット列は検出されなかった。規模は南北総長608㎝の３間、東西方向は不明であり、主軸方位はＳ－7.3°－Ｅである。

［柱間寸法］ 桁行方向は198㎝（６尺５寸）であるが、梁行方向は不明である。

外周溝

[形態・規模] 位置的には第6号建物跡外周溝と一部重複しながらやや南側に位置しており、直線的に作られている。屈曲部の北側では第6号建物跡外周溝によって壊されており、平面的にとらえることができなかった。外周溝の幅は30～50cmで、深さは18～30cm、長さは11m確認できた。また、YE－102グリッド付近で検出された溝らしい落ち込みは、本外周溝よりもさらに古い時期の外周溝である可能性がある。

[壁・底面] 断面形状は上部が大きく開く「U」字状を呈している。

[関連土坑] 特になし。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

(神　康夫)

第8号建物跡（図24～図26）

[位置] XX－98、XY－98・99、XZ－98・99、YA－98・99、YB－98・99の各グリッドにまたがって位置している。

[重複] 重複はないが、外周溝を作り替えているものと思われる。

[概要] 本建物跡は、竪穴部分に掘立柱建物跡が付随し、斜面上方である西側に外周溝を有する建物跡で、外周溝も含めた全体の規模は、南北の長さ16.5m、東西の幅7mを測る。

[出土遺物] 内面黒色処理の土師器坏（1）、土師器甕（2～6）、須恵器坏（7・8）、須恵器甕（9～11）、支脚片と思われるもの（12）、鉄滓片（13）が出土している。

竪穴部分

[平面形・規模] 東壁辺490cm、南壁辺482m、西壁辺510cm、北壁辺498cmを測る方形を呈している。主軸方位はS－4.5°－Eで、床面積は推定21.3m²である。

[壁・床] 壁高は、南壁65cm、西壁70cm、北壁60cmを測り、東壁は遺存していない。床面は、部分的に貼床を施して平坦に整えている。

[壁溝] 西壁、南壁と北壁の一部において、幅10～26cm、深さ10～18cmの壁溝が検出された。

[ピット] 2個検出され、ピット2が位置的に柱穴となりうる可能性がある。

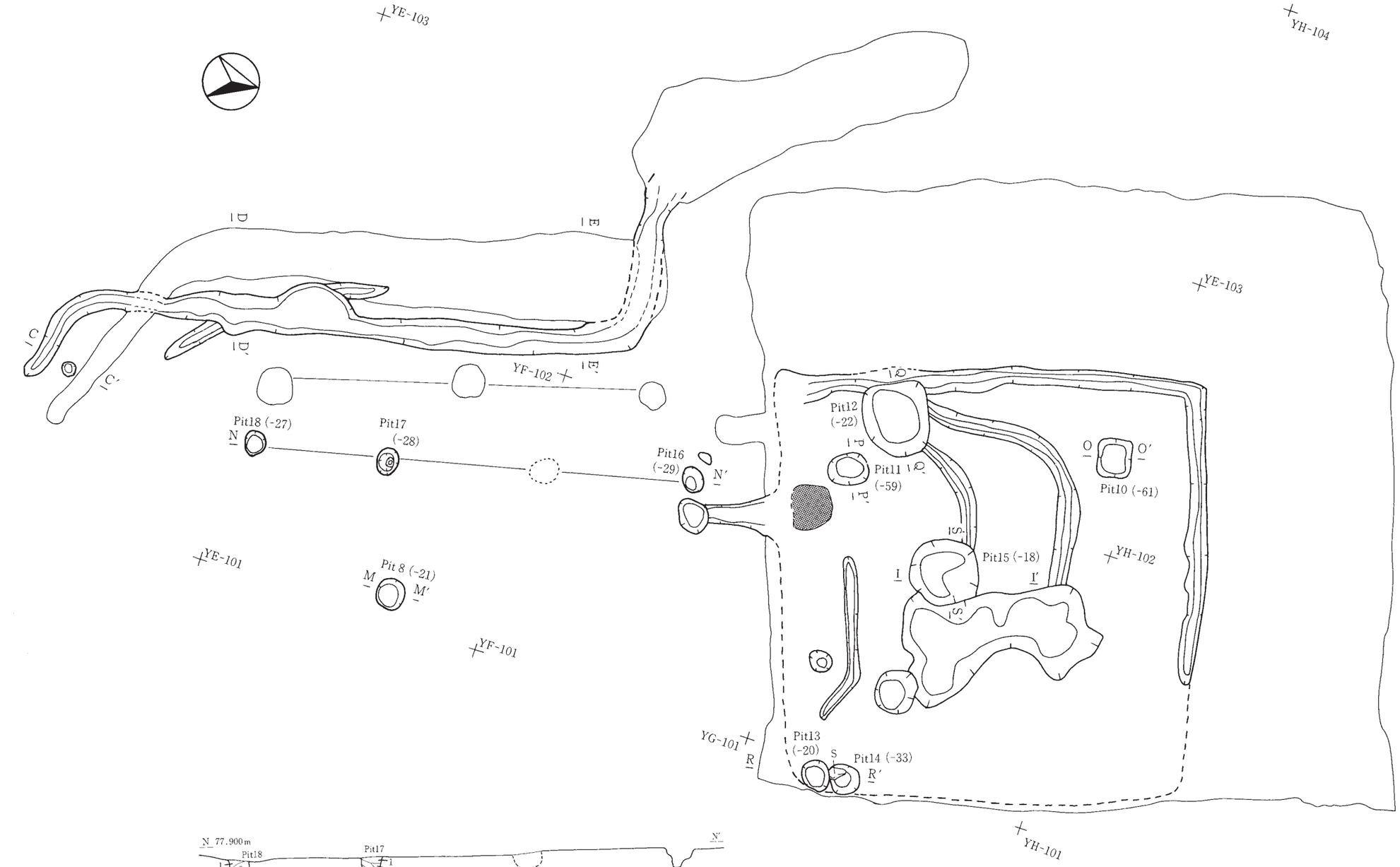
[カマド] 遺存状態は比較的良好で、半地下式のカマドである。袖は粘土で作られ、両袖の間は50cmの空間があり、内側が被熱して赤色化している。火床面は検出されなかった。煙道部は55cmほど竪穴部分の外側へ延びており、そこに直径45cm、深さ15cmほどの煙出孔が作られている。

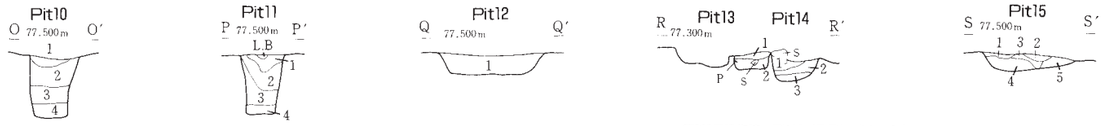
[その他の施設] 南壁の壁溝とつながる溝が1条検出された。27cm前後の一定幅で、深さ10cm程の溝が東西方向に作られている。この溝は他の建物跡にみられる床下溝とは異なり、床面が使用されていた時開口していたものと思われる。

[堆積土] 自然堆積である。

掘立部分

[規模] 柱穴が4個検出されて南北方向は3間確認できた。谷側の柱穴は検出されなかったものの、





第106号建物跡　Pit18（NN'セクション）
第１層　褐色土　10YR4/4　ローム・炭ごく微量、小礫微量。
第２層　暗褐色土　10YR3/4　ローム微量、小礫少量、炭ごく微量。

第106号建物跡　Pit17（NN'セクション）
第１層　褐色土　10YR4/6　ローム・小礫少量。
第２層　褐色土　10YR4/6　ローム・小礫微量。
第３層　褐色土　10YR4/4　ローム・小礫微量。
第４層　褐色土　10YR4/6　小礫微量。

第106号建物跡　Pit10（OO'セクション）
第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム・小礫少量。
第２層　褐色土　10YR4/6　黒色土(10YR1.7/1)微量、小礫少量。
第３層　褐色土　10YR4/4　ローム・小礫少量。
第４層　褐色土　10YR4/4　ローム・小礫少量。

第106号建物跡　Pit11（PP'セクション）
第１層　黒褐色土　10YR3/1　ローム中量。
第２層　にぶい褐色土　10YR5/4　黒褐色土(10Y 3/2) と明黄褐色土(10YR6/6) の混合土。
第３層　橙色土　7.5YR6/6　崩れたローム質土層。
第４層　明褐色土　7.5YR5/6　褐灰色土(10YR4/1) 少量、焼土微量、ローム主体。

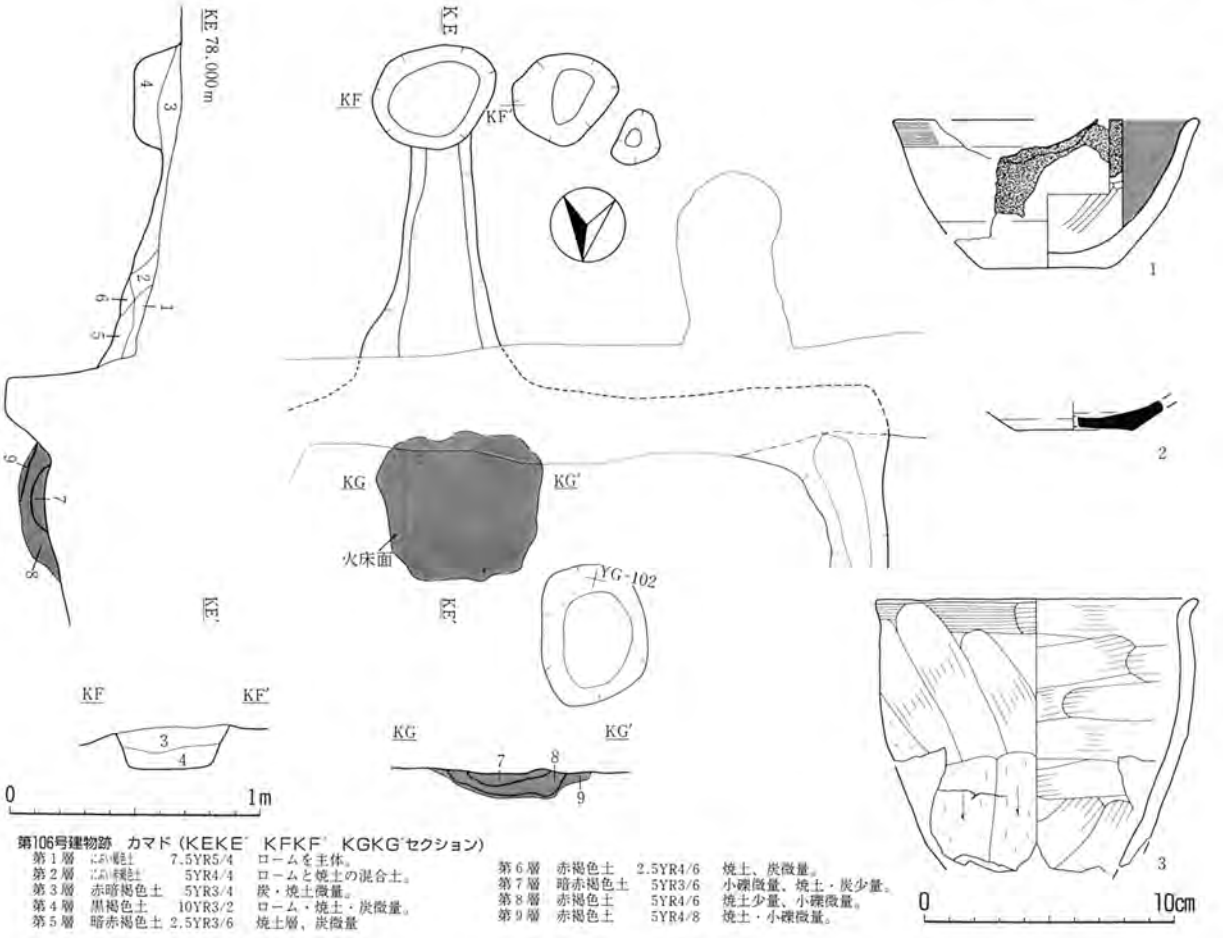
第106号建物跡　Pit12（QQ'セクション）
第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム・L.B 多量、焼土・炭少量、小礫微量。

第106号建物跡　Pit13（RR'セクション）
第１層　橙色土　7.5YR6/6　明黄褐色土(10YR6/6) と赤褐色焼土 (2.5YR4/8) の混合土、炭微量。
第２層　明黄褐色土　10YR6/8　焼土・炭微量。

第106号建物跡　Pit14（RR'セクション）
第１層　暗褐色土　10YR3/4　ローム・焼土微量。
第２層　暗褐色土　10YR3/4　ローム（φ１～10mm）少量。
第３層　暗褐色土　10YR3/3　ローム（φ１～30mm）少量。

第106号建物跡　Pit15（SS'セクション）
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム少量、炭微量。
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム少量、焼土・炭微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　ローム・炭微量。
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム・焼土・炭少量。
第５層　暗褐色土　10YR3/4　焼土・炭微量、炭少量。

図22　第106号建物跡（１）



第106号建物跡出土土器観察表

《口径・底径・器高の単位：cm》

図版番号	種　類	器　種	部　位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整（文様）	内面調整（文様）	底面調整	備　考	分　類	整理番号
1	土師器	坏	略完形	pit15，フ	12.2	5.0	6.0	ロクロ	ミガキ	磨滅のため不明	内外面煤状炭化物付着，内黒　灯明皿に転用，口縁部クロナデ		36
2	須恵器	坏	底部	pit13，フ	－	5.0	(1.2)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り			42
3	土師器	甕	体部上半	床面，YG-102	(13.0)	－	(11.0)	ナデ，ヘラケズリ	ナデ				33

図23　第106号建物跡（２）

掘立柱建物跡になるものと思われ、南北総長670cmで東西の規模は不明である。主軸方向はＳ－2．7°－Ｅである。

［柱間寸法］柱間寸法は梁行方向は不明であるが、桁行方向は223cm（７尺４寸）である。

外周溝

［形態・規模］外周溝は2条検出されているが、新旧関係は不明である。北側の外周溝は、竪穴部分の西側と北側を幅58～92cm、深さ50cm程の規模で巡り、長さは11m確認された。南側の外周溝は幅30～54cm、深さ25～40cm、長さは10m 確認されたが、北側に本来は延びているものと考えられる。掘立部分と南側の細い外周溝は同時期の可能性があるが、この細い外周溝と掘立柱建物跡が竪穴部分にあとから増築された可能性がある。

［壁・底面］北側の外周溝の断面形態は「U」字状を呈しており、底面は掘り方を持たないで平坦に

作られている。南側の外周溝の断面形態は丸みのある逆台形を呈しているものの、底面を水平に作っており、地形の傾斜があることから西側は深く、東側は浅くなっている。また、幅80cmほどに途中で広がるが、底面に高低差がないことから北側の壁が崩落して外周溝の覆土として入り込み、土坑状に開口したものと思われる。

[関連土坑] 特になし。

[堆積土] 一部ロームが多量に入り込んでいるものは壁の崩落と考えられ、全体としては自然堆積である。

(神　康夫)

第9号建物跡(図27・図28)

[位置] ＹＤ－94・95、ＹＥ－94・95、ＹＦ－93～95、ＹＧ－93～95、ＹＨ－95の各グリッドにまたがって位置する。

[重複] 第109号建物跡は、本建物跡の拡張前のものである。

[概要] 本建物跡は当初1軒の建物跡として確認されていたが、改築がなされていることから、新しい建物跡を第9号建物跡、古い方を第109号建物跡として記録することとした。竪穴部分に掘立柱部分が付随し、その西側に緩やかな弧状を呈する外周溝が巡る建物跡である。全体の規模は、南北の長さ16m、東西幅9mを測る。

[出土遺物] 竪穴部分から土師器甕(3・7)・須恵器壺(8)・大甕(9)、用途不明の石製品(10)、掘立部分のピット2から土師器坏(1)、土師器甕(4・6)、外周溝から土師器甕(2)の破片が、それぞれ出土している。

竪穴部分

[平面形・規模] 方形を呈し、南壁辺570cm、西壁辺602cm、北壁辺560cmを測る。主軸方位はＳ－9.2°－Ｅで、床面積は推定27.0m²である。

[壁・床] 各壁とも急な立ち上がりを呈する。壁高は南壁で40cm、西壁100cm、北壁44cmを測る。床面は西半部では地山を床面としているが、南東隅にロームを主体とした貼床が遺存していることから、東半部は貼床を施して床面を整えていたと思われる。

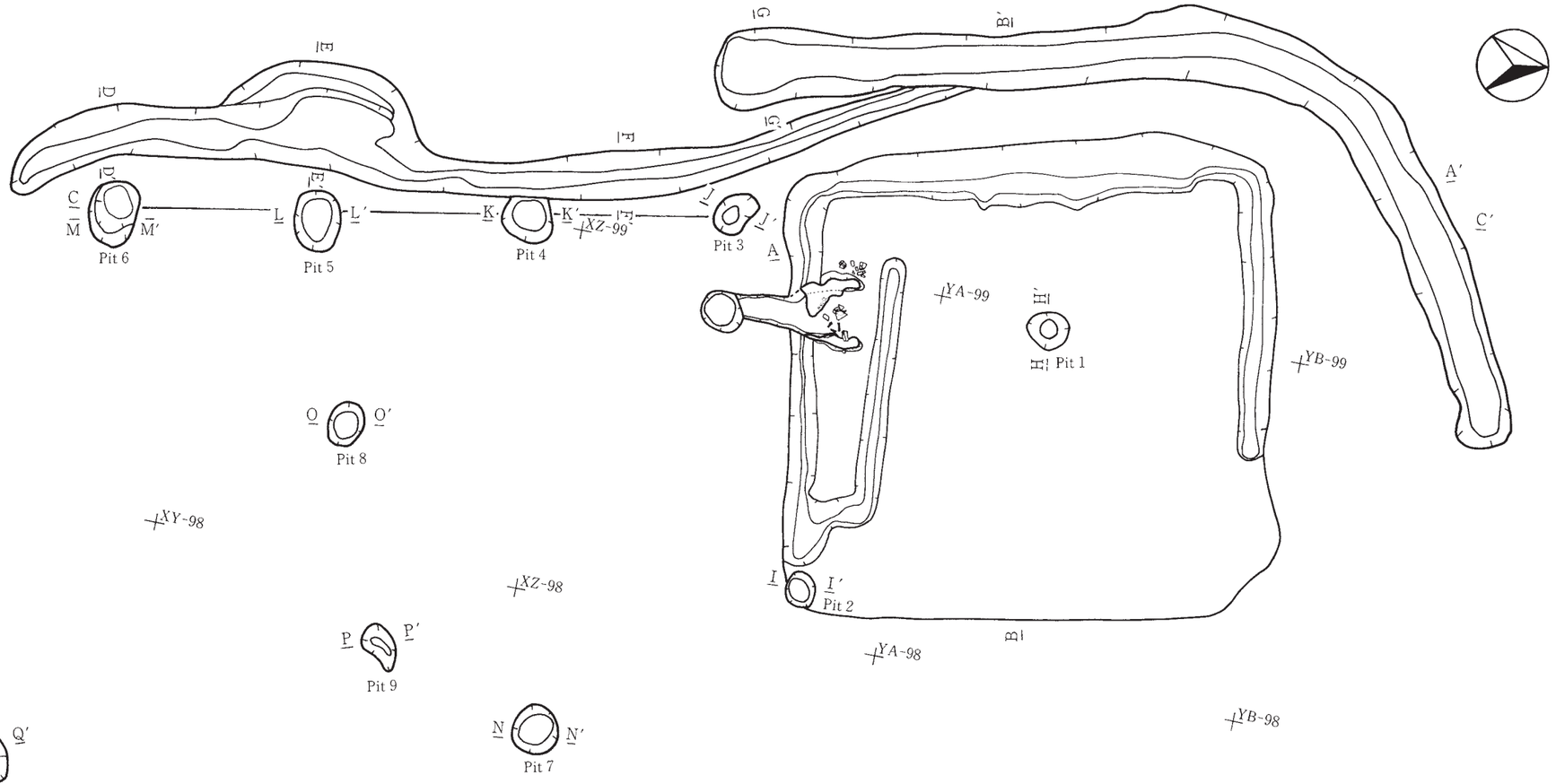
[壁溝] 東壁を除く各壁の直下から検出し、東側で一部とぎれる箇所もあるが、ほぼ全周するものと思われる。幅10～40cm、深さ20～30cmを測る。

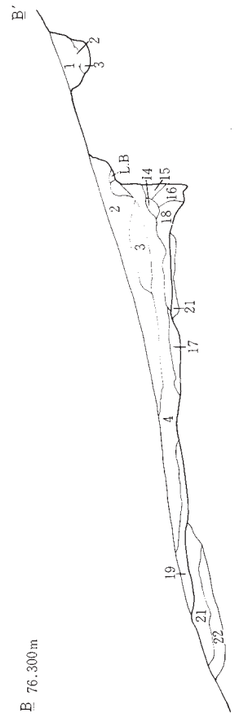
[ピット] ピットは北西隅で1基検出された。壁柱穴の可能性がある。

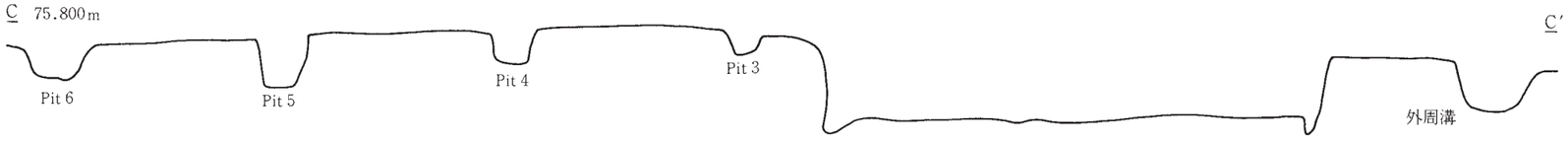
[カマド] 南壁の西壁寄りに位置し、遺存状態は比較的良好であった。火床面は右袖寄りに検出されその上部からは炭化材が検出されている。袖はロームによって構築されており、芯材は認められなかった。煙道部は火床面から住居の壁面に沿って急激に立ち上がっている。煙出孔は明確に確認できなかった。

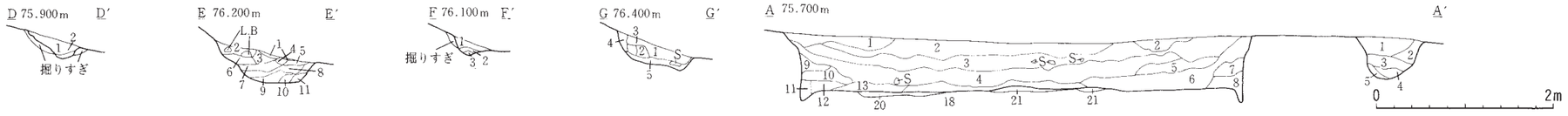
[その他の施設] 他の建物跡で検出されている床下溝や住居内土坑は検出されなかった。

[堆積土] 自然堆積と思われる。









第８号建物跡　外周溝（DD′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・小礫（φ３～５mm）微量、赤褐色焼土(5YR4/8)・炭少量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム中量、黒色土(10YR2/1) 少量。

第８号建物跡　外周溝（EE′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・砂礫・炭中量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム微量、L.B ２個。
第３層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・小礫（φ３～６mm）微量。
第４層	黒褐色土	10YR3/2	ローム少量、砂礫多量、小礫（φ２～５mm）中量。
第５層	黄褐色土	10YR5/6	ローム質土層、砂礫・小礫（φ３～５mm）少量、暗褐色土(10YR3/3) が層位下部に幅１cmで堆積している。
第６層	黒褐色土	10YR2/2	砂礫少量。
第７層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、砂礫中量、礫（φ20～25mm）微量。
第８層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・小礫（φ５～８mm）少量。
第９層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、砂礫中量、黒褐色土(10YR2/2) 少量。
第10層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量。
第11層	黒褐色土	10YR3/2	ローム少量、赤褐色焼土(5YR4/8)中量。

第８号建物跡　外周溝（FF′セクション）

第１層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・炭微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム少量。
第３層	暗褐色土	10YR3/3	ローム中量、小礫（φ２～３mm）少量。

第８号建物跡　外周溝（GG′セクション）

第１層	暗褐色土	10YR3/3	ローム微量、小礫（φ３～５mm）・炭少量。
第２層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/3) 中量。
第３層	暗褐色土	10YR3/4	ローム少量。
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量、礫（φ30～40mm）微量。
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、小礫（φ５～６mm）中量、黒色土(10YR2/1) 中量。

第８号建物跡　外周溝（AA′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム中量、砂礫微量、小礫（φ３～６mm）少量、炭中量。
第２層	黒色土	10YR1.7/1	砂礫微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム多量、砂礫・小礫（φ４～６mm）微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム微量、炭少量。
第５層	黒褐色土	10YR2/2	小礫（φ３～５mm）微量。

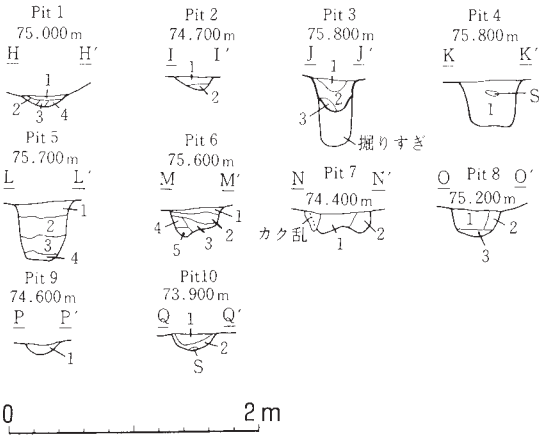
第８号建物跡　外周溝（BB′セクション）

第１層	暗褐色土	10YR2/3	ローム中量、黒色土(10YR2/1)・暗赤褐色焼土(5YR3/6)・炭微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム少量、小礫（φ５～７mm）・炭微量。
第３層	褐色土	10YR4/4	ローム多量、小礫（φ３～４mm）・炭少量。

第８号建物跡（AA′　BB′セクション）

第１層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量。
第２層	黒色土	10YR1.7/1	ローム少量、炭微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・炭少量。
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、L.B 少量。
第５層	黒褐色土	10YR2/2	ローム、L.B 、炭少量。
第６層	黒褐色土	10YR2/2	B－Tm微量、L.B 多量、ローム・炭少量。
第７層	黒褐色土	10YR2/3	ローム多量、炭微量。
第８層	黒褐色土	10YR2/2	L.B 多量、炭微量。
第９層	褐色土	10YR4/4	
第10層	暗褐色土	10YR3/4	ローム、炭少量。
第11層	褐色土	10YR4/4	
第12層	褐色土	10YR4/4	
第13層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、炭微量。
第14層	褐色土	10YR4/6	黒褐色土少量。
第15層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量。
第16層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量。
第17層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量。
第18層	黒褐色土	10YR2/2	黒褐色土・ローム少量、炭微量。
第19層	黒褐色土	10YR2/3	炭微量。
第20層	褐色土	10YR4/4	ローム少量、暗褐色土(7.5YR3/4)多量、赤褐色焼土(5YR4/6)中量、炭少量。
第21層	明褐色土	7.5YR5/8	砂礫中量、橙色土(7.5YR6/8)のローム少量、黒色土(10YR2/1)・ローム(7.5YR5/8)の混合土。
第22層	黒色土	10YR2/1	ローム多量、小礫（φ５～８mm）少量、赤褐色焼土(5YR4/8)微量。

図24　第８号建物跡（１）



第8号建物跡　Pit1（HH′セクション）

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム中量、小礫（φ2～3mm）・炭微量。
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・砂礫少量。
第3層	黒褐色土	10YR3/2	小礫（φ3～5mm）・赤褐色焼土(5YR4/8)中量微量。
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・小礫（φ2mm）微量。

第8号建物跡　Pit2（II′セクション）

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量、小礫（φ3～6mm）・炭微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム・小礫（φ5～6mm）・炭微量。

第8号建物跡　Pit3（JJ′セクション）

第1層	暗褐色土	10YR3/4	ローム、小礫（φ3～7mm）少量、炭微量。
第2層	褐色土	10YR4/4	ローム微量、小礫（φ3～5mm）少量。
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム中量、礫（φ40mm）1個。

第8号建物跡　Pit4（KK′セクション）

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム質土層、小礫（φ3～4mm）・黒色土(10YR2/1) 中量、礫（φ30～50mm）・明赤褐色焼土(5YR5/8)少量。

第8号建物跡　Pit5（LL′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量、赤褐色焼土(5YR4/8)微量。
第2層	褐色土	10YR4/4	ローム質土層、小礫（φ2～5mm）・黒褐色土(10Y 3/2) 少量。
第3層	褐色土	10YR4/4	ローム質土層、礫（φ30～50mm）少量、小礫（φ3～6mm）中量、黒褐色土(10Y 3/2) 中量、橙色焼土(7.5YR6/8)少量。
第4層	黒褐色土	10YR3/2	ローム多量、小礫（φ5～8mm）少量、橙色焼土(7.5YR6/8)微量。

第8号建物跡　Pit6（MM′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、小礫（φ5～7mm）・赤褐色焼土(5YR4/8)・炭微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/3	小礫（φ3～6mm）少量。
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム微量、礫（φ10～20mm）少量。
第4層	黒色土	10YR2/1	小礫（φ3～5mm）微量。
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量、小礫（φ4～6mm）微量。

第8号建物跡　Pit7（NN′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・小礫（φ3～6mm）微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/3	小礫（φ2～4mm）少量、赤褐色焼土(5YR4/6)・炭微量。

第8号建物跡　Pit8（OO′セクション）

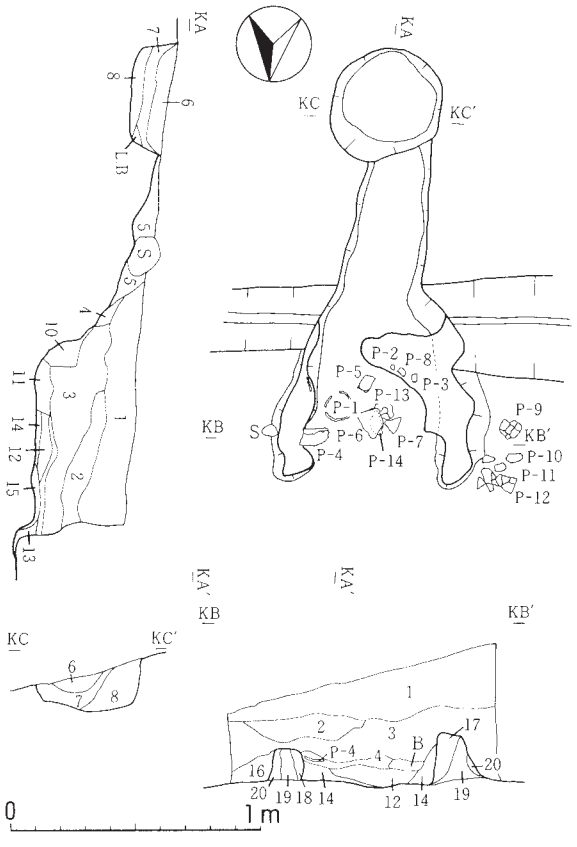
第1層	黒褐色土	10YR2/2	暗赤褐色焼土(5YR3/3)微量、ローム・炭少量。
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム微量、赤褐色焼土(5YR4/8)微量。
第3層	黒色土	10YR2/1	ローム多量。

第8号建物跡　Pit9（PP′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム微量、小礫（φ2mm）少量、明褐色焼土(7.5YR5/6)微量。

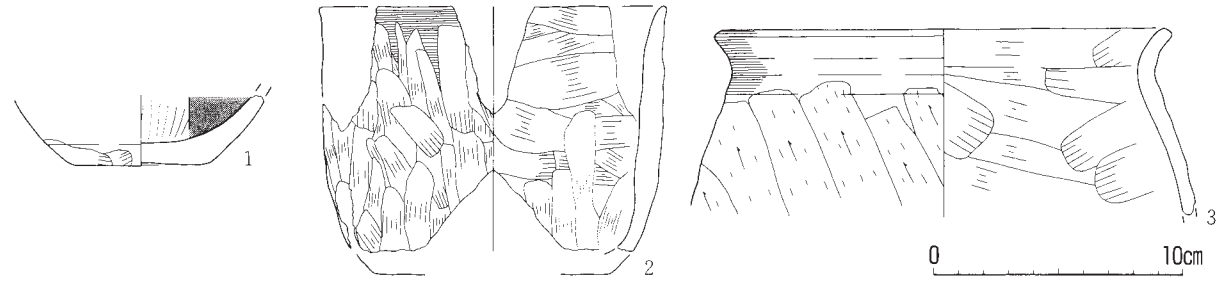
第8号建物跡　Pit10（QQ′セクション）

第1層	黒色土	10YR2/1	赤褐色焼土(5YR4/8)微量、ローム・炭少量。
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム多量、黒色土(10YR2/1) 少量。



第8号建物跡　カマド（KAKA′　KBKB′　KCKC′セクション）

第1層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量。
第2層	暗褐色土	10YR3/2	ローム少量、焼土微量。
第3層	褐色土	10YR4/4	ローム微量、焼土ごく微量。
第4層	黒褐色土	10YR3/1	暗赤褐色焼土(2.5YR3/3)中量。
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム微量、にぶい赤褐色焼土(2.5YR4/4)中量。
第6層	暗褐色土	10YR3/3	赤褐色焼土(2.5YR4/6)少量。
第7層	暗褐色土	10YR3/3	炭（φ2～5mm）微量。
第8層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量。
第9層	暗褐色土	10YR3/3	5mmの黒色土(10YR2/1) 微量。
第10層	赤褐色土	2.5YR3/6	焼土ブロック（φ50mm）、炭（φ2～5mm）微量。
第11層	黒褐色土	10YR2/3	焼土少量、炭微量。
第12層	黒褐色土	10YR2/2	焼土微量、炭少量。
第13層	黒褐色土	10YR3/2	ローム、焼土微量。
第14層	赤褐色土	5YR3/3	焼土少量、炭微量。
第15層	黒褐色土	10YR2/2	焼土少量、炭（φ5mm）少量。
第16層	黄褐色土	10YR5/6	ローム少量。
第17層	赤褐色土	2.5YR4/6	ローム質土層、小礫（φ2～4mm）・黒褐色土(10YR2/2)。炭少量。
第18層	にぶい褐色土	5YR4/4	ローム質土層、小礫（φ2～3mm）微量。
第19層	褐色土	7.5YR4/6	ローム質土層、小礫（φ3～5mm）微量、炭微量。
第20層	暗褐色土	10YR3/4	ローム質土層、小礫（φ5～8mm）微量、炭微量。
B	赤褐色土	2.5YR4/6	焼土ブロック

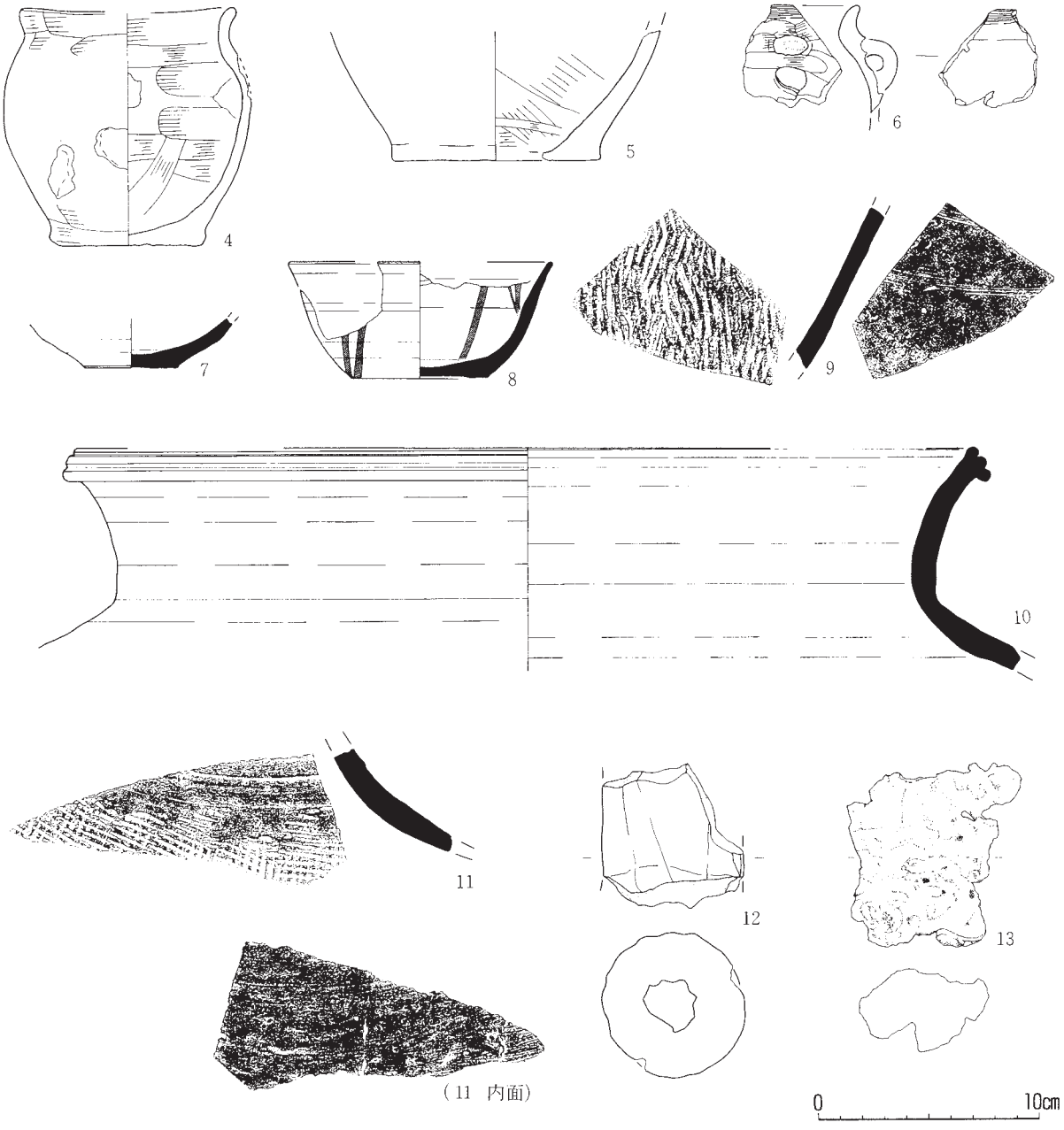


第8号建物跡出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備考	分類	整理番号
1	土師器	坏	底部	YA-98, フ	－	5.4	(2.8)	ロクロ, ナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒		57
2	土師器	甕	体部上半	床面, 外周溝B, フ	(13.6)	－	(9.8)	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラナデ		P-3		47
3	土師器	甕	口縁部	カマド, フ	(18.4)		(7.5)	ナデ, ヘラケズリ	ヘラナデ	－	P-6, P-8		48

図25　第8号建物跡（2）



第8号建物跡出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備考	分類	整理番号
4	土師器	甕	略完形	カマド,フ	10.4	6.8	10.8	ナデ,胴部磨滅により不明	ナデ	砂底	外面上付着、剥落		55
5	土師器	甕	底部	フ	−	(9.4)	(5.9)	磨滅により不明	ヘラナデ	磨滅により不明			54
6	土師器	外耳土器？	口頸部	外周溝B YA-99,フ	−	−	(4.5)	ナデ	ナデ				52
7	須恵器	坏	底部	8H,YA-98 床面 103H カマド,フ	−	4.2	(2.2)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	P-2		91
8	須恵器	坏	略完形	外周溝B YA-99,フ	(11.8)	(6.2)	(5.3)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	火ダスキ痕		58
9	須恵器	大甕	胴部	外周溝B YA-99,フ	−	−	−	タタキ	ナデ				61
10	須恵器	大甕	口頸部	8H,YA-98 床面,フ 2H YU-99,フ	(40.0)	−	(10.0)	ロクロ	ロクロ				90
11	須恵器	大甕	頸部	YA-98,フ		−	−	ナデ,タタキ	ナデ				59

第8号建物跡出土土・鉄製品観察表

図版番号	種類	品名	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	整理番号
12	土製品	支脚	カマド,床	66	64	65	143.2	P-13	
13	鉄製品	鉄滓	床直,YA-98	82.5	79.5	45	157.7		

図26 第8号建物跡（3）

掘立部分

［規模］ 柱穴が６個検出され、南北方向、東西方向ともに２間確認できた。南北総長550㎝、東西総長440㎝の掘立柱建物跡で、主軸方位はＳ－１°－Ｗ、床面積は推定23.3㎡を測る。

［柱間寸法］ 柱間寸法は、桁行方向が222㎝（７尺３寸）で、梁行方向が172㎝（５尺７寸）を測る。

外周溝

［形態・規模］ 住居拡張に伴って増築した掘立部分まで外周溝を延長していることが確認された。全体の形状は、竪穴部分の山側を緩やかな弧状を呈しながら東西に伸びる。幅は20㎝～114㎝と一定せず、南端部に土坑状の膨らみを持つ。深さは10～20㎝と比較的浅い。

［壁・底面］ 断面形態は大きく開く「Ｕ」字状を呈する。北端部と中央部の土坑状の膨らみは底面に段差が認められ、セクションの土層観察などから、住居拡張に伴って外周溝も掘り直している可能性がある。

［関連土坑］ 南端部で外周溝が円形に膨らみ、土坑状の落ち込みになっている。規模は、径74㎝で深さは不明である。

［堆積土］ 自然堆積と思われる。

（奈良岡　淳）

第109号建物跡（図29）

［位置］ ＹＤ－94・95、ＹＥ－94・95、ＹＦ－93～95、ＹＧ－93～95、ＹＨ－95の各グリッドにまたがって位置する。

［重複］ 第９号建物跡は、本建物跡の拡張後のものである。

［概要］ 本建物跡は当初１軒の建物跡として確認されていたが、改築がなされていることから、新しい建物跡を第９号建物跡、古い方を第109号建物跡として記録することとした。南側に拡張されたため南壁は残存せず、本建物跡に付随すると思われる外周溝も一部しか残っていないが、遺存する部分から推測される全体の規模は、南北長9.6ｍ、東西幅8.7ｍを測る。

［出土遺物］ 竪穴部分から土師器甕の破片が出土している。

竪穴部分

［平面形・規模］ 遺存する壁及び壁溝から推測すると平面形は方形を呈し、南壁辺664㎝、西壁辺660㎝、北壁辺662㎝を測る。主軸方位は、カマドが検出されなかったため不明であるが、遺存する西壁及び北壁が第９号建物跡と平行していることから、ほぼＳ－9.2°－Ｅを指すと思われる。推定床面積は、26.9㎡を測る。

［壁・床］ 西壁及び北壁は急な立ち上がりを呈し、壁上部で外側に開く。覆土全体にわたってロームが混入していることから、壁が崩落したものと思われる。壁高は西壁で100㎝、北壁で60㎝を測る。床は第９号建物跡と同様、西側が堅くしまり、東側を貼床等で整えたものと思われる。

［壁溝］ 各壁の直下から検出され、東側で確認できなかった部分があるものの床面をほぼ一周すると思われる。

[ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかった。

[その他の施設] 床下溝や住居内土坑は検出されなかった。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

掘立部分

検出されなかった。

外周溝

[形態・規模] 竪穴部分の西側を緩やかな弧状を呈しながら東西に伸びる。幅は20～114cmと一定しない。

[壁・底面] 壁・底面ともに堅く、しまっている。

[関連土坑] 検出されなかった。

[堆積土] 自然堆積と思われる。

(奈良岡　淳)

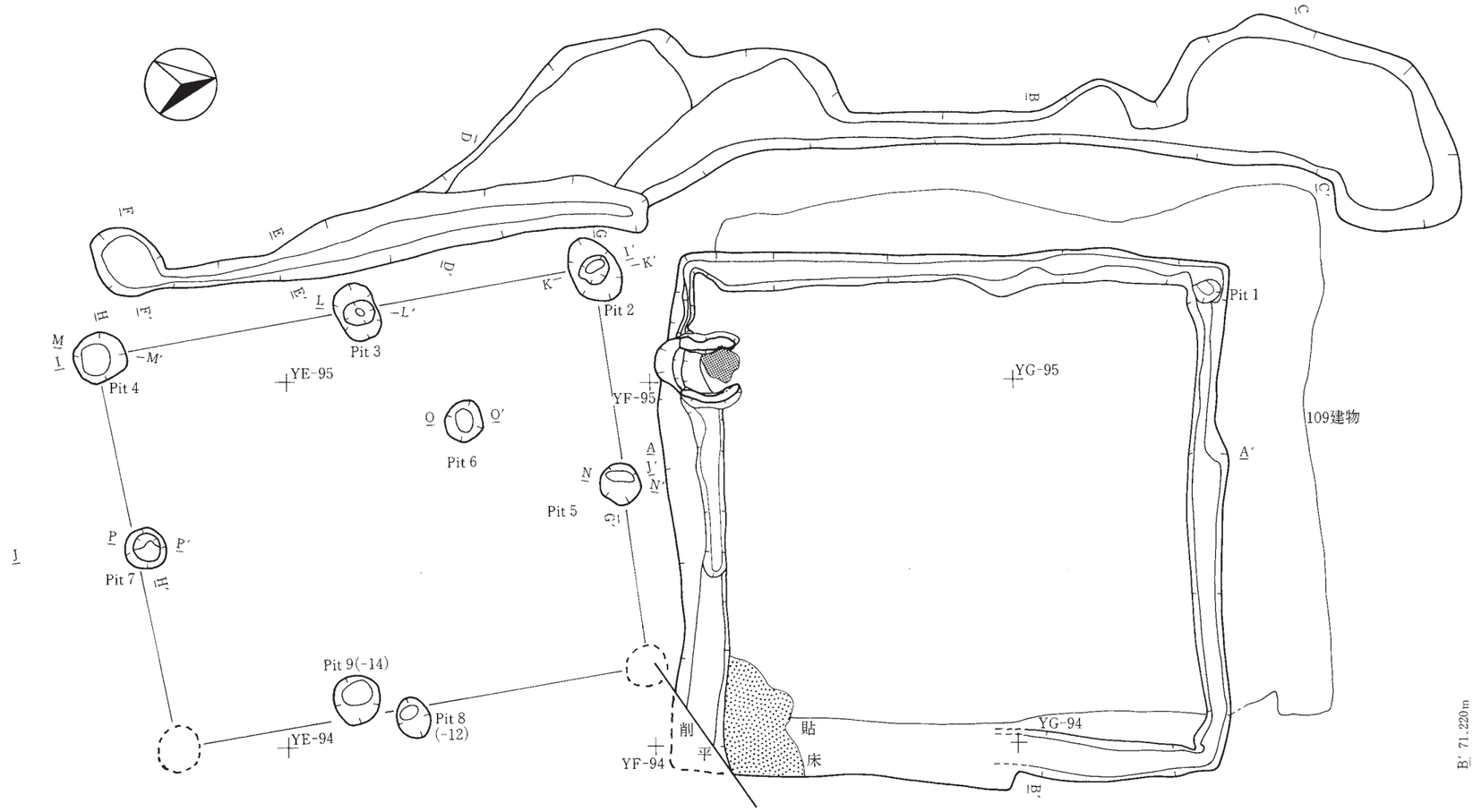
〈小　結〉

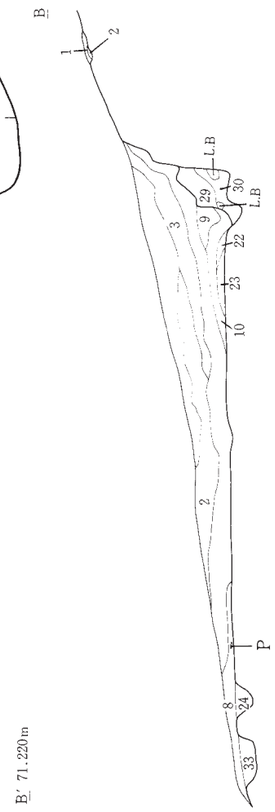
今回の調査において検出された建物跡の特徴は、竪穴住居と掘立柱建物、外周溝の3つの遺構がまとまって1軒の建物となっている点である。調査区域は西から東へ急勾配で傾斜しており、外周溝を有する7軒の建物跡はいずれも傾斜の上面、西側に外周溝を作っている。掘立柱建物跡も、山側の柱穴は確認できたが、谷側の柱穴が検出されていないものがほとんどである。しかし、今回の調査区域のすぐ東側に位置している、斜面が落ちきって谷地形の底部分にあたる平成5年度の調査でも、竪穴部分のカマド側に2間×2間の構造の掘立柱建物跡が位置している。このことから、今回検出されたピットも単なる柵とは考えられず、この部分にはやはり掘立柱建物が付随していたものと考えられる。ただ傾斜地に立地していることから、谷側の柱穴はローム面まで掘り込まれなかったものと思われ、柱穴として検出することはできなかった。おそらく2間×2間の規模を有する掘立柱建物が多いものと思われる。また、改築に伴って掘立柱建物を持たなくなるものやはじめから持たないものも存在している。改築されている建物跡は、外周溝も掘り直しているが、その際掘立柱建物を付随しなくなるものも見受けられ、掘立柱建物は持たなくても外周溝は作られる傾向にある。

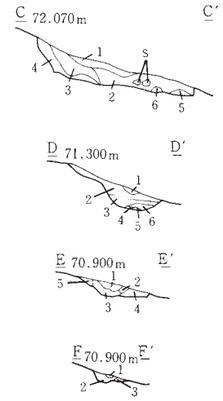
改築の原因の一つとして、土砂崩れが考えられる。第109号建物跡覆土にロームブロックが多量混入し、それを掘り返して第9号建物跡が作られている状況が観察できる。したがって、第109号建物跡が土砂崩れによって崩壊したため、第9号建物跡に建て直したものと思われる。

また、第2号建物跡の山側には礫層が露呈しており、そこからロームと共に礫が土砂崩れを起こして外周溝覆土中位に流入している事例もある。

第6号建物跡覆土でも南壁西側と西壁に並行してロームが堆積しており、壁際に近づけば近づくほど厚い三角状の堆積状況を示している。そして竪穴部分南側と西側の壁上部の地山が削れており、この地山部分が竪穴部分に流入したものと推察される。







第９号建物跡　外周溝（AA′セクション）

第１層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・小礫（φ２～４mm）微量。
第２層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム中量。

第９号建物跡　外周溝（CC′セクション）

第１層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量、炭微量、小礫（φ２～４mm）少量。
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・炭少量、小礫（φ２～４mm）微量。
第３層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量、炭微量、礫（φ10～20mm）微量、黒褐色土(10YR2/2) 微量。
第４層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR2/2)微量、褐色土(7.5YR4/6)中量、地山の流れ込みか。
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、砂礫少量。

第９号建物跡　外周溝（DD′セクション）

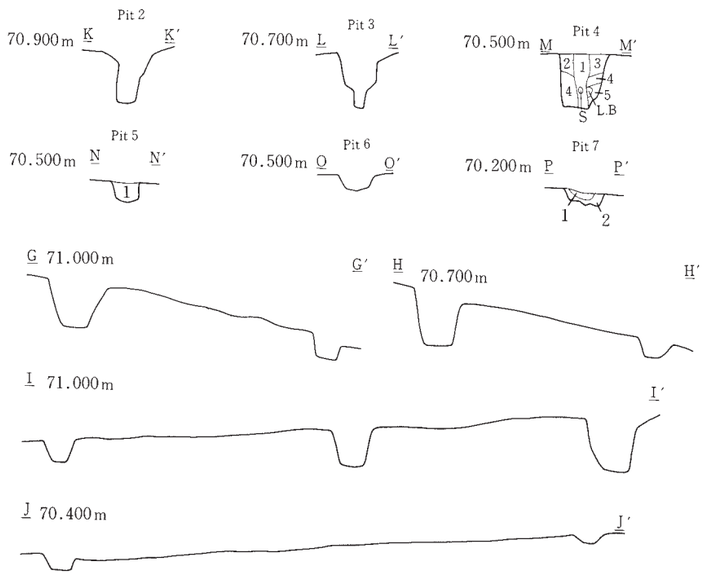
第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・炭微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	ローム・炭少量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・炭微量。
第４層	黒褐色土	10YR3/3	ローム少量、炭微量。
第５層	黒褐色土	10YR2/2	ローム微量。
第６層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量、黒色土(10YR2/1) 微量。

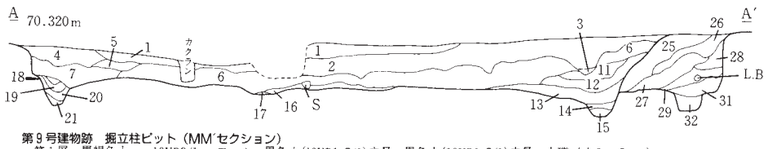
第９号建物跡　外周溝（EE′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量、炭微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・小礫（φ２～３mm）微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム中量、炭少量。小礫（φ３～５mm）少量。

第９号建物跡　外周溝（FF′セクション）

第１層	黒色土	10YR2/1	ローム・砂礫微量。
第２層	黒色土	10YR2/1	ローム中量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム多量、黒色土(10YR2/1) 少量、焼土(5YR3/6)微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム中量、小礫（φ２～４mm）微量。焼土(5YR4/8)微量。
第５層	黒褐色土	10YR2/2	ローム中量、黒色土(10YR2/1) 微量、小礫（φ２～４mm）微量。





第９号建物跡　掘立柱ピット（MM′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR3/1	ローム・黒色土(10YR1.7/1)中量、黒色土(10YR1.7/1)中量、小礫（φ３～５mm）中量、礫（φ10～30mm）少量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量、黒色土(10YR1.7/1)少量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム多量、黒色土(10YR1.7/1)少量、小礫（φ２～５mm）少量。
第４層	黒色土	10YR2/1	ローム少量。
第５層	黒色土	10YR2/1	L.B 混入。

第９号建物跡　掘立柱ピット（NN′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR3/2	ローム少量、小礫（φ３～６mm）少量、焼土(5YR4/8)微量。

第９号建物跡　掘立柱ピット（PP′セクション）

第１層	黒色土	10YR2/1	ローム微量、焼土(5YR4/8)微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム中量、焼土(5YR4/8)微量。小礫（φ２～４mm）微量。

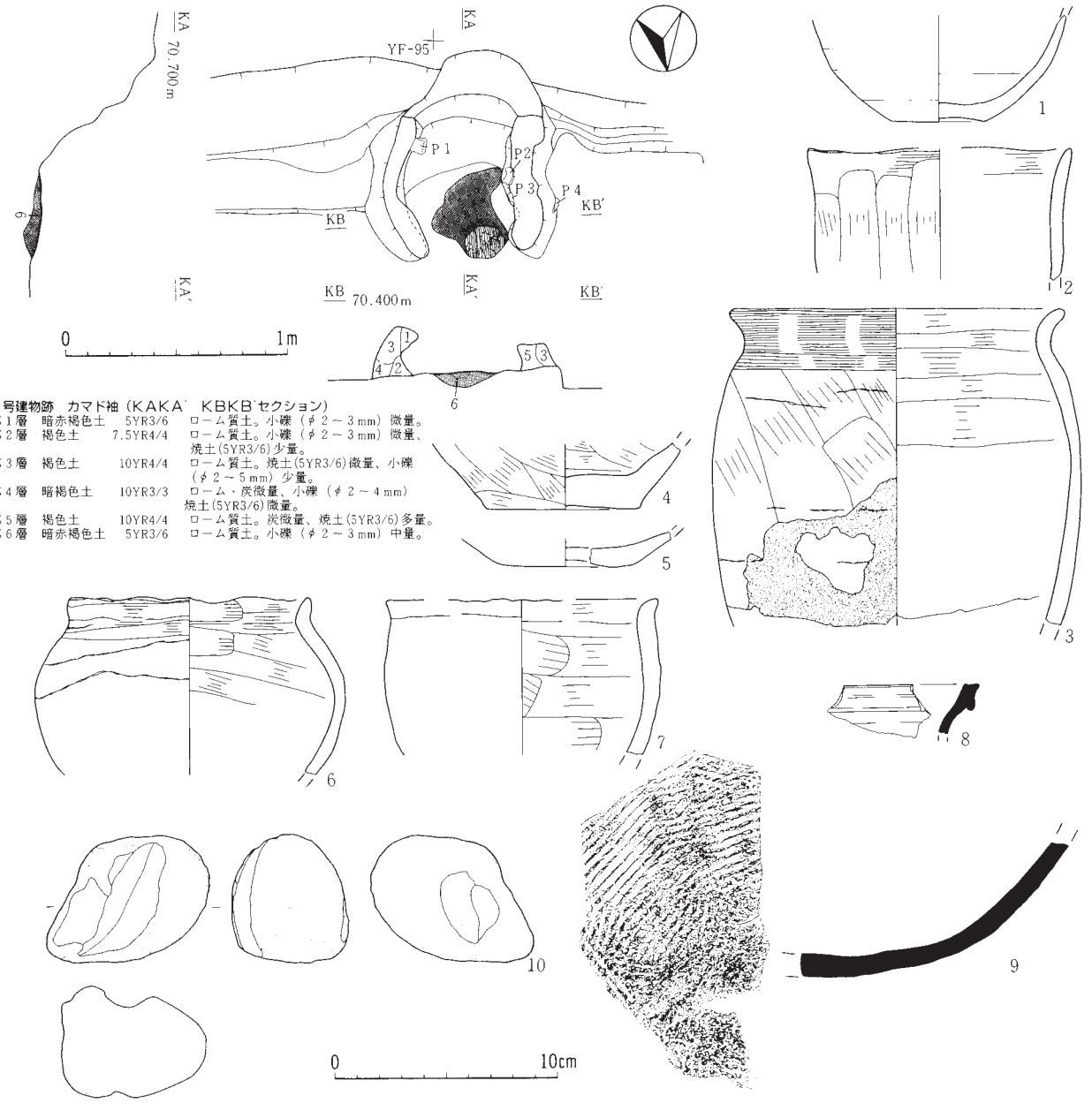
第109号建物跡（AA′　BB′セクション）

第25層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム質土。黒色土(10YR2/1) 微量、炭微量、礫（φ20～40mm）中量、小礫（φ２～８mm）多量、焼土(5YR4/6)微量。
第26層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	ローム質土。炭微量、焼土(7.5YR5/6)微量、小礫（φ２～５mm）中量、礫（φ10～30mm）微量。
第27層	黄褐色土	10YR5/6	ローム質土。礫（φ40mm）微量、小礫（φ２～３mm）多量。
第28層	褐色土	10YR4/4	ローム質土。炭微量。小礫（φ４～６mm）中量、暗褐色土(10YR3/3) 少量。
第29層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・炭少量。
第30層	黒褐色土	10YR2/2	ローム多量、炭少量、黒色土(10YR2/1) 中量、礫混じりのL.B 混入。
第31層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム質土。炭微量、暗褐色土(10YR3/3) 少量、礫（φ15～20mm）少量、小礫（φ３～６mm）少量、焼土(5YR5/8)微量。
第32層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	ローム質土。黒褐色土(10YR2/2) 少量、焼土(5YR4/6)ブロック混入、小礫（φ３～５mm）中量、焼土(7.5YR5/6)少量。
第33層	暗褐色土	10YR3/3	ローム微量。

図27　第９号建物跡（１）

第９号建物跡（AA′　BB′セクション）

第１層	黒色土	10YR2/1	ローム微量、炭・小礫（φ４～７mm）・焼土（5YR4/8）・黒褐色土(10YR2/2) 少量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	炭中量、ローム・礫（φ３～20mm）少量、焼土（5YR4/8）微量。
第３層	黒色土	10YR2/1	ローム・炭・小礫（φ２～５mm）微量、暗褐色土(10YR3/3) 少量。
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・小礫（φ３～５mm）少量。
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量、小礫（φ２mm）中量、焼土(7.5YR3/4)微量。
第６層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・炭微量、小礫（φ３～６mm）中量、礫（φ10-20mm)少量。
第７層	褐色土	10YR4/4	炭少量、焼土(7.5YR3/4)微量、小礫（φ２～５mm）・礫（φ10～20mm）中量。
第８層	暗褐色土	10YR3/4	ローム少量、炭微量、小礫（φ５～８mm）中量、礫(φ30-40mm)微量。
第９層	暗褐色土	10YR3/3	ローム中量、炭少量、小礫（φ２～３mm）微量、黒褐色土(10YR2/1) 少量。
第10層	暗褐色土	10YR3/3	ローム多量、炭中量、礫（φ１５～３０mm）少量。
第11層	黄褐色土	10YR5/6	明褐色土(7.5YR5/8)・砂礫中量、小礫（φ２～４mm）少量、黒褐色土(10YR2/2) 微量、層全体がローム質土。
第12層	暗褐色土	10YR3/4	ローム中量、炭少量、酸化鉄粒・明褐色土(7.5YR5/8)微量。
第13層	褐色土	10YR4/4	ローム中量、炭少量、明褐色土(7.5YR5/8)微量、小礫（φ３～８mm）少量、礫（φ30mm）・焼土(10YR4/6) 微量。
第14層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム多量、小礫（φ５～８mm）少量。
第15層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム多量、礫（φ15～20mm）少量、黒褐色土(10YR2/2) 微量。
第16層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量、炭少量、礫（φ15mm）微量、小礫（φ２～４mm）少量。
第17層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム少量、炭微量。
第18層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量、焼土微量、小礫（φ３～５mm）少量。
第19層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム中量、炭・礫（φ20～30mm）少量。
第20層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・小礫（φ２～４mm）少量。
第21層	暗褐色土	10YR3/4	ローム多量、黒褐色土(10YR3/2) 微量。
第22層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量、黒色土(10YR2/1) 少量。
第23層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭微量、褐色土(7.5YR4/6)中量、砂礫多量、小礫（φ５～９mm）微量。
第24層	黒褐色土	10YR3/2	ローム微量。



第９号建物跡　カマド袖（KAKA'　KBKB'セクション）

第１層	暗赤褐色土	5YR3/6	ローム質土。小礫（φ２～３mm）微量。
第２層	褐色土	7.5YR4/4	ローム質土。小礫（φ２～３mm）微量、焼土(5YR3/6)少量。
第３層	褐色土	10YR4/4	ローム質土。焼土(5YR3/6)微量、小礫（φ２～５mm）少量。
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・炭微量、小礫（φ２～４mm）焼土(5YR3/6)微量。
第５層	褐色土	10YR4/4	ローム質土。炭微量、焼土(5YR3/6)多量。
第６層	暗赤褐色土	5YR3/6	ローム質土。小礫（φ２～３mm）中量。

第９号建物跡出土土器観察表

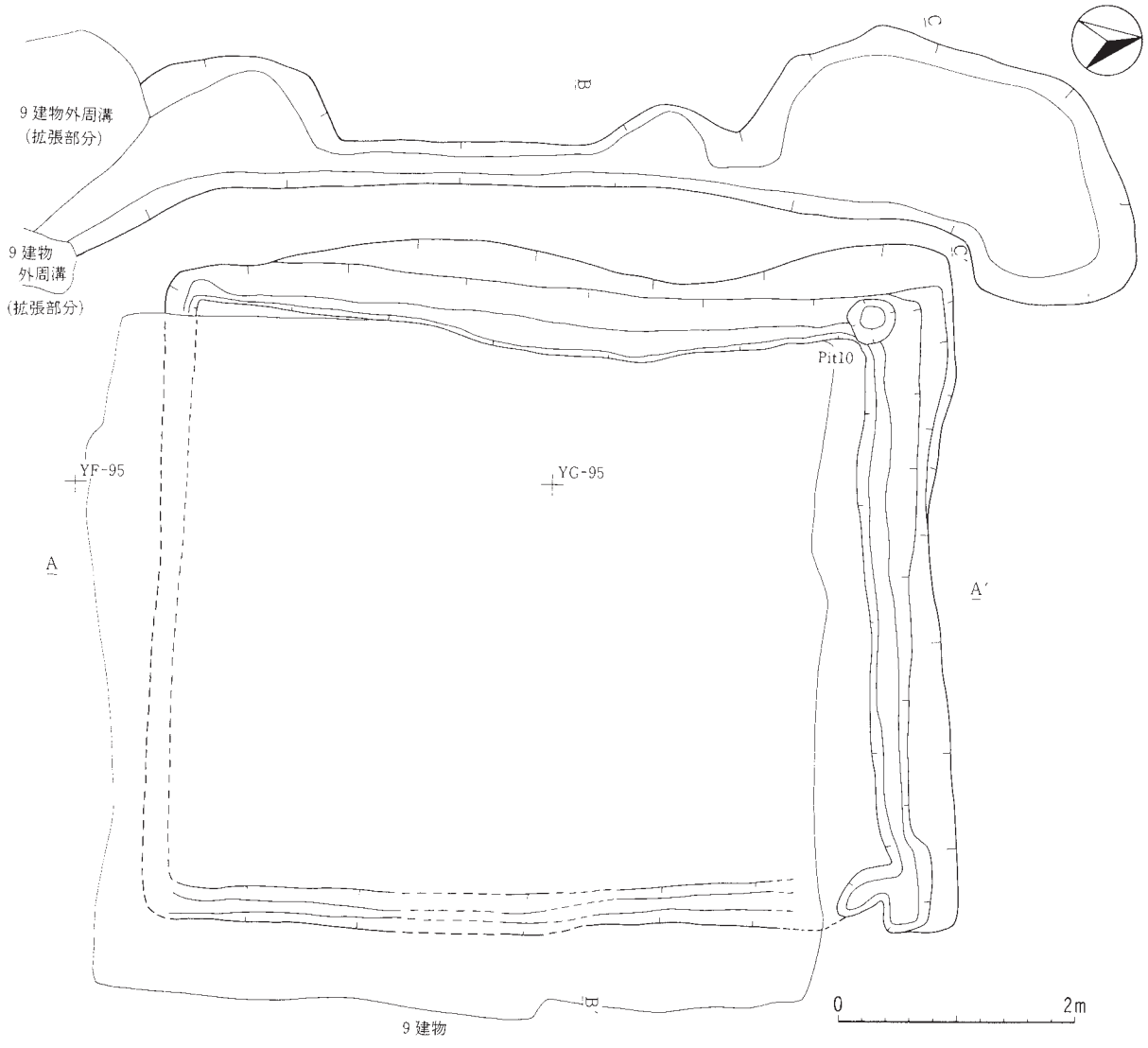
〈口径・底径・器高の単位：cm〉

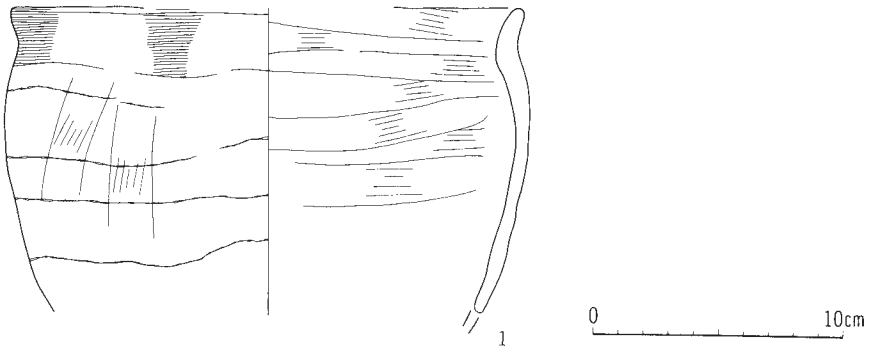
図版番号	種　類	器　種	部　位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備　　考	分　類	整理番号
1	土師器	坏	体部下半	掘立,底面直上 YF-95	－	4.0	(4.8)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り			71
2	土師器	甕	口縁部	外周溝 YE-95,フ	(12.0)	－	(6.0)	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラナデ				67
3	土師器	甕	体部上半	カマド,右ソデ	(15.0)	－	(14.3)	ヘラナデ ヨコナデ	ナデ		外面土付着、輪積痕		70
4	土師器	甕	底部	掘立,底面直上 YF-95,Pit 1 そば,フ	－	6.9	(3.0)	ヘラナデ	ナデ	砂底			69
5	土師器	坏	底部	掘立,底面直上 YF-95　2堅 YG-97,フ	－	(6.0)	(1.6)	ロクロ	ロクロ				94
6	土師器	甕	口縁部	掘立,底面直上 YF-95 pit 1そば,フ	(11.0)	－	(8.0)	コビナデ　磨滅のため不明	ナデ		輪積痕		68
7	土師器	甕	口縁部	YF-95,フ	(12.2)	－	(7.0)	磨滅のため不明	ヘラナデ				66
8	須恵器	蓋	口縁部	YF-95,フ	－	－	(2.3)	ロクロ	ロクロ				95
9	須恵器	大甕	底部	YF-95,フ	－	－	－	タタキ	ナデ				72

第９号建物跡出土石製品観察表

図版番号	種　類	品　名	出　土　位　置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　　考	整理番号
10	石製品	不明	YF-95,フ	58.5	74.0	52.5	175.6	両側面抉り,凝灰岩	S-28

図28　第９号建物跡（２）





第109号建物跡出土土器観察表

(口径・底径・器高の単位：cm)

図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備考	分類	整理番号
1	土師器	甕	口縁部	YF-95, フ	(20.4)	−	(12.3)	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラナデ		輪積痕		65

図29　第109号建物跡

このように今回の調査区において小規模ながら幾つかの土砂崩れの事例が確認できている。

そこで第２号建物跡の改築では、掘立柱建物を組み合わせて建てると南北に長さが必要になるため、土砂崩れが発生した場合、それに巻き込まれる危険性が高くなる。その危険性を減らすために掘立柱建物を付随しないで竪穴部分を拡張するに留め、改築後は竪穴部分と外周溝のみの建物に作り替えたものと考えられる。そして万が一土砂崩れに巻き込まれた場合でも、竪穴部分に土砂が流入しないように深くて規模の大きな外周溝を作ったものと推察される。

外周溝は、建物内部への雨水の浸入量を減らし、斜面上方から地面を這って落ちてくる多量の雨水を斜面下方に速やかに排水させるというのが根本的な機能と考えられる。また、急斜面という特殊な立地条件によって、土砂崩れへの対策という機能も加わったものと考えられる。

以上のように今回の調査区で検出された外周溝の構築目的は、土砂の流入防止と雨水及び伏流水の流れを変える機能が考えられる。だがこの二つの機能は外周溝を有する全ての建物跡に当てはまるものではなく、今回の朝日山（３）遺跡の調査区域内に限定される機能かもしれない。浪岡町野尻（３）・（４）遺跡のように外周溝の一部が広がって土坑状の部分を持っていたり、覆土に土器や焼土が多量に投げ込まれたような状況はまったく見受けられず、これらの外周溝と同一の目的・意図で作られたものではないことは確かである。

また、竪穴部分の床下に溝が掘られているものが、第２・３・５・６号建物跡において検出された。これらは、新しい建物跡の床面をはがした状況で検出されたものが多い（２・３・６建物）ことから、新しい建物に改築したときに改めて床下の溝を作ったものと思われる。床下の溝を掘ると、黒色土・黒褐色土で概ね埋め戻し、その上部にローム混じりの土を貼って新しい竪穴部分の床面として使用したと考えられる。ただ、第５・105号建物跡では、改築前の第105号建物跡でも床下溝が検出されており、他の建物跡よりやや新しい時期の可能性がある。床下の溝は、壁溝とつながっているものが多く、壁溝自体が床面より深く地山面を掘り込んでいることと、壁溝の覆土が黒褐色土・暗褐色土を主体としていることから、平担なままの地山床面よりは透水性あるいは含水性に優れている。その壁溝にある程度たまる水を排除するために、暗渠的に壁溝とつなげて床下の溝を作ったのものと思われる。カマド付近に床下の溝が多いのも、カマド内で燃焼しやすいように火床面の水気を少なくする目的があるものと考えられる。

雨水及び伏流水を除去するため、外周溝に加えて床下に溝を掘ることによってさらに効率を上げようとしたのではないかと考えられる。

（神　康夫）

第３節　竪穴住居跡

掘立柱建物及び外周溝を持たない竪穴住居跡は、Ａ地区において１軒検出された。他の竪穴住居跡は、掘立柱建物跡及び外周溝を付随するため建物跡と改称したが、本住居跡は竪穴部分のみのため、そのまま竪穴住居跡として記録することとした。

第７号竪穴住居跡（図30）

［位置・確認］ＹＦ・ＹＧ－97の各グリッドにまたがって位置する。

［重複］なし。

［平面形・規模］　平面形は不整な方形を呈する。東壁辺222cm、南壁辺204cm、西壁辺196cm、北壁辺191cmを測る。主軸方位は、カマドの位置からＳ－9.2°－Ｅである。竪穴部分の床面積は、2.70 ㎡ を測る。

［壁・床］東壁、西壁、北壁は床面から直立するが、南壁は内湾気味に立ち上がる。床面は堅くしまっているが、南東隅に、南北70～100cm、東西120～125cmの不整円形を呈し、床面からの深さ20～30cmの土坑状の落ち込みがみられる。

［壁溝］検出されなかった。

［ピット］本住居内からは検出されなかった。住居外からは２基検出され、ピット1はカマドの煙道部西側に、ピット2はカマド煙出孔の南側に位置する。本住居跡に付随する可能性が高い。

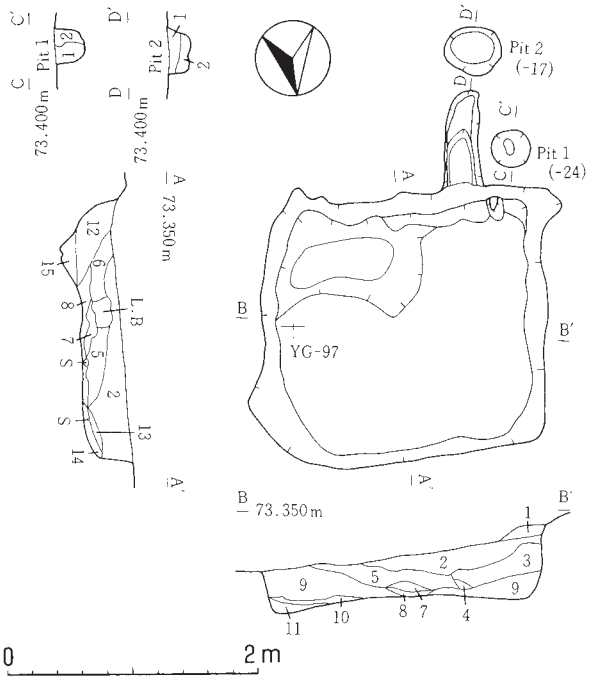
［カマド］南壁で確認され、西壁寄りに位置する。遺存状態が悪く、検出されたのは袖の一部と煙道部のみである。

［その他の施設］検出されなかった。

［堆積土］自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

（奈良岡　淳）



第７号建物跡　（AA′　BB′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量、焼土・炭ごく微量。
第２層	暗褐色土	10YR3/4	ローム、L.B 多量、焼土微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/3	ローム、炭少量。
第４層	黒褐色土	10YR2/3	L.B （φ1.5cm ）。
第５層	黒褐色土	10YR2/3	L.B 多量、焼土ごく微量、ローム・炭少量。
第６層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、焼土・炭微量。
第７層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、炭ごく微量。
第８層	黒褐色土	10YR2/2	L.B （φ３cm）、ローム多量、焼土微量。
第９層	褐色土	10YR4/4	ローム多量、焼土微量、炭少量。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム多量、炭少量。
第11層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量、炭微量。
第12層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量、焼土・炭微量。
第13層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土多量・炭微量。
第14層	暗褐色土	10YR3/4	黒色土(10YR1.7/1) ・炭多量、ローム・焼土微量。
第15層	褐色土	10YR4/4	L.B ・ローム多量、炭微量。

第７号建物跡　Pit１（CC′セクション）

第１層	暗褐色土	10YR3/4	ローム多量、炭微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム・炭微量。

第７号建物跡　Pit２（DD′セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量、小礫（φ２～３mm）・炭微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	ローム多量、小礫（φ４～６mm）少量、炭微量。

図30　第７号竪穴住居跡

第４節　掘立柱建物跡

本遺跡において建物跡に付随せず、単独で存在していたと思われる掘立柱建物跡１軒について以下に記す（図31）。

［位置］ ＹＣ－99、ＹＤ－99、ＹＥ－99の各グリッドにまたがって位置している。

［重複］ 第５ａ号土坑と重複しており、第５ａ号土坑が新しい。

［規模］ ２間×１間の規模と推測されるが、南西隅の柱穴が検出されなかった。南北総長792㎝、東西総長334㎝を測り、主軸方位はＳ－14.5°－Ｅである。各柱穴を結ぶ線の内側に想定される床面積は24.1㎡である。

［柱穴］ 径50～78㎝の円形の掘り方を持つ柱穴で、深さは21～60㎝である。

［柱間寸法］ 桁行方向は393㎝（13尺）、梁行方向は320㎝（10尺６寸）である。

［出土遺物］ 出土しなかった。

（神　康夫）

第５節　竪穴遺構

カマドや壁溝をもたない竪穴遺構は、Ａ地区において２基検出されている。

第１号竪穴遺構（図32・図33）

［位置・確認］ Ｙ－98･99、Ｚ－98･99グリッドに位置する。

［重複］ 重複は認められなかった。

［平面形・規模］ 地形が西から東に向かって傾斜していることから東壁はまったく遺存しておらず、北壁と南壁も一部しか遺存していない。西壁辺は500㎝あり、各壁とも同程度の方形を呈するものと思われる。北壁辺は340㎝、南壁辺は130㎝が遺存しており、現存している床面積は25.0㎡、遺存していない北東隅を含めると推定25.7㎡となる。主軸方位はＳ－9.7°－Ｅである。

［壁・床］ 壁高は、西壁44㎝、北壁50㎝、南壁12㎝を測るが、北壁と南壁は東方向へ向かうにつれて低くなっている。東壁はまったく遺存しておらず、北東側では貼床も遺存していない。床面は、平坦に固められており、西半分は地山面をそのまま床面として使用しているが、東半分は黒色土の上にロームを貼り、叩きしめて床面を作っている。

［壁溝］ なし。

［ピット］ ピットは４個検出された。ピット１は深さ17㎝を測ることから主柱穴の可能性があるが、他のピットは浅いため柱穴とは考えにくい。

［堆積土］ Ｂ－Ｔｍと思われる灰白色土が、全体的に少量混入している。これは本竪穴遺構の周囲に堆積していた火山灰が、風水の影響によって埋没過程において徐々に二次堆積したものと思われる。壁際が三角状に堆積しており、自然堆積と思われる。

［出土遺物］ 図示したのは須恵器大甕片（１）、縄文時代前期（２）と晩期（３・４）の土器片が出土している。他に土師器甕の細片も出土している。

（神　康夫）

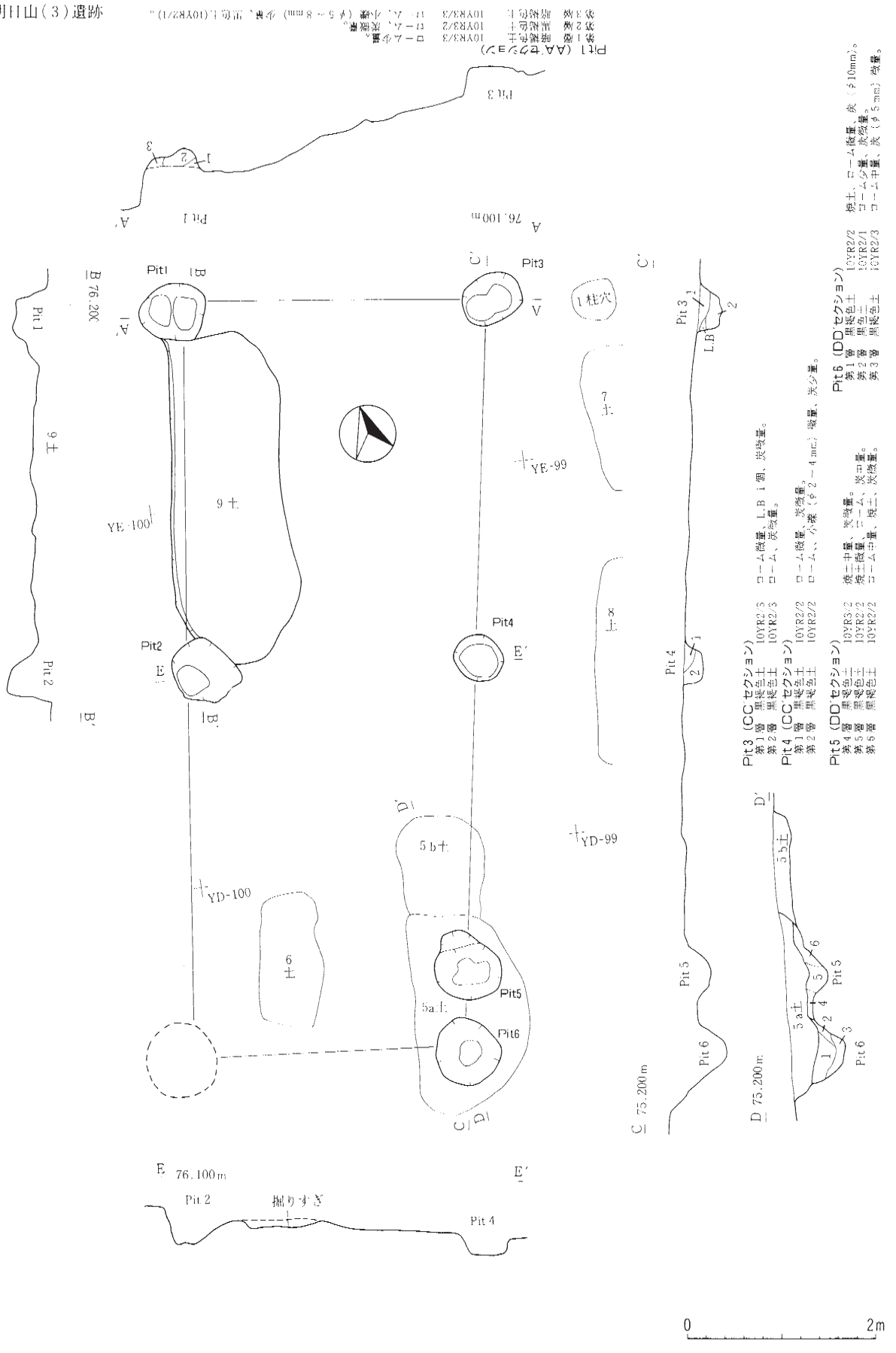

Pit1 (AA'セクション)
第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム小塊。
第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム、炭微量。
第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム、小礫(φ5～8mm)少量、黒色土(10YR2/1)。
Pit 1
Pit 2
Pit 3
Pit 4
Pit 5
Pit 6
Pit1
Pit2
Pit3
Pit4
Pit5
Pit6
A 76.100m
A'
B 76.200
B'
C 75.200m
C'
D 75.200m
D'
E 76.100m
E'
YE-100
YE-99
YD-100
YD-99
9土
6土
7土
8土
5b土
5a土
1柱穴
掘りすぎ
Pit3 (CC'セクション)
第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム微量、LB 1個、炭微量。
第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム、炭微量。
Pit4 (CC'セクション)
第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム微量、炭微量。
第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム、小礫(φ2～4mm)微量、炭少量。
Pit5 (DD'セクション)
第4層 黒褐色土 10YR3/2 焼土中量、炭微量。
第5層 黒褐色土 10YR2/2 焼土微量、ローム、炭中量。
第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム中量、焼土、炭微量。
Pit6 (DD'セクション)
第1層 黒褐色土 10YR2/2 焼土、ローム微量、炭(φ10mm)。
第2層 黒色土 10YR2/1 ローム少量、炭微量。
第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム中量、炭(φ5mm)微量。
0
2m

図31　掘立柱建物跡

第２号竪穴遺構（図32）

［位置・確認］ ＹＧ－97、ＹＨ－96・97の各グリッドに位置する。

［重複］ 柱穴群が検出されているが、本竪穴遺構の方が古い。

［平面形・規模］ 西壁辺368㎝、北壁辺412㎝を測り、全体的に不整な四角形を呈している。現状では南西側が張り出し状になっている。主軸方位はＳ－3.9°－Ｅで、落ち込み部分の面積は10.4㎡である。

［壁・床］ 壁高は、西壁では20㎝程の壁が立つが、北壁は６㎝、南壁は５㎝の緩やかな壁が立つ。東壁は遺存していない。床面は地山を床面として使用している。

［壁溝］ なし。

［ピット］ 本竪穴遺構に伴う可能性のあるものは１個である。また、周辺において11個のピットも検出されており、これらのうちいくつかは本竪穴遺構に伴う可能性がある。

［堆積土］ 暗褐色土・黒色土層で、焼土・ローム粒が混入しており、人為堆積と思われる。

［出土遺物］ 図示していないが、土師器坏・甕、須恵器坏の細片が出土している。

（神　康夫）

第６節　土　坑

今回の調査区域からは９基の土坑が検出された。以下個々に記載していく。

第１号土坑（図34）

［位置・確認］ ＹＴ―102グリッドに位置する。

［重複］ 第３号建物跡外周溝と重複するが、新旧関係は不明である。位置的に外周溝の付属施設である可能性がある。

［形態・規模］ 平面形はやや南北に長い円形を呈しており、長軸143㎝、短軸118㎝を測る。深さは斜面上方の西側が深く90㎝、東側では45㎝である。

［壁・底面］ 壁は直線的にしっかりと立ち上がり、底面は整えられて水平に作られている。

［堆積土］ 黒色土を主体としており、７層に分層できた。

［出土遺物］ 覆土上層から、こぶし大から手のひら大の自然礫が10数個出土している。

第２号土坑

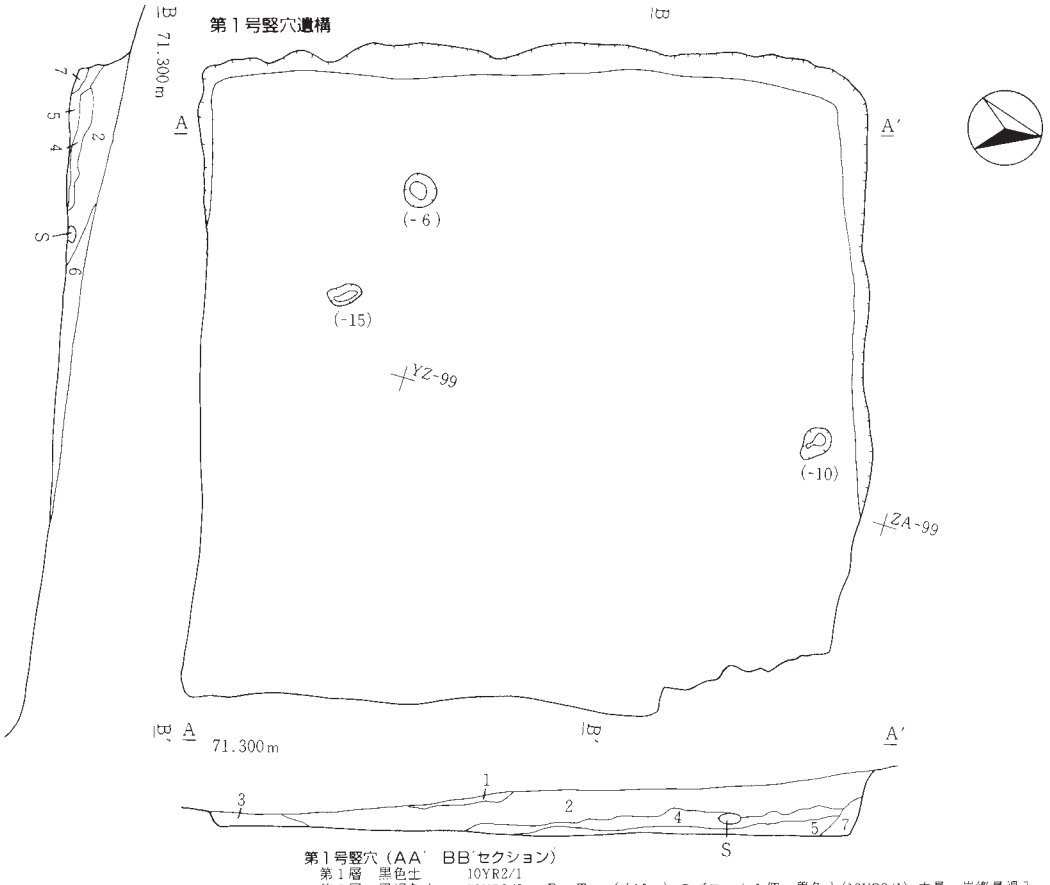
［位置・確認］ 欠番。

第３号土坑

［位置・確認］ 欠番。

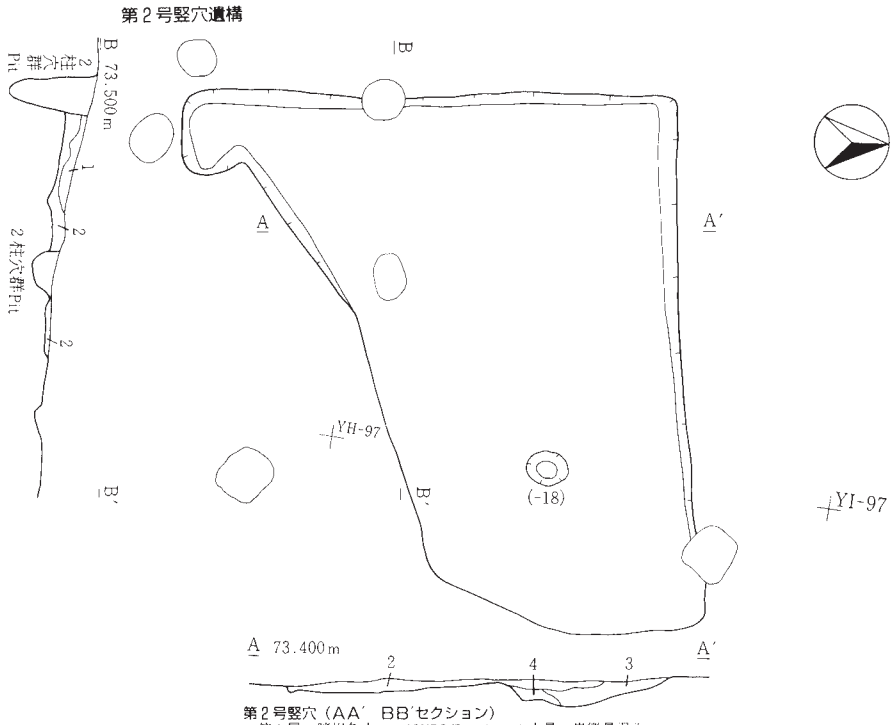
第４号土坑（図34）

［位置・確認］ ＹＣ―100グリッドに位置する。



第1号竪穴（AA′ BB′セクション）

第1層	黒色土	10YR2/1	
第2層	黒褐色土	10YR2/2	B－Tm（φ10mm）のブロック1個、黒色土(10YR2/1) 中量、炭微量混入。
第3層	黒色土	10YR1.7/1	B－Tmごく微量混入。
第4層	黒褐色土	10YR3/1	B－Tm（φ1～5mm）が均一に少量混入、炭微量。
第5層	黒色土	10YR2/1	ローム（φ1～10mm）ごく微量混入。
第6層	黒褐色土	10YR3/1	B－Tm（φ1～5mm）がブロック状に微量、焼土、炭ごく微量混入。
第7層	黒色土	10YR2/1	ローム（φ3－15mm）中量混入。

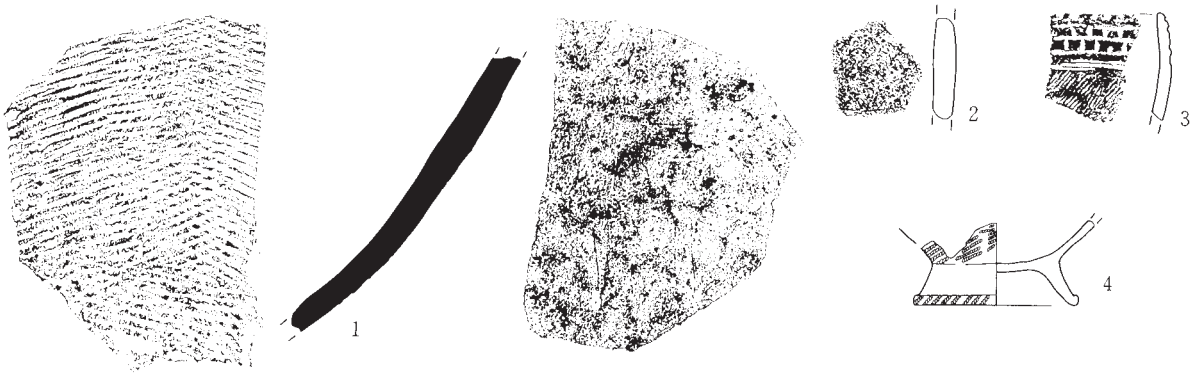


第2号竪穴（AA′ BB′セクション）

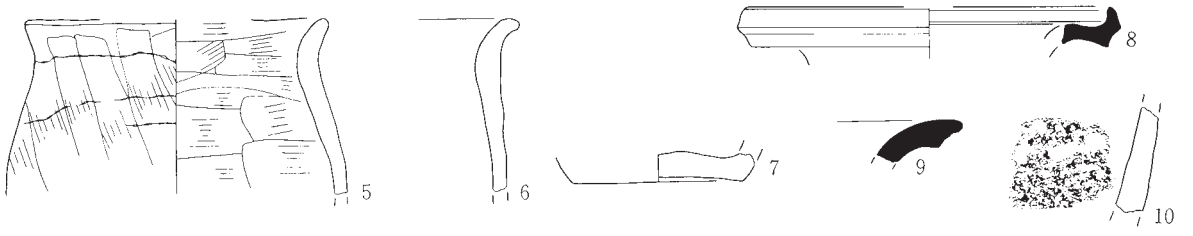
第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム中量、炭微量混入。
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム微量、赤褐色焼土(5YR4/6)少量、にぶい黄褐色のB－Tm(10YR5/4)中量、炭少量混入。
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、小礫(φ3～5mm)少量、赤褐色焼土(5YR4/6)中量、炭中量微量混入。
第4層	黒色土	10YR2/1	ローム微量、赤褐色焼土(5YR4/8)微量、炭微量混入。

0 2m

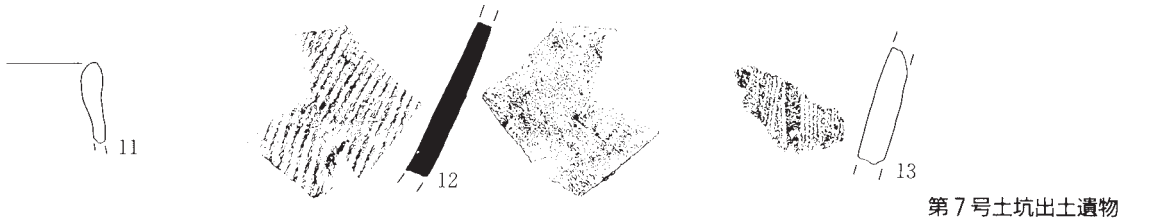
図32　竪穴遺構



第１号竪穴遺構出土遺物



第５号土坑出土遺物



第７号土坑出土遺物

0　10cm

第１号竪穴遺構出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種　類	器　種	部　位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備　　考	分　類	整理番号
1	須恵器	大甕	胴部下半	1竪,AZ-99 床面直上				タタキ	ヘラナデ				87
2	縄文土器	深鉢	胴部	1竪,YY-98 掘り方				斜行縄文			磨滅により原体不明 ,植物繊維混入	前期	J4
3	縄文土器	鉢	口縁部	1竪,YY-98 掘り方				沈線刻み 斜行縄文(LR)				晩期	J11
4	縄文土器	台付鉢	台部	1竪,AZ-99 床面直上	--	(7.0)	(3.5)	斜行縄文(LR)				晩期	79

第５号土坑出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

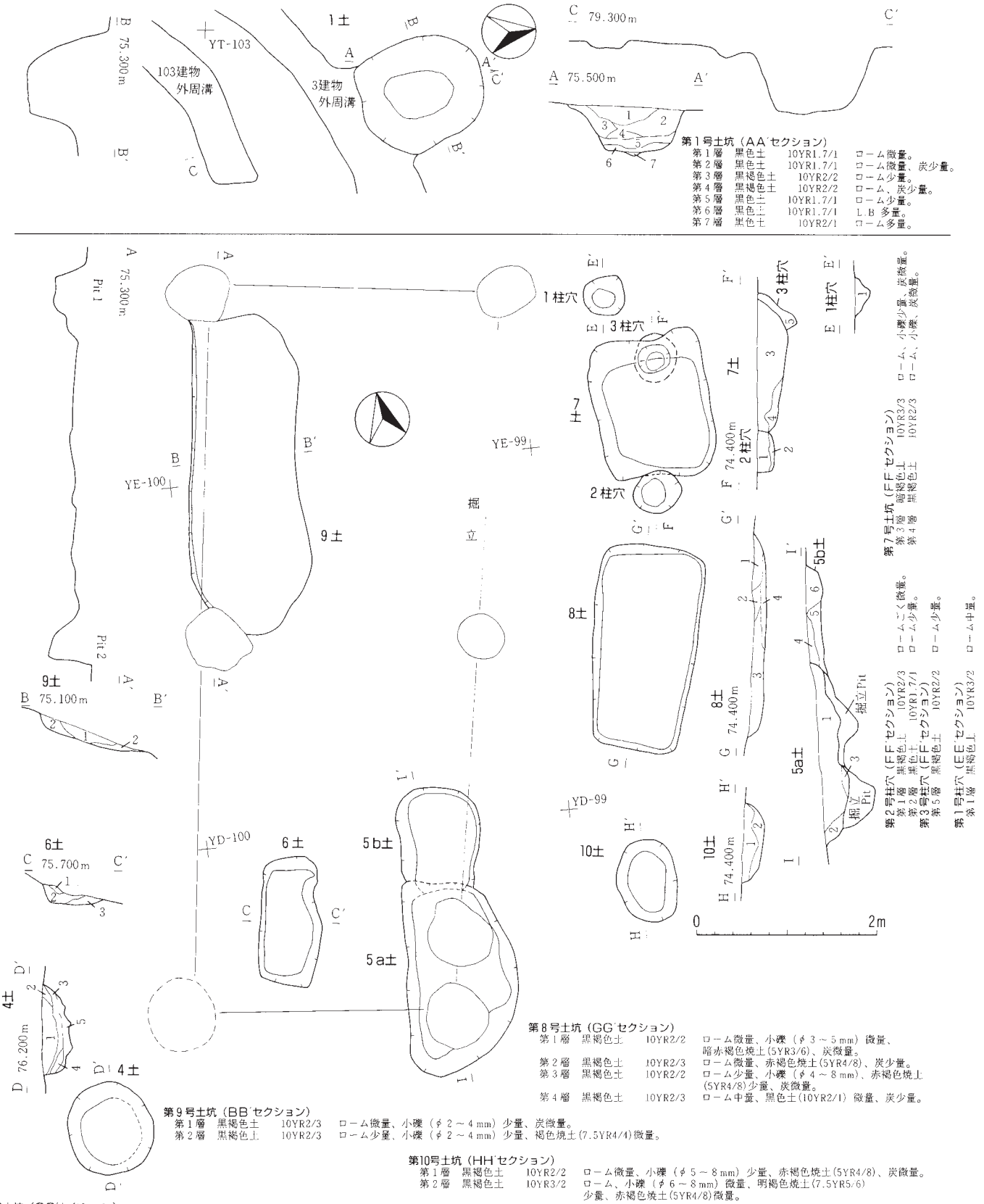
図版番号	種　類	器　種	部　位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備　　考	分　類	整理番号
5	土師器	甕	口縁部	5土,YC-99,フ	(12.0)	－	(7.0)	ヘラナデ	ヘラナデ		輪積み痕		75b
6	土師器	甕	口縁部	5土,YC-99,フ				ナデ,ヘラナデ	ナデ,ヘラナデ				74
7	土師器	甕	底部	5土,フ				ナデ	ナデ	ナデ			77
8	須恵器	壺	口縁部	5土,YC-99,フ	(15.4)	－	(1.6)	ロクロ	ロクロ				80
9	須恵器	大甕	口縁部	5土,YC-99,フ				ロクロ	ロクロ				76
10	縄文土器	深鉢	胴部	5土,YC-99,フ								前期	J5

第７号土坑出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種　類	器　種	部　位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備　　考	分　類	整理番号
11	土師器	甕	口縁部	7土,フ				ヘラナデ	ナデ				82
12	須恵器	大甕	胴部	7土,7　9H YF-95,フ				タタキ	ナデ				93
13	縄文土器	鉢	胴部	7土,7				木目状撚糸文 (RとR)				前期	J6

図33　竪穴遺構・土坑　出土遺物



第1号土坑（AA′セクション）

第1層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量。
第2層	黒色土	10YR1.7/1	ローム微量、炭少量。
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量。
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム、炭少量。
第5層	黒色土	10YR1.7/1	ローム少量。
第6層	黒色土	10YR1.7/1	L.B 多量。
第7層	黒色土	10YR2/1	ローム多量。

第7号土坑（FF′セクション）

第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム、小礫少量、炭微量。
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム、小礫、炭微量。

第2号柱穴（FF′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム ごく微量。
第2層	黒色土	10YR1.7/1	ローム少量。

第3号柱穴（FF′セクション）

第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量。

第1号柱穴（EE′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム中量。

第8号土坑（GG′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム微量、小礫（φ3～5mm）微量、暗赤褐色焼土(5YR3/6)、炭微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム微量、赤褐色焼土(5YR4/8)、炭少量。
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量、小礫（φ4～8mm）、赤褐色焼土(5YR4/8)少量、炭微量。
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム中量、黒色土(10YR2/1) 微量、炭少量。

第9号土坑（BB′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム微量、小礫（φ2～4mm）少量、炭微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量、小礫（φ2～4mm）少量、褐色焼土(7.5YR4/4)微量。

第10号土坑（HH′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム微量、小礫（φ5～8mm）少量、赤褐色焼土(5YR4/8)、炭微量。
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム、小礫（φ6～8mm）微量、明褐色焼土(7.5YR5/6)少量、赤褐色焼土(5YR4/8)微量。

第6号土坑（CC′セクション）

第1層	赤褐色土	5YR4/6	焼土少量。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム、炭ごく微量。
第3層	褐色土	10YR4/4	砂少量（鉄分を含む）。

第5a号土坑（II′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR2/2	B－Tm微量、焼土少量、炭（φ5mm）。
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム微量、L.B （φ50mm）。
第3層	黒褐色土	10YR2/3	焼土、炭ごく微量。

第4号土坑（DD′セクション）

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム、焼土、炭微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	炭微量。
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量、焼土、炭微量。
第4層	黒褐色土	10YR2/2	炭微量混入。ローム少量、炭少量。
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム、焼土、炭ごく微量。

第5b号土坑（II′セクション）

第4層	黒褐色土	7.5YR3/2	焼土多量、炭微量。
第5層	黒褐色土	10YR3/2	焼土ごく微量。
第6層	暗褐色土	10YR3/3	炭ごく微量。

図34 土 坑（2）

［重複］ 重複は認められなかった。

［形態・規模］ 径194～203cmのほぼ円形を呈しており、深さは34cmである。

［壁・底面］ 北側の壁は緩やかに立ち上がるが、南側はやや急に立ち上がる。底面は部分的にやや凹凸があるものの、おおむね平坦である。

［堆積土］ ５層に分層できたが、すべて黒褐色土である。炭化物が少量混入している。

［出土遺物］ 炭化物以外は特に遺物は出土していない。

第５ａ号土坑（図33・図34）

［位置・確認］ ＹＣ―99グリッドに位置する。発掘調査時点において第５号土坑として記録していたが、整理作業を進めるうち、２基の土坑と２基の柱穴の重複している遺構であることがわかった。そこで新しい方の土坑を第５ａ号土坑とした。

［重複］ 第５ｂ号土坑、掘立柱建物跡ピット５・６と重複している。これらのいずれよりも本土坑が新しい。

［形態・規模］ 北側が第５ｂ号土坑と重複していて明確には分からないが、平面形は部分的に角が張る扁平な長円形に近い形態を呈しているものと思われる。規模は長軸310cmほどで、短軸が120cm、深さは30cmである。

［壁・底面］ 壁は緩やかに立ち上がり、底面はやや凹凸がある。

［堆積土］ 黒褐色土を主体としており、３層に分層できた。

［出土遺物］ 第５号土坑として遺物を取り上げているので、第５ｂ号土坑の遺物と区別ができないため、一括して掲載している。縄文時代前期の植物繊維を混入する土器片（10）、土師器甕（５・６・７）、須恵器壷（８）、大甕（９）の破片が出土している。

第５ｂ号土坑（図33・図34）

［位置・確認］ ＹＣ―99とＹＤ―99グリッドにまたがって位置する。発掘調査時点において第５号土坑として記録していたが、整理作業を進めるうち、２基の土坑と２基の柱穴の重複している遺構であることがわかった。そこで古い方の土坑を第５ｂ号土坑とした。

［重複］ 第５ａ号土坑、掘立柱建物跡ピット５と重複しているが、本土坑が一番古い。

［形態・規模］ 南側が第５ａ号土坑と重複していて明確には分からないが、平面形は隅丸長方形に近い形状を呈しているものと思われる。現存している規模は長軸110cm、短軸80cm、深さは18cmほどである。

［壁・底面］ 壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

［堆積土］ ３層に分層され、１層には焼土粒が多量に混入している。

［出土遺物］ 第５号土坑として遺物を取り上げているので、第５ａ号土坑の遺物と区別ができないため、第５ａ号土坑で一括して記載している。

第６号土坑（図34）

［位置・確認］ ＹＣ―99グリッドに位置する。

[重複] 重複は認められなかった。

[形態・規模] 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸142cm、短軸68cmの規模である。深さは斜面上方の西側は20cmで、斜面下方の東側では8cmほどである。

[壁・底面] 西壁はやや急に立ち上がり、東壁は緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層でき、1層は焼土を主体とした層である。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

第7号土坑（図33・図34）

[位置・確認] ＹＤ—98とＹＥ－98グリッドにまたがって位置する。

[重複] 本土坑の南側に第2号柱穴が、本土坑の底面やや北側には第3号柱穴が重複している。第2号柱穴が新しく、第3号柱穴は本土坑よりも古いものである。

[形態・規模] 平面形はやや不整な隅丸長方形を呈し、規模は長軸148～160cm、短軸125cmである。深さは23～35cmである。

[壁・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がり、平らで東側がやや深くなっている。

[堆積土] 2層に分層できた。

[出土遺物] 縄文時代前期と思われる木目状撚糸文の土器片（13)、土師器甕（11)、須恵器大甕（12)の破片が出土している。

第8号土坑（図34）

[位置・確認] ＹＤ—98グリッドに位置する。

[重複] 重複は認められなかった。

[形態・規模] 長軸205cm、短軸94～116cmの北側がやや幅広の長方形を呈しており、深さは14cmである。

[壁・底面] 壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土で、4層に分層できる。焼土粒も少量混入している。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

第9号土坑（図34）

[位置・確認] ＹＤ—99とＹＥ—99グリッドにまたがって位置する。

[重複] 北側と南側に掘立柱建物跡の柱穴が接しており、本土坑は掘立柱建物跡の付属施設である可能性が非常に高い。

[形態・規模] 平面形は長楕円形を呈しており、長軸350cm、短軸115～136cmを測る。深さは斜面上方の西側で15cmである。

[壁・底面] 斜面上方の西側では緩やかに立ち上がる壁が検出されているが、東側は明瞭な壁として遺存していない。

[堆積土] 2層に分層できたが、いずれも黒褐色土である。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

第10号土坑（図34）

［位置・確認］ ＹＣ―98グリッドに位置する。

［重複］ 重複は認められなかった。

［形態・規模］ 平面形は長円形を呈しており、規模は長軸83㎝、短軸68㎝で、深さは22㎝である。

［壁・底面］ 壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。

［堆積土］ 黒褐色土を主体とし、２層に分層できた。焼土粒が混入している。

［出土遺物］ 遺物は出土しなかった。

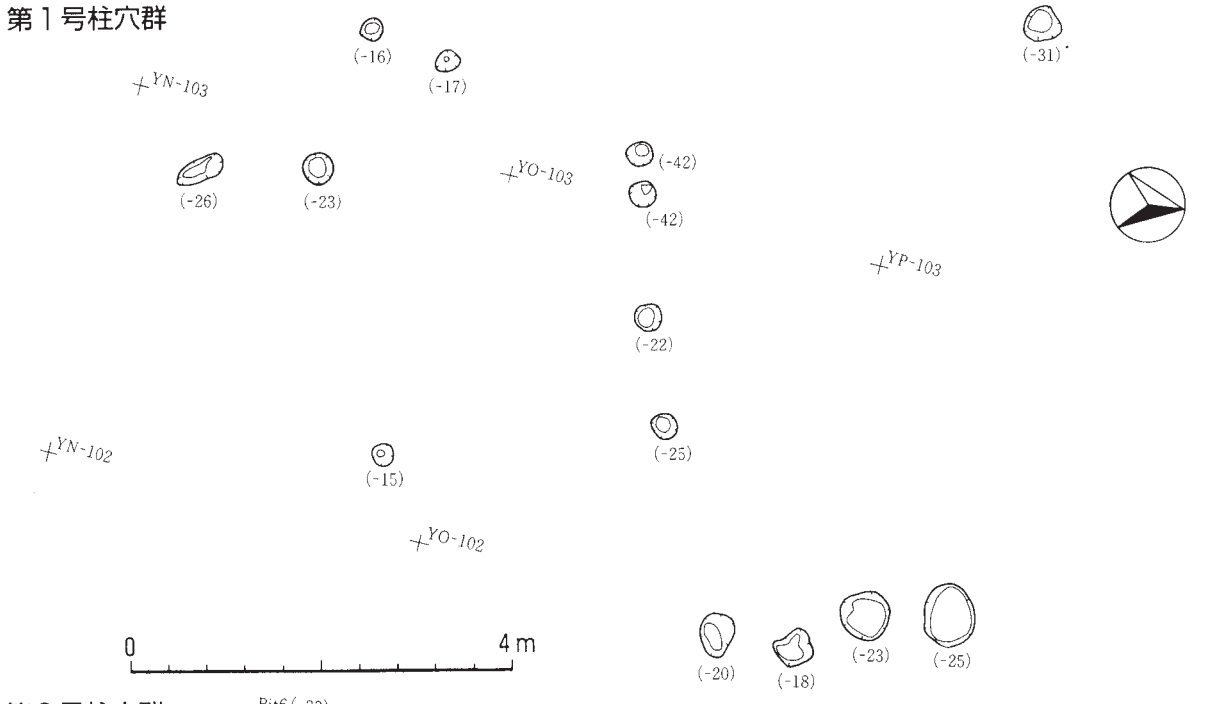
（神　康夫）

第７節　柱穴群

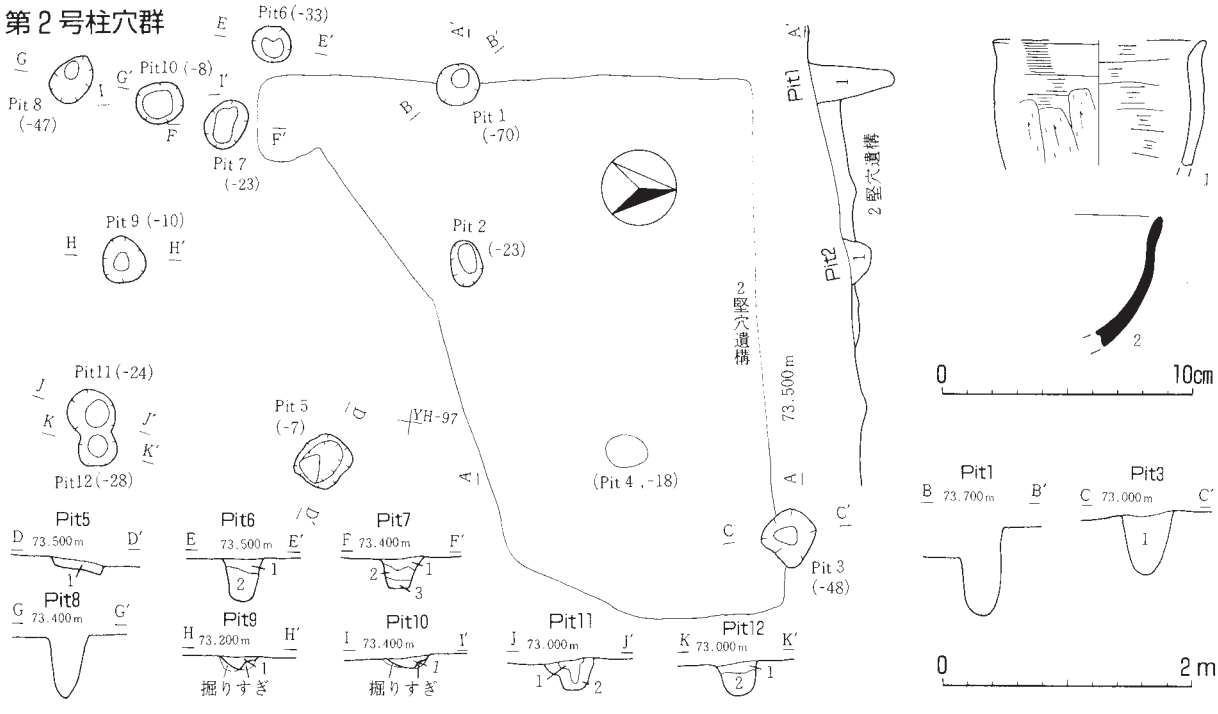
掘立柱建物跡として組めないものの、何らかの建物あるいは施設があった可能性のある柱穴群が、第３号建物跡の南側部分にある第１号柱穴群と、第７号竪穴住居跡と第２号竪穴遺構の間にある第２号柱穴群の２カ所で検出された（図35）。また、土坑群の周辺においても３基の柱穴が検出されている（図34）。第２号柱穴群のピット12から土師器小甕（１）、須恵器坏（２）が出土したが、他の柱穴から遺物は出土していない。

（神　康夫）

第1号柱穴群



第2号柱穴群



第2号柱穴群 Pit1 (AA′ セクション)
第1層 褐色土 10YR4/4 ローム中量、砂礫微量、暗褐色土(10YR3/3) 少量、炭微量。

第2号柱穴群 Pit2 (AA′ セクション)
第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム多量、小礫 (φ 6 ～ 8 mm) 微量、炭微量。

第2号柱穴群 Pit3 (CC′ セクション)
第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム少量、小礫 (φ 3 ～ 6 mm) 少量、炭微量。

第2号柱穴群 Pit5 (DD′ セクション)
第1層 にぶい褐色土 10YR4/3 ローム質土中量、小礫 (φ 2 ～ 5 mm) 少量、炭少量。

第2号柱穴群 Pit6 (EE′ セクション)
第1層 にぶい褐色土 10YR4/3 ローム質土層、黒褐色土(10YR2/2) 少量、炭微量。
第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム多量、礫 (φ 3 ～45mm) 中量。

第2号柱穴群 Pit7 (FF′ セクション)
第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム少量、礫 (φ 3 ～40mm) 微量。
第2層 黄褐色土 10YR5/6 ローム質土層。
第3層 褐色土 10YR4/4 ローム質土層、黒色土(10YR2/1) 中量。

第2号柱穴群 Pit9 (HH′ セクション)
第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム中量、小礫 (φ 5 ～ 8 mm) 微量。

第2号柱穴群 Pit10 (II′ セクション)
第1層 暗褐色土 10YR2/2 ローム中量、炭少量。

第2号柱穴群 Pit11 (JJ′ セクション)
第1層 にぶい褐色土 10YR4/3 ローム多量、炭微量。
第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム中量、炭少量。

第2号柱穴群 Pit12 (KK′ セクション)
第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム多量、赤褐色焼土(5YR4/8)中量、炭中量。
第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム中量、赤褐色焼土(5YR4/8)少量、小礫 (φ 3 ～ 6 mm) 微量、炭少量。

第2号堅穴遺構出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種類	器種	部位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備考	分類	整理番号
1	土師器	小甕	口縁部	pit12, フ	(8.4)	－	(5.1)	ナデ、ヘラケズリ	ナデ				81
2	須恵器	坏	口縁部	pit12, フ				ロクロ	ロクロ				85

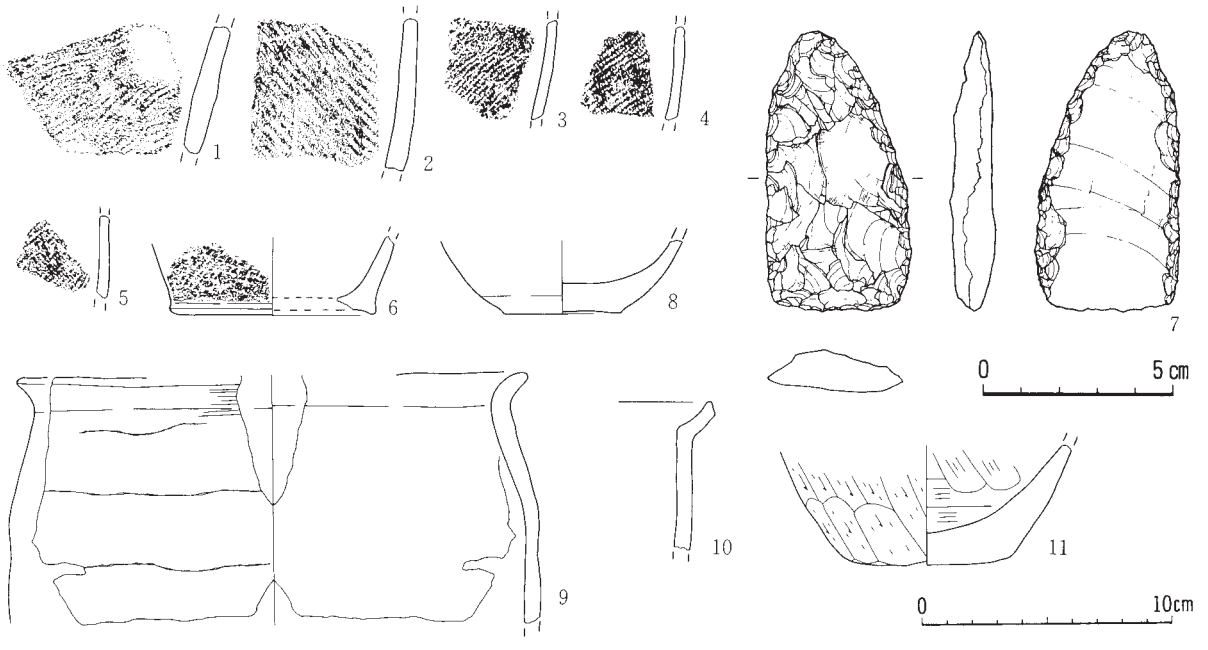
図35 柱穴群

第３章 遺構外の出土遺物

平成5年度の調査において、地山まで掘り下げて遺構の確認を行っていることから、遺構外の出土遺物はわずかである。

1・2は縄文時代後期のものと思われる地文縄文が施文される深鉢の土器片である。3～6は同一個体と思われる縄文時代晩期の深鉢で、ＹＶ－96グリッドに位置していた、Ｔｏ－ａとＢ－Ｔｍの２枚の平安時代の火山灰を堆積する風倒木痕から出土したものである。7はＢ地区から出土した石箆である。8は土師器坏の底部、9～11は土師器甕で、10はロクロ成形によるものである。

（神　康夫）



遺構外出土土器観察表

〈口径・底径・器高の単位：cm〉

図版番号	種　類	器　種	部　位	出土位置	口径	底径	器高	外面調整(文様)	内面調整(文様)	底面調整	備　　考	分　類	整理番号
1	縄文土器	深鉢	胴部	YY-97				斜行縄文(ＲＬ)				後～晩期	Ｊ-1
2	縄文土器	深鉢	胴部	YH-102				斜行縄文(ＲＬ)				後～晩期	Ｊ-2
3	縄文土器	深鉢	胴部	YV-96　風倒木				斜行縄文(ＬＲ)				晩期	Ｊ-10
4	縄文土器	深鉢	胴部	YV-96　風倒木				斜行縄文(ＬＲ)				晩期	Ｊ-13
5	縄文土器	深鉢	胴部	YV-96　風倒木				斜行縄文(ＬＲ)				晩期	Ｊ-14
6	縄文土器	甕	底部	YV-96　風倒木	－	(8.2)	(3.2)	斜行縄文(ＬＲ？)				晩期	Ｊ-8
8	土師器	坏	底部	YR-98,表採	－	4.8	(2.9)	ロクロ	ロクロ	回転糸切り			83
9	土師器	甕	口縁部	表採	(20.4)	－	(11.0)	ナデ		－			96
10	土師器	甕	口縁部	YD-94,表採				ロクロ	ロクロ	－			78
11	土師器	甕	底部	表採	－	6.8	(4.8)	ヘラケズリ	ナデ	ナデ？			96

遺構外出土石製品観察表

図版番号	種　類	品　名	出　土　位　置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　　考	整理番号
7	石製品	石ベラ	G-87風倒木	73.5	38.5	12.5	38.6	頁岩	S-30

図36　遺構外出土遺物

第4章　自然科学的分析調査の結果

第1節　放射性炭素年代測定

学習院大学放射性炭素年代測定結果報告書

1996年3月6日

青森県埋蔵文化財調査センター
　　阿　部　五十夫　殿

1995年12月18日受領致しました試料についての年代測定の結果を下記のとおりご報告致します。

なお、年代値の算出には^{14}Cの半減期としてＬＩＢＢＹの半減期５５７０年を使用しています。また、付記した誤差はβ線の計数値の標準偏差σに基いて算出した年数で、標準偏差（ＯＮＥ　ＳＩＧＭＡ）に相当する年代です。また試料のβ線計数率と自然計数率の差が２σ以下のときは、３σに相当する年代を下限の年代値（Ｂ．Ｐ.）として表示してあります。また、試料のβ線計数率と現在の標準炭素（ＭＯＤＥＲＮ　ＳＴＡＮＤＡＲＤ　ＣＡＲＢＯＮ）についての計数率との差が２σ以下のときには、Ｍｏｄｅｒｎと表示し、δ^{14}Ｃ％を付記してあります。

記

Ｃｏｄｅ　Ｎｏ．	試料	年代（1950年よりの年数）
ＧａＫ－１９１５３	炭化材　ｆｒｏｍ青森市朝日山（３）遺跡 ＮＯ　１	１１３０　±　７０ Ａ．Ｄ．　８２０
ＧａＫ－１９１５４	炭化材　ｆｒｏｍ青森市朝日山（３）遺跡 ＮＯ　２	１２１０　±　８０ Ａ．Ｄ．　７４０

以上

木越　邦彦

第５章　ま　と　め

今回の調査区は、東側に急激に傾斜している斜面上であるが、その中で建物跡８軒、竪穴住居跡１軒、掘立柱建物跡１軒、竪穴遺構２基、土坑９基が検出された。その内建物跡１軒がＢ地区から検出されたもので、他はすべてＡ地区において検出されたものである。建物跡は、竪穴住居に掘立柱建物や外周溝がセットとなる遺構群で、今回検出された遺構の主体となるものである。

検出された建物跡は、改築されている例が多い。Ａ地区の８軒のうち、竪穴・掘立・外周溝を改築しているもの１軒（第６号建物跡）、竪穴部分と外周溝を改築しているもの４軒（第２、３、５、９号建物跡）、外周溝のみの改築が１軒（第８号建物跡）ある。

改築の際に、床下に溝を巡らし、外周溝をより深く幅のひろいものに作り替えているのは、伏流水・雨水の浸入や土砂崩れの危険等から住居を守るためであったと考えられ、本遺跡のような地形では、なくてはならない施設・形状であったと思われる。

このように改築はなされているものの、竪穴遺構を含めて遺構同士の重複はほとんどない。また、一定以上の間隔をあけて南南東に主軸を持つ建物跡が意識的に配置されていることも考えあわせると、本集落跡は長い時期にわたって営まれた集落ではなく、平安時代のある一定の時期だけ営まれたものであると考えられる。

単独で作られている掘立柱建物跡と８基の土坑は、ＹＤ－99グリッドを中心とする南北12m、東西８ｍの範囲内にまとまっている。土坑や柱穴が重複していて二期以上の重なりも一部ある。

出土遺物は、縄文時代の土器・石器（前期・中期・後期・晩期）も若干出土したが、大半を占めるのは平安時代の土師器・須恵器である。土師器は坏・甕があり、須恵器は坏・長頸壷・大甕が出土している。土師器坏は内面黒色処理された坏と、いわゆる切りっぱなしの須恵系土師器と呼ばれるようなものがある。これらの土器は９世紀後半から10世紀代のものと思われる。土製品は甑底部・支脚片、石製品は砥石、鉄製品は刀子が出土した。

遺構覆土にはＢ－Ｔｍ（白頭山苫小牧火山灰）と思われる灰白色土がブロック状に混入していることから、10世紀中葉頃に二次的に堆積したものと考えられる。このことと出土遺物からおそらく本遺跡は10世紀前半にその盛期をもつ集落跡であると思われる。

今回の調査で得た成果は以上のとおりである。しかし、なぜこのような急斜面の立地条件の悪い地点にわざわざ集落を営まなくてはならなかったのか。昭和58年度および平成２・３・４年度に調査された、青森平野を望む低位段丘の縁辺部、距離にしてわずか400ｍほど北東の地点には、かなり濃密な集落跡が調査されている。今回検出された遺構群と同様の、竪穴住居と掘立柱建物、外周溝の組み合わせによる建物跡の集落がありながら、平成５年度と今回（平成７年度）調査した小丘地を越えた西側の沢部分では重複のない集落を営み、それに加えて非常に生活しにくいであろう急斜面にまで建物を造築しているのはなぜなのか疑問である。

（神　康夫）

引用・参考文献

青森県教育委員会　1983『朝日山遺跡』青埋報第87集
青森県教育委員会　1993『朝日山遺跡Ⅱ』青埋報第152集
青森県教育委員会　1995『山元（2）遺跡』青埋報第171集
青森県教育委員会　1995『野尻（2）遺跡』青埋報第172集
青森県教育委員会　1996『野尻（2）遺跡Ⅱ・野尻（3）遺跡』青埋報第186集
青森県教育委員会　1996『野尻（4）遺跡』青埋報第186集

遺跡遠景
――青森平野・陸奥湾を臨む
（SW→）

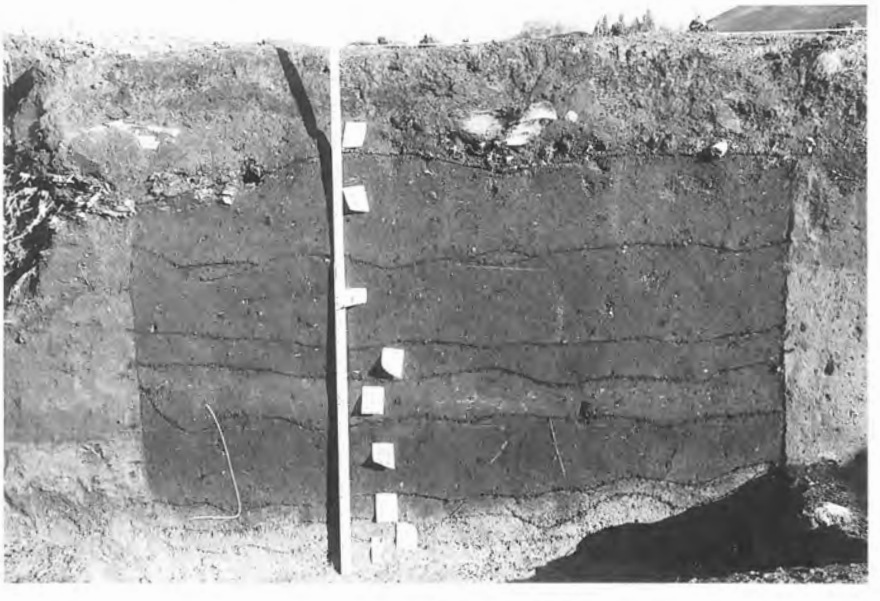
調査区近景（SE→）

A地区近景（E→）

写真1　遺跡全景

A地区南側（E→）

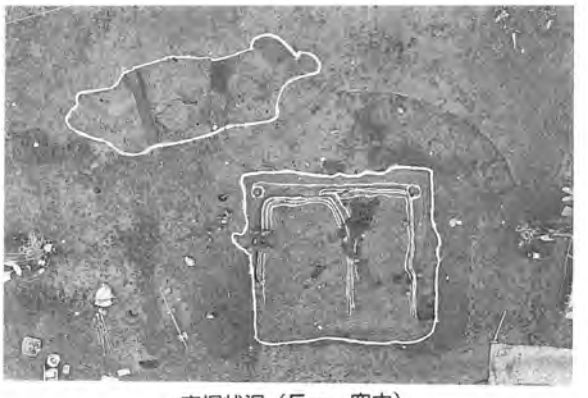
B地区調査風景（E→）



調査区基本土層（YE－95付近・西壁）

写真2　調査区近景・基本土層

遺構確認状況（SE→）



完掘状況（E→・空中）

床面検出状況（S→）

炭化物検出状況（E→）

完掘状況（E→）

カマドセクション（N→）

カマドセクション（E→）

カマド完掘状況（N→）

写真３　第１号建物跡

2建　遺構確認状況（S→）

2建・102建完掘状況（E→・空中）

2建　外周溝　礫出土状況［南側］（E→・空中）

2建　外周溝　礫出土状況［北側］（E→・空中）

2建　外周溝　礫出土状況［南側］（S→）

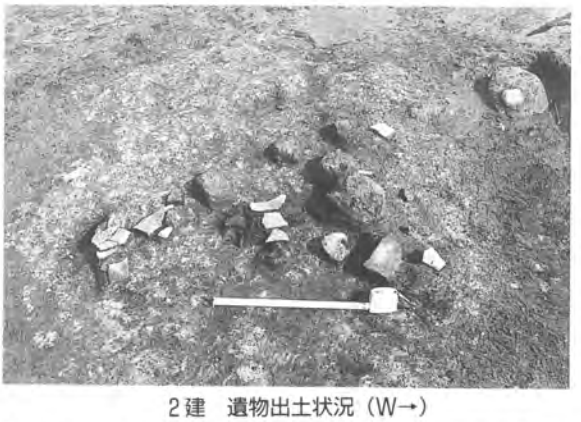
2建　外周溝　礫出土状況［北側］（SW→）

2建　外周溝　セクション（SE→）

2建（左）102建（右）外周溝　セクション（S→）

写真4　第2号・102号建物跡(1)

2建　遺物出土状況（N→）



2建　遺物出土状況（W→）

2建　カマドセクション（N→）

2建　カマド完掘状況（N→）

2建　カマド袖・火床面セクション（N→）

2建　完掘状況（E→）

2建・102建　完掘状況［北側］（E→・空中）

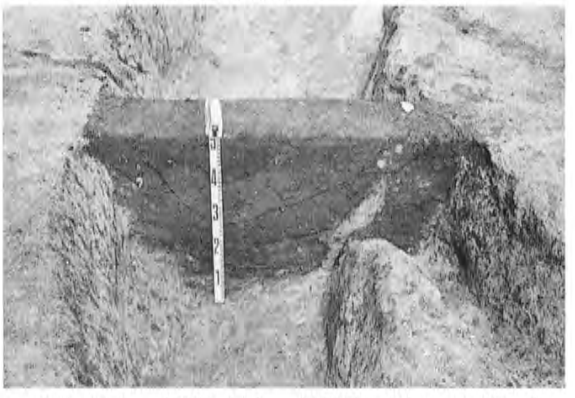
2建・102建　完掘状況［南側］（E→・空中）

写真5　第2号・102号建物跡(2)

3建　遺構確認状況（NW→）

3建　竪穴部分南北セクション（E→）

3建　竪穴部分東西セクション（N→）



3建（左）・103建（右）　外周溝セクション（S→）

3建　礫等出土状況（N→）

3建　床面検出状況（E→）

3建・103建　完掘状況（E→・空中）

103建　完掘状況（E→）

写真6　第3号・103号建物跡

4建　床面検出状況（E→）

4建　完掘状況（E→・空中）

5建　遺構確認状況（SE→）

5建床面検出状況（SE→）

5建　カマド火床面検出状況（N→）

5建　カマド完掘状況（N→）

105建　カマド火床面検出状況（N→）

105建　完掘状況（E→・空中）

写真7　第4号・5号・105号建物跡

6建　遺構確認状況（SW→）

6建・106建　完掘状況（E→空中）

6建　流入ローム検出状況（N→）

6建　竪穴部分南北セクション（E→）

6建　竪穴部分東西セクション（N→）

6建　壁溝検出状況（N→）

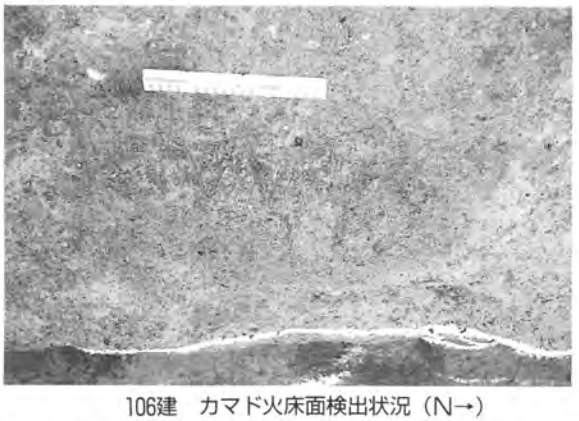
6建　カマド南北セクション（E→）

6建　カマド完掘状況（N→）

写真8　第6号・106号建物跡(1)

6建（左）・106建（右）　外周溝セクション（SE→）

6建・106建　完掘状況（W→）



106建　カマド火床面検出状況（N→）

6建カマド（右）・106建カマド（左）　精査状況（NE→）

8建　遺構確認状況（E→）

8建　床面検出状況（E→）

8建　完掘状況（E→・空中）

8建　柱穴群完掘状況（W→）

写真9　第6号・106号建物跡(2)・第8号建物跡(1)

8建　カマド東西セクション①（N→）

8建　カマド南北セクション（E→）

8建　カマド東西セクション②（N→）

8建　カマド遺物出土状況（N→）

9建　完掘状況（E→・空中）

9建　カマド遺物出土状況（NW→）

9建　カマド完掘状況（N→）

9・109建　完掘状況（E→・空中）

写真10　第8号建物跡(2)・第9号建物跡

第７号　竪穴住居跡東西セクション（N→）

第７号　竪穴住居跡南北セクション（E→）

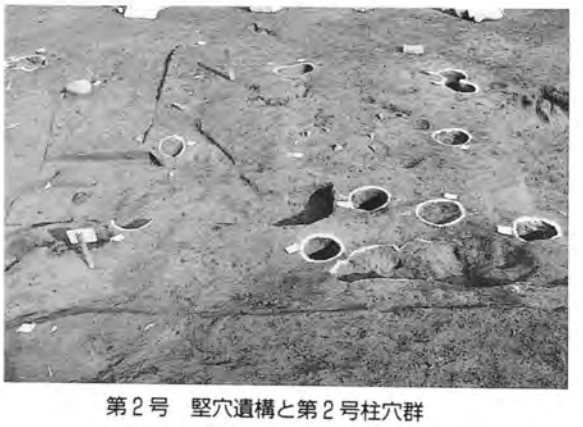
第７号　竪穴住居跡カマド完掘状況（N→）

第７号　竪穴住居跡完掘状況（E→）

掘立柱建物跡付近（SE→）

掘立柱建物跡（E→）

第１号　竪穴遺構完掘状況（E→）

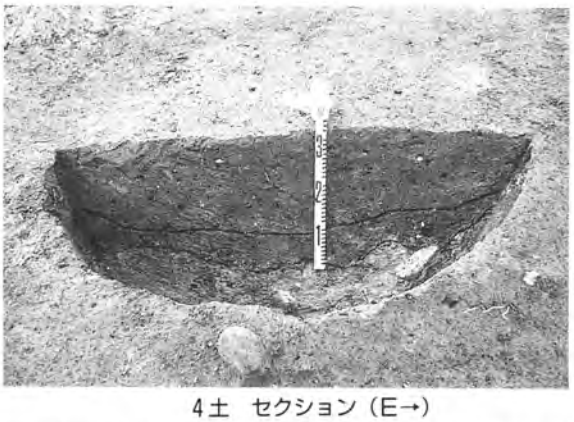


第２号　竪穴遺構と第２号柱穴群

写真11　竪穴住居跡・掘立柱建物跡・竪穴遺構・柱穴群

1土　礫出土状況（N→）

1土　完掘状況（E→）



4土　セクション（E→）

4土　完掘（E→）

5a・5b土、掘立Pit セクション（E→）

5a・5b土、掘立Pit 完掘状況

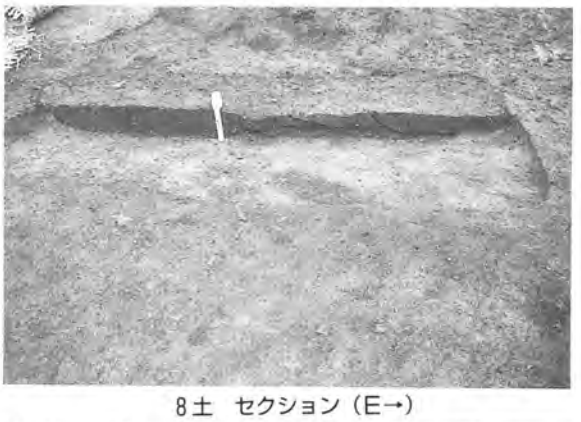
6土　セクション（S→）

6土　完掘状況（E→）

写真12　土坑(1)

7土　セクション（E→）

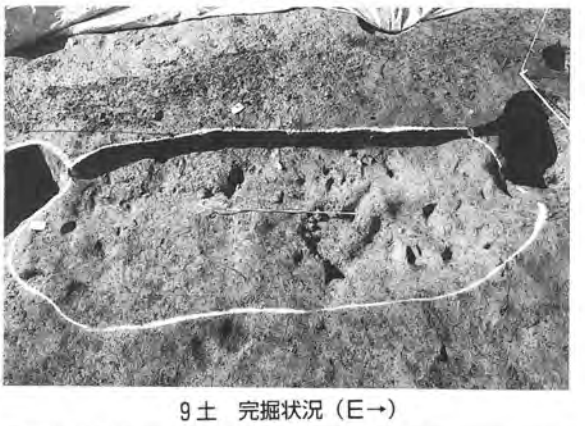
7土、2・3号柱穴完掘状況（E→）



8土　セクション（E→）

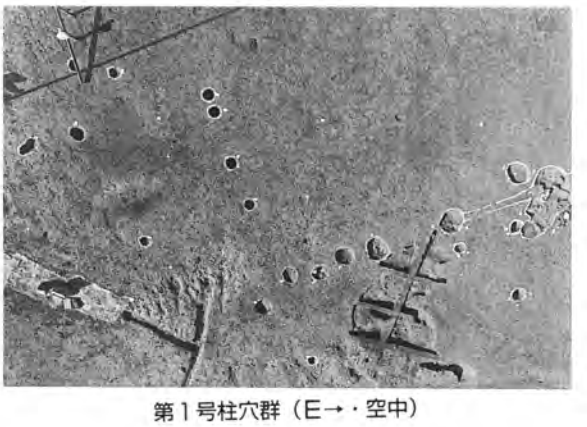
8土　完掘状況（E→）

9土　セクション（N→）



9土　完掘状況（E→）

10土　完掘状況（E→）



第1号柱穴群（E→・空中）

写真13　土坑(2)・柱穴群

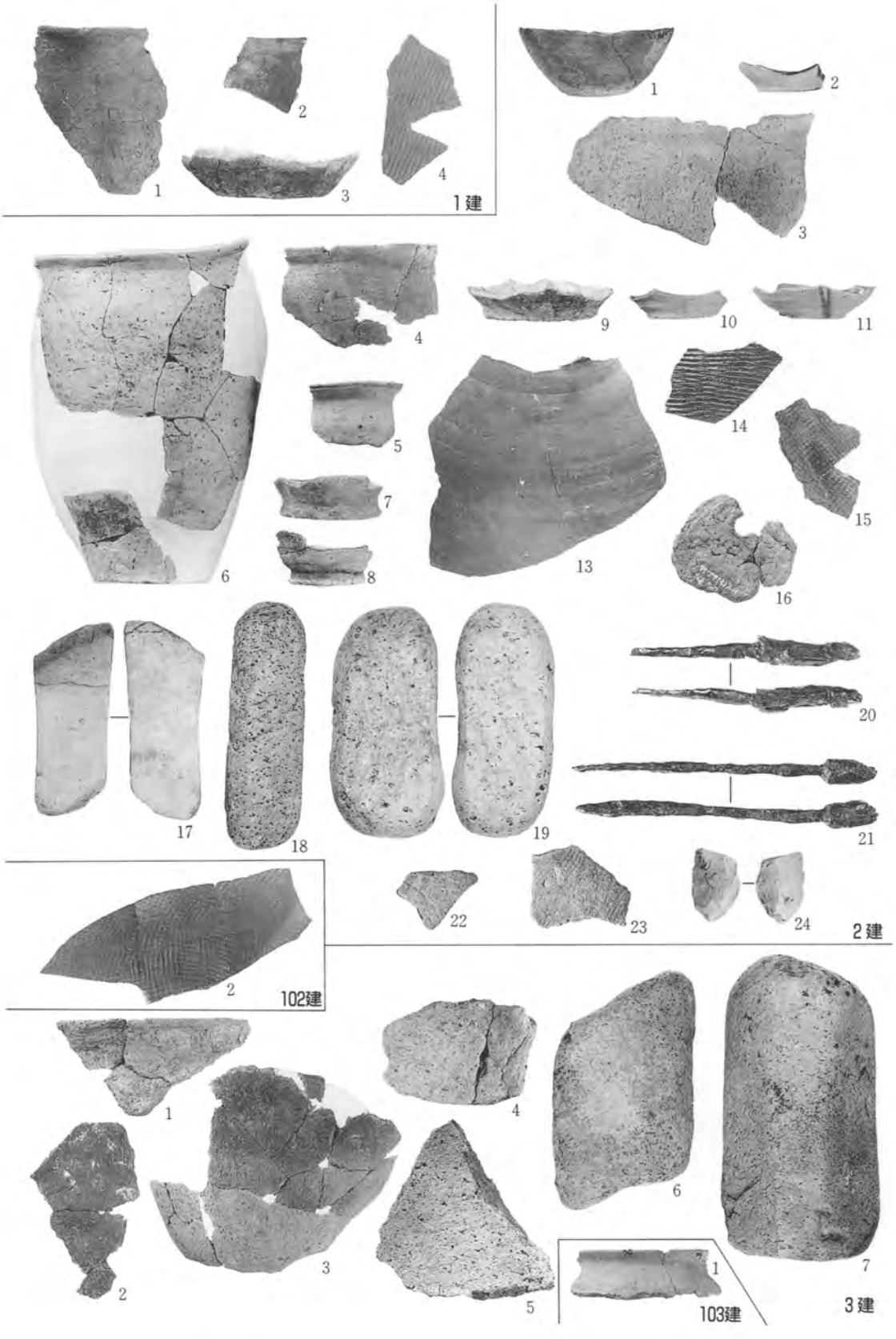


写真14　出土遺物(1)〔1建・2建・102建・3建・103建〕

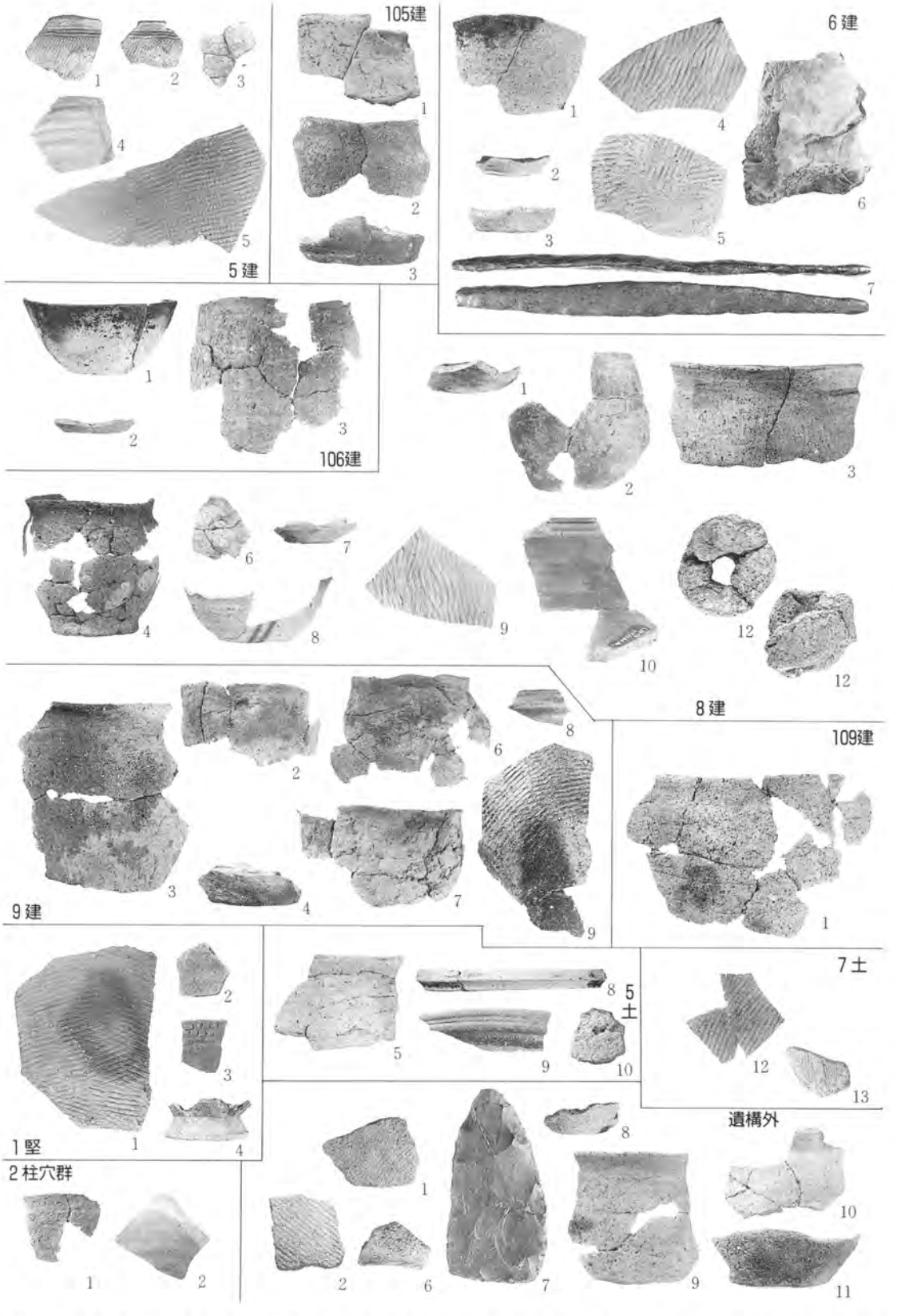


写真15　出土遺物(2)〔5建・105建・6建・106建・8建・9建・109建・1堅・5土・7土・2柱穴群・遺構外〕

報 告 書 抄 録

ふりがな	あさひやま（3）いせき
書名	朝日山（3）遺跡
副書名	東北電力新青森変電所建設工事に伴う遺跡発掘調査報告
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第２１５集
編著者名	奈良岡 淳　神 康夫
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒038 青森県青森市大字新城字天田内152-15　TEL 0177-88-5701
発行年月日	1997（平成９）年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東緯 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
朝日山(3)遺跡	青森市高田字朝日山801、外	02201	01198	40° 42′ 40″	140° 42′ 45″	19950904 ～ 19951031	7,300	東北電力新青森変電所建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝日山(3)遺跡	散布地	縄文時代		縄文土器破片 剝片石器	○平安時代の遺構・遺物が主体を占める。
	集落	平安時代	建物跡　13軒 (拡張前の古い建物跡を含む) 竪穴住居跡　1軒 掘立柱建物跡　1軒 竪穴遺構　2基 土坑　9基 柱穴群　2か所	土師器（甕、壺、坏、甑） 須恵器（甕、壺、坏） 土製品（甑底板、用途不明品） 鉄製品（刀子） 鉄滓・羽口 石製品（砥石） 計　段ボール箱　6箱	○建物跡には以下のものがある。 ・竪穴住居、掘立柱建物、外周溝のセット ・竪穴住居、外周溝のセット これらのうち、拡張のみられるものが5軒ある。 ○建物跡は、地形に沿って意図的に配置されている。

青森県埋蔵文化財調査報告書　第215集

朝日山（３）遺跡

－東北電力新青森変電所建設工事に伴う遺跡発掘調査報告－

発行年月日　1997年３月31日
発　　行　青森県教育委員会
〒030　青森市新町二丁目３番１号
編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038 青森市新城字天田内152-15
電　　話　0177(88)5701
印　　刷　長尾印刷株式会社
〒039-35　青森市平新田字森越17番１号
電　話　0177(26)7121
ＦＡＸ　0177(26)9237